

H27.10.30 現在

「地方創生に関するアンケート調査」 調査結果報告書

平成 27 年 10 月
日野市

第一部	居住意向等に関するアンケート調査	1
第1章	調査の概要	1
第2章	「あなた自身のこと」について.....	2
第3章	「日野市の住みやすさ」について	13
第4章	「日野市の愛着」について	39
第5章	結婚・子育てに対する考え方について	45
第二部	居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）	67
第1章	調査の概要	67
第2章	「あなた自身のこと」について.....	68
第3章	「日野市からの転出時のこと」について	83
第4章	「現在のお住まいの地域」について	94

第一部 居留意向等に関するアンケート調査

第1章 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の定住意向、結婚や子育て等に関する意識やニーズを的確に把握することで、まちづくりに関する課題を把握し、本市の将来展望につなげることを目的としています。

(2) 調査対象・抽出方法

調査対象：日野市に居住する市民 3,000 名を無作為抽出し、調査対象としました。

(3) 調査内容

「日野市の住みやすさ」、「日野市の愛着」、「結婚・子育て」に関する市民の考え方を調査しました。(設問数：17)

(4) 調査方法・調査期間

- ① 調査方法：市民意識調査票を郵送により配布、回収
- ② 調査期間：平成 27 年 7 月下旬～8 月上旬

(5) 回収結果

回収件数：1,011 件（回収率 33.7%）

抽出数 (a)	有効回答数 (b)	有効回答率 (b/a)
3,000 件	1,011 件	33.7%

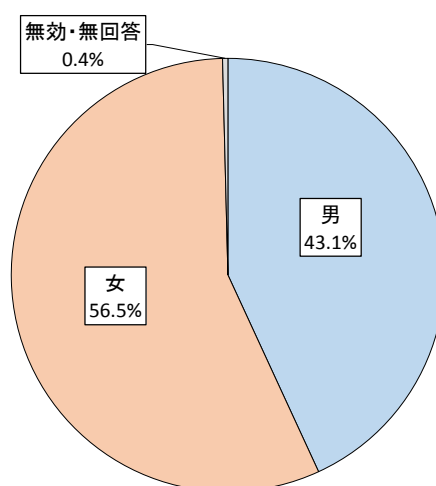
(6) 留意点

- ① 結果は百分率で表示しました。百分率は小数点第 2 位を四捨五入したため、比率の合計が 100%と一致しない場合があります。
- ② 複数回答可の質問の百分率の合計は、100%を超えます。
- ③ 二重回答や判読不能の回答などは、無効としています。
- ④ 各質問のサンプル数は「n =」で表しています。

第2章 「あなた自身のこと」について

(1) 性別

回答者の割合は、「男性」が 43.1%、「女性」が 56.5%となっており、女性の割合が高くなっています。

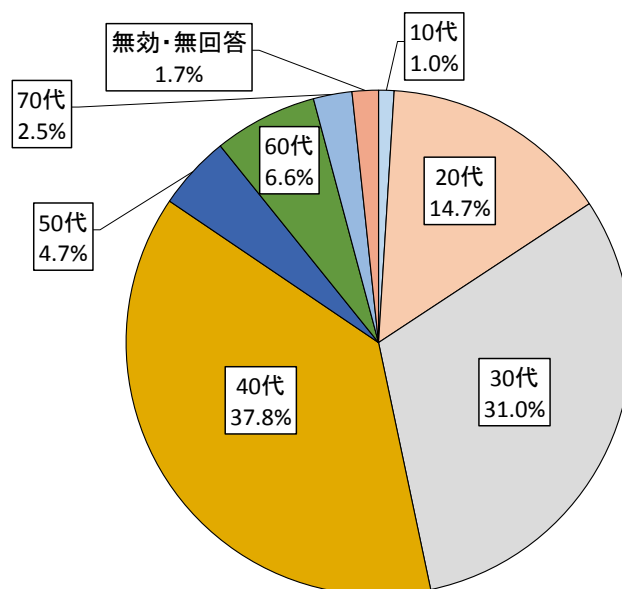


項目	人数	割合
男	436	43.1%
女	571	56.5%
無効・無回答	4	0.4%
合計	1,011	100.0%

(2) 年齢

「40代」(37.8%)が最も多く、次いで「30代」(31.0%)、「20代」(14.7%)と続いています。

30代～40代で回答者全体の7割弱を占めています。

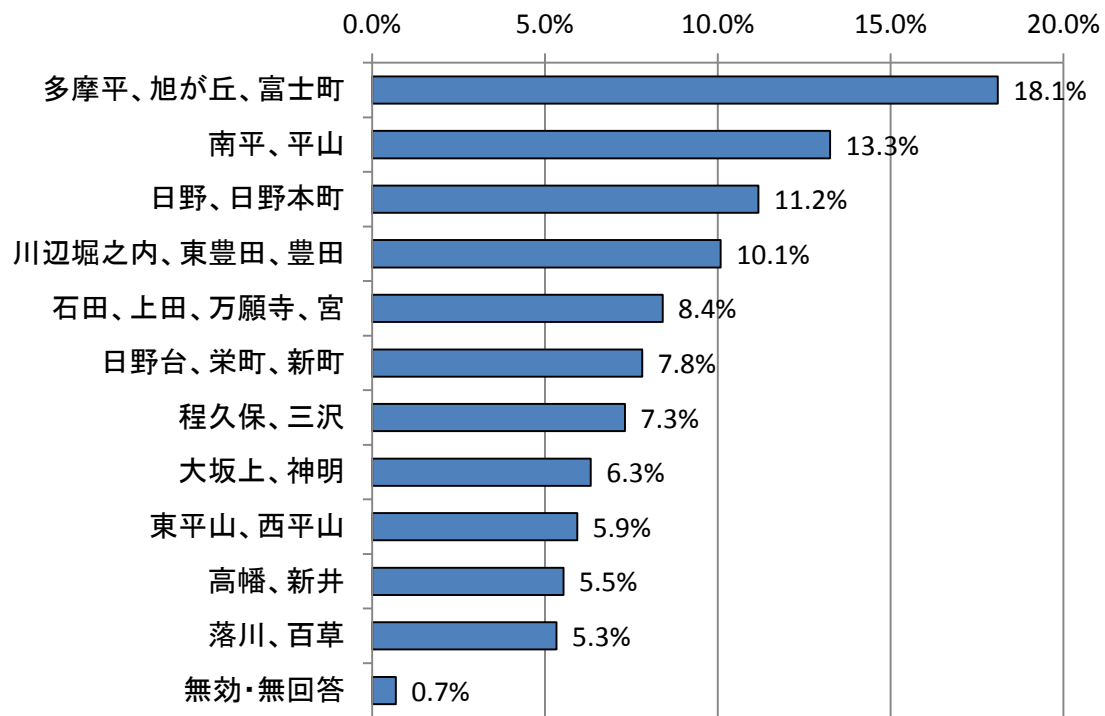


項目	人数	割合
10代	10	1.0%
20代	149	14.7%
30代	313	31.0%
40代	382	37.8%
50代	48	4.7%
60代	67	6.6%
70代	25	2.5%
無効・無回答	17	1.7%
合計	1,011	100.0%

(3) 居住地区

「多摩平、旭が丘、富士町」(18.1%) が最も多く、次いで「南平、平山」(13.3%)、「日野、日野本町」(11.2%) と続いています。

概ねどの地域からもバランスよく回答されています。

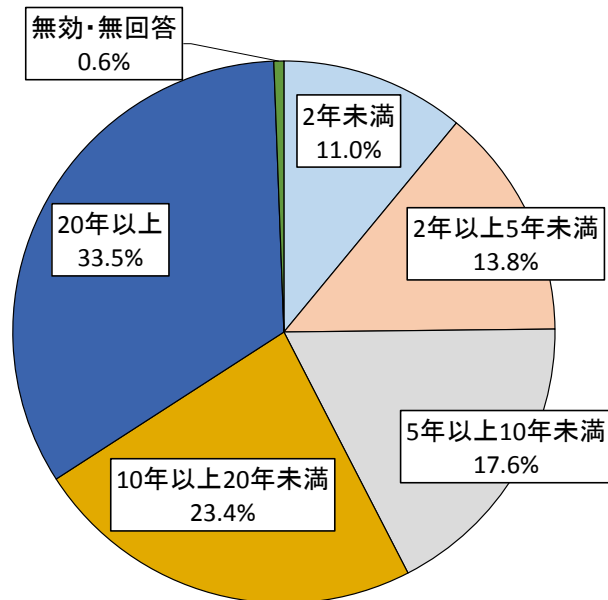


項目	人数	割合
高幡、新井	56	5.5%
落川、百草	54	5.3%
程久保、三沢	74	7.3%
石田、上田、万願寺、宮	85	8.4%
川辺堀之内、東豊田、豊田	102	10.1%
日野、日野本町	113	11.2%
大坂上、神明	64	6.3%
多摩平、旭が丘、富士町	183	18.1%
南平、平山	134	13.3%
東平山、西平山	60	5.9%
日野台、栄町、新町	79	7.8%
無効・無回答	7	0.7%
合計	1,011	100.0%

(4) 居住年数

「20年以上」(33.5%)が最も多く、次いで「10年以上20年未満」(23.4%)、「5年以上10年未満」(17.6%)と続いています。

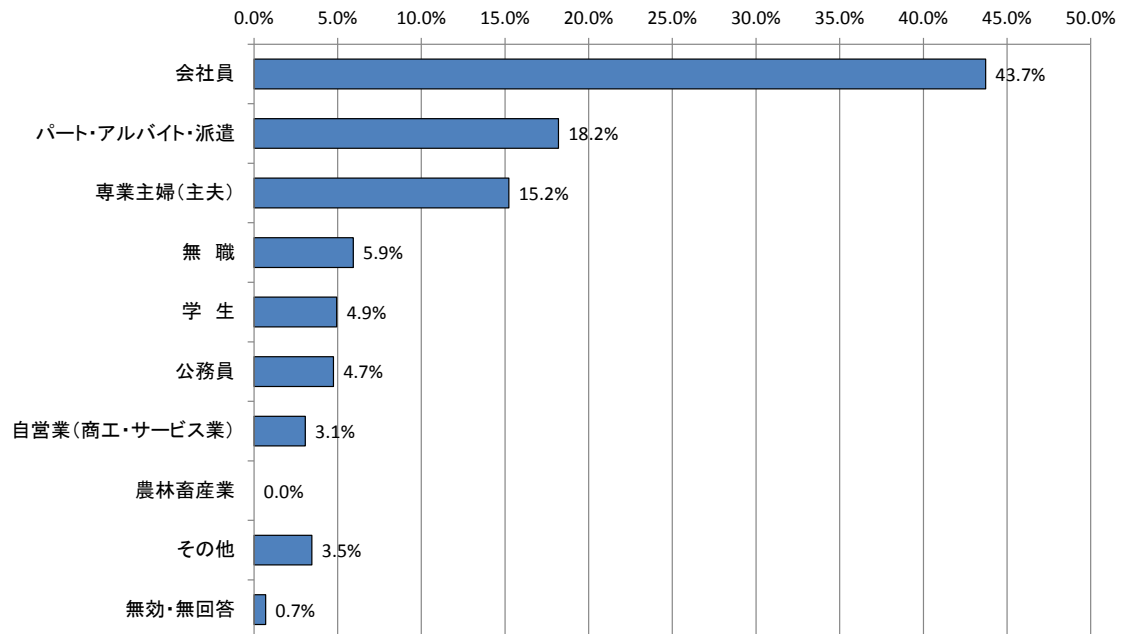
日野市に10年以上居住されている方が回答者の過半数を占めています。



項目	人数	割合
2年未満	111	11.0%
2年以上5年未満	140	13.8%
5年以上10年未満	178	17.6%
10年以上20年未満	237	23.4%
20年以上	339	33.5%
無効・無回答	6	0.6%
合計	1,011	100.0%

(5) 職業

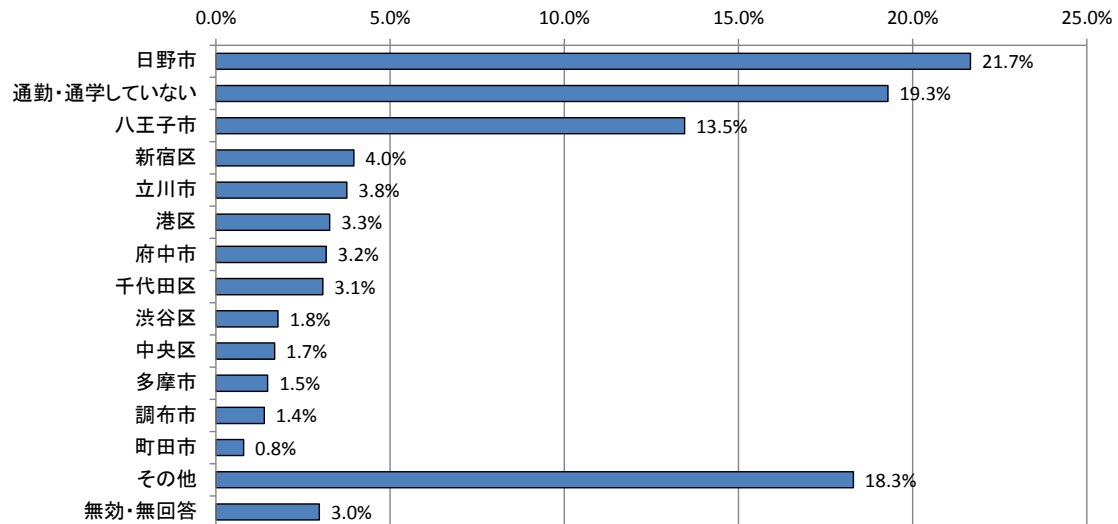
「会社員」(43.7%) が最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣」(18.2%)、「専業主婦(主夫)」(15.2%) と続いています。



項目	人数	割合
農林畜産業	0	0.0%
自営業（商工・サービス業）	31	3.1%
会社員	442	43.7%
公務員	48	4.7%
専業主婦（主夫）	154	15.2%
パート・アルバイト・派遣	184	18.2%
学 生	50	4.9%
無 職	60	5.9%
その他	35	3.5%
無効・無回答	7	0.7%
合計	1,011	100.0%

(6) 通勤・通学地

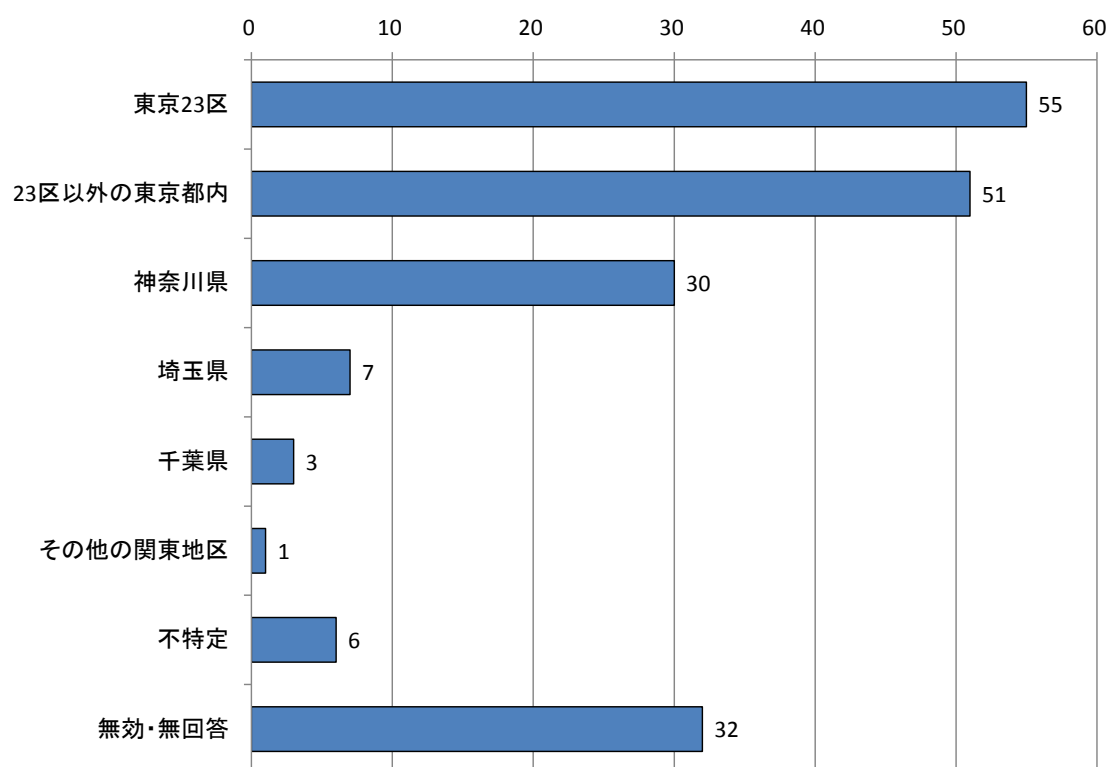
「日野市」(21.7%) が最も多く、次いで「通勤・通学していない」(19.3%)、「八王子市」(13.5%) が続いています。



項目	人数	割合
日野市	219	21.7%
八王子市	136	13.5%
多摩市	15	1.5%
町田市	8	0.8%
調布市	14	1.4%
府中市	32	3.2%
立川市	38	3.8%
新宿区	40	4.0%
千代田区	31	3.1%
港区	33	3.3%
渋谷区	18	1.8%
中央区	17	1.7%
その他	185	18.3%
通勤・通学していない	195	19.3%
無効・無回答	30	3.0%
合計	1,011	100.0%

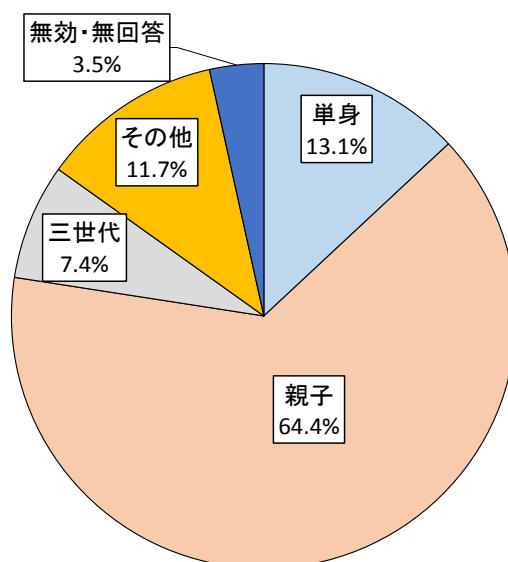
【その他の内訳】

「その他」(18.3%) の中でも、世田谷区、杉並区等の「東京 23 区」(55 件)、武蔵野市、昭島市等の「23 区以外の東京都内」(51 件) へ通勤されている方が回答されています。



(7) 家族構成

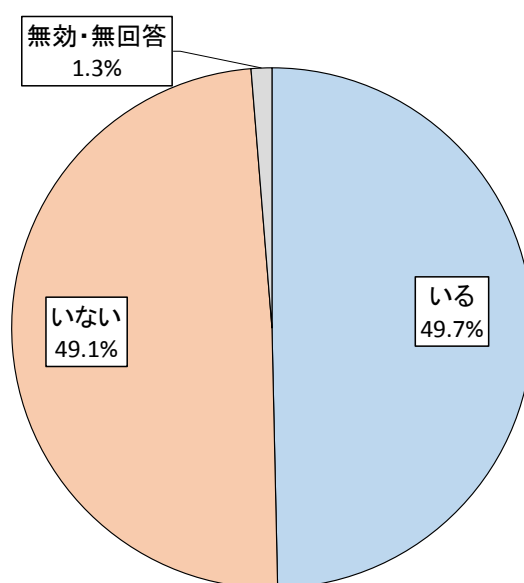
「親子」(64.4%) が最も多く、次いで「単身」(13.1%)、「三世代」(7.4%) が続いています。



項目	人数	割合
単身	132	13.1%
親子	651	64.4%
三世代	75	7.4%
その他	118	11.7%
無効・無回答	35	3.5%
合計	1,011	100.0%

(8) 養育中のこども

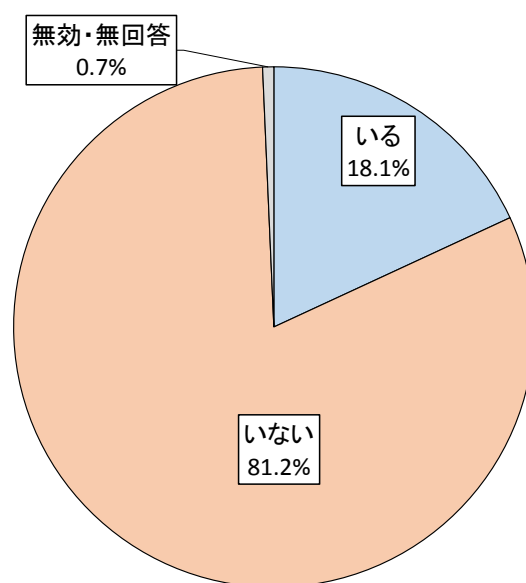
養育中のこどもが「いる」という方が 49.7%、「いない」という方が 49.1%となっており、
ほぼ半数ずつの割合となっています。



項目	人数	割合
いる	502	49.7%
いない	496	49.1%
無効・無回答	13	1.3%
合計	1,011	100.0%

(9) 同居家族に65歳以上の高齢者がいるか

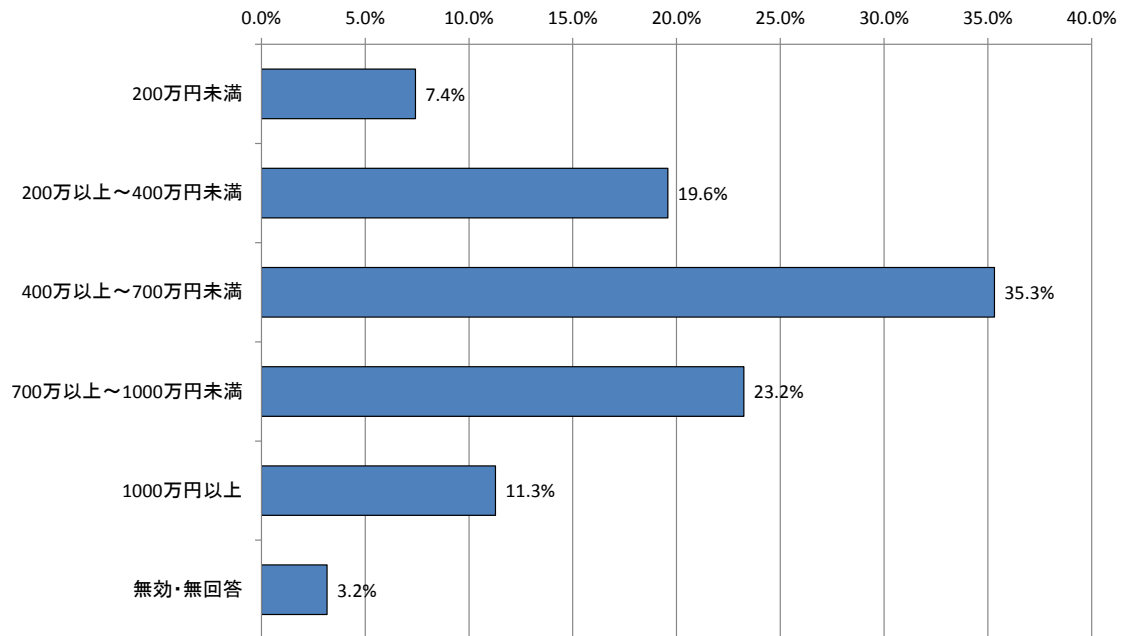
65歳以上の高齢者が「いない」という方が81.2%、「いる」という方が18.1%となっており、回答者の2割弱の家庭には65歳以上の高齢者がいることがわかります。



項目	人数	割合
いる	183	18.1%
いない	821	81.2%
無効・無回答	7	0.7%
合計	1,011	100.0%

(10) 世帯年収

「400 万以上～700 万円未満」(35.3%) が最も多く、次いで「700 万以上～1000 万円未満」(23.2%) と続いています。



項目	人数	割合
200万円未満	75	7.4%
200万以上～400万円未満	198	19.6%
400万以上～700万円未満	357	35.3%
700万以上～1000万円未満	235	23.2%
1000万円以上	114	11.3%
無効・無回答	32	3.2%
合計	1,011	100.0%

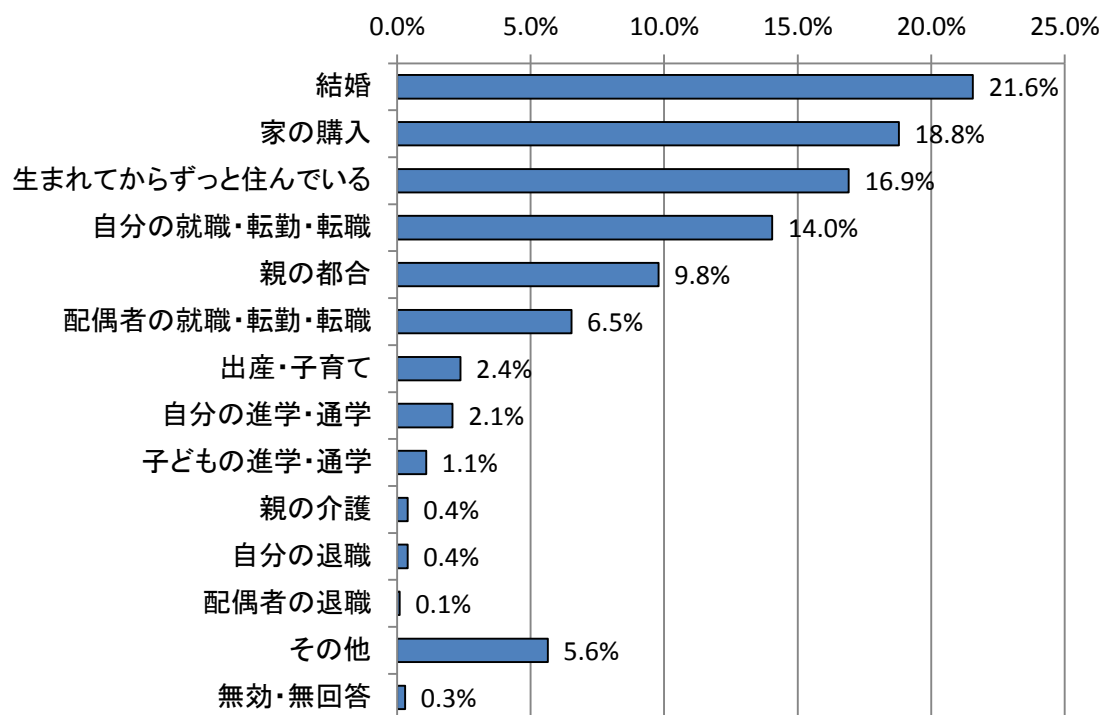
第3章 「日野市の住みやすさ」について

問1 何をきっかけに日野市に住んでいますか？

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「結婚」(21.6%) が最も多く、次いで「家の購入」(18.8%)、「生まれてからずっと住んでいる」(16.9%)が続いています。

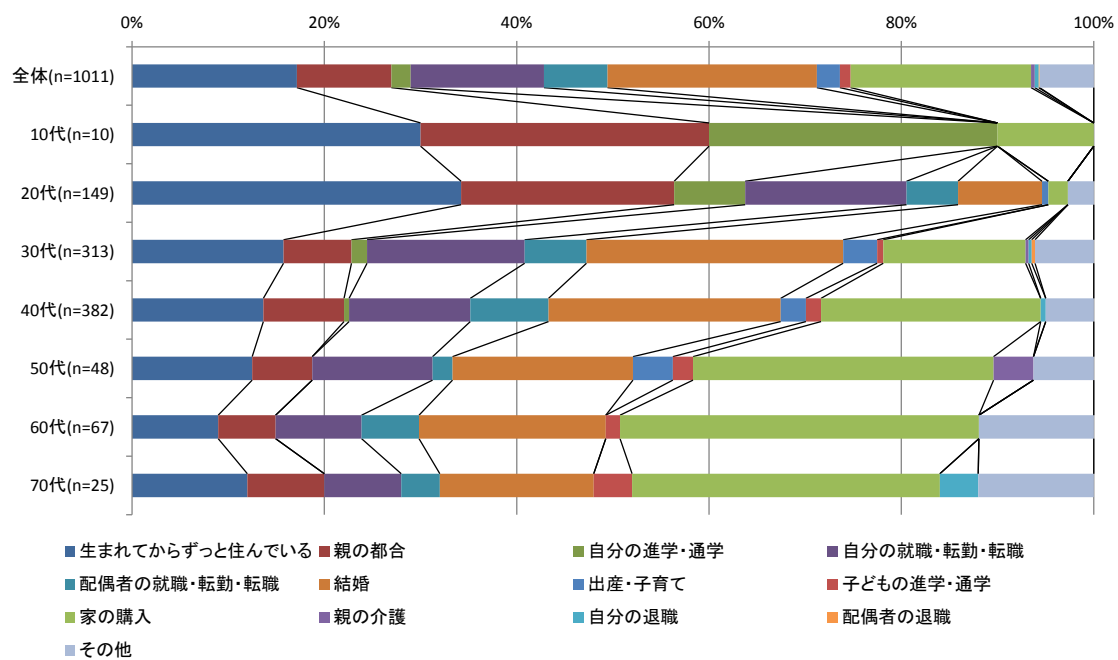


選択肢	回答数	割合
結婚	218	21.6%
家の購入	190	18.8%
生まれてからずっと住んでいる	171	16.9%
自分の就職・転勤・転職	142	14.0%
親の都合	99	9.8%
配偶者の就職・転勤・転職	66	6.5%
出産・子育て	24	2.4%
自分の進学・通学	21	2.1%
子どもの進学・通学	11	1.1%
親の介護	4	0.4%
自分の退職	4	0.4%
配偶者の退職	1	0.1%
その他	57	5.6%
無効・無回答	3	0.3%
回答者数	1,011	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

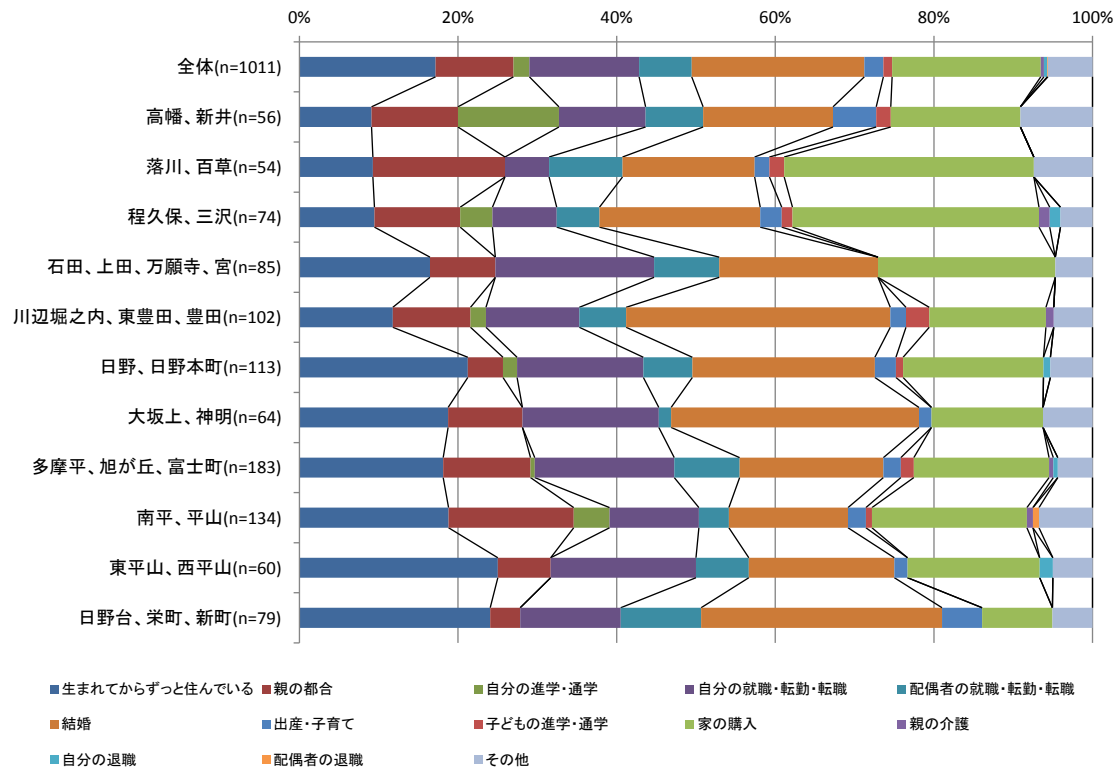
10代から20代では、「生まれてからずっと住んでいる」という回答の割合が多く、それぞれ30.0%、34.2%となっています。一方、年代が高くなると、「結婚」、「家の購入」という回答の割合が多くなり、30代では「結婚」が26.5%、40代では24.1%となっています。また、60代では「家の購入」が37.3%、70代では32.0%となっています。



(ロ) 居住地区別

川辺堀之内、東豊田、豊田地区では、「結婚」という回答が 33.3%となり、また、落川、百草地区では、「家の購入」が 31.5%となっています。

どの地区においても、「家の購入」、「結婚」という回答が多い傾向にあります。



《問１で、「生まれてからずっと住んでいる」及び「親の都合」以外を選択した方にお伺いします。》

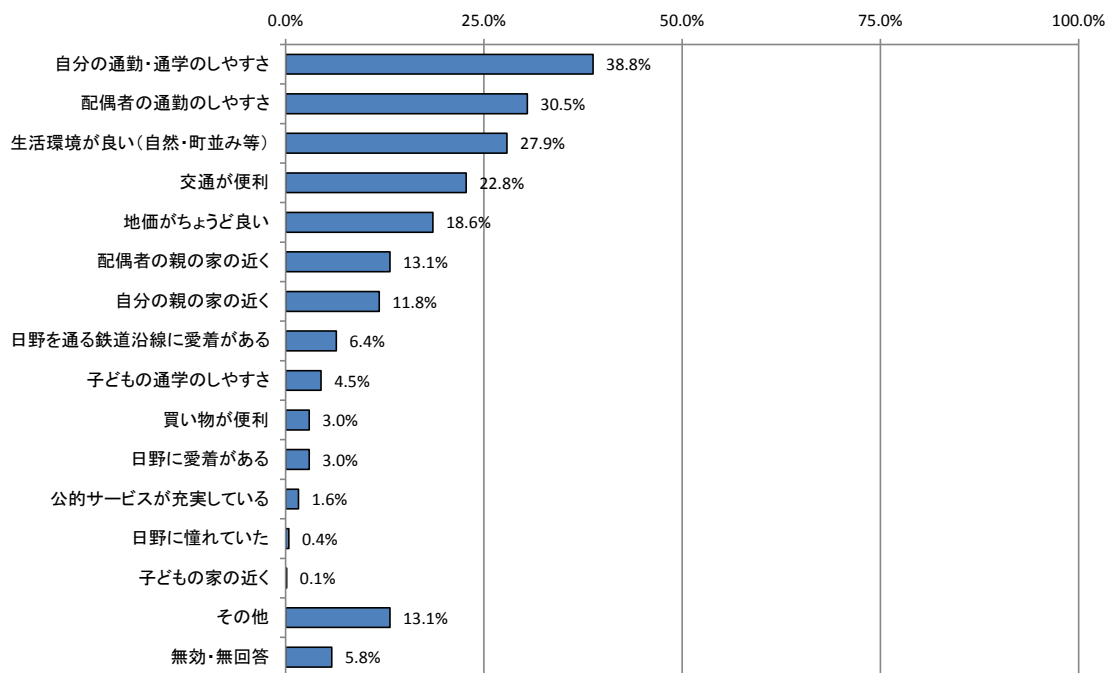
問２ 日野市を選んだ理由は何ですか？

あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「自分の通勤・通学のしやすさ」が 38.8%で最も多く、次いで「配偶者の通勤のしやすさ」(30.5%)、「生活環境が良い(自然・町並み等)」(27.9%)と続いています。

通勤・通学の利便性の他、自然環境等の良さが日野市を居住地とするメリットと考えている方が多いことがわかります。



選択肢	回答数	割合
自分の通勤・通学のしやすさ	286	38.8%
配偶者の通勤のしやすさ	225	30.5%
生活環境が良い（自然・町並み等）	206	27.9%
交通が便利	168	22.8%
地価がちょうど良い	137	18.6%
配偶者の親の家の近く	97	13.1%
自分の親の家の近く	87	11.8%
日野を通る鉄道沿線に愛着がある	47	6.4%

選択肢	回答数	割合
子どもの通学のしやすさ	33	4.5%
買い物が便利	22	3.0%
日野に愛着がある	22	3.0%
公的サービスが充実している	12	1.6%
日野に憧れていた	3	0.4%
子どもの家の近く	1	0.1%
その他	97	13.1%
無効・無回答	43	5.8%
回答者数	738	—

②属性別集計

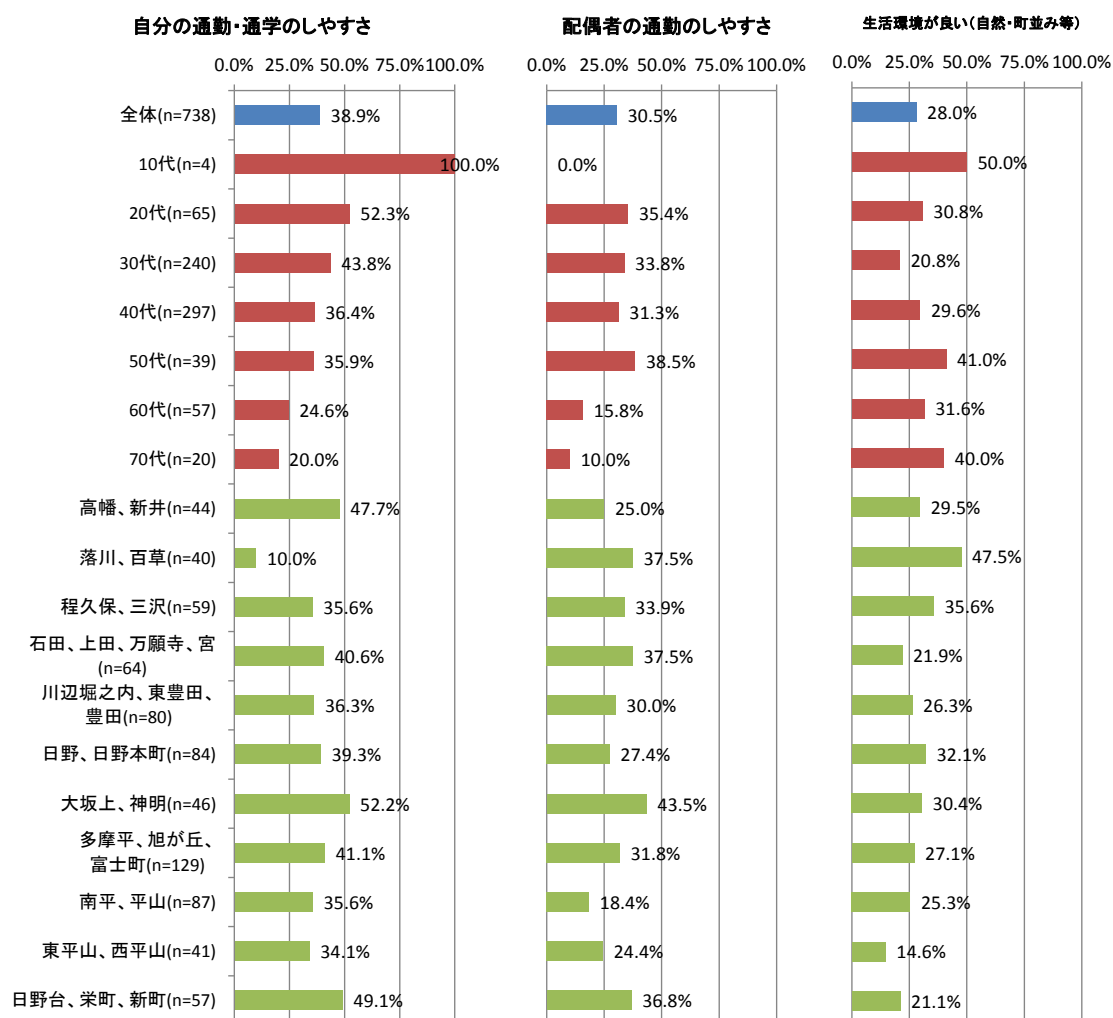
(イ) 年齢別

若い世代では「自分の通勤・通学のしやすさ」が最も高く、10代では100.0%の方が回答しています。一方、年代が高くなると「生活環境が良い（自然・町並み等）」という回答が多くなり、70代では40.0%となっています。

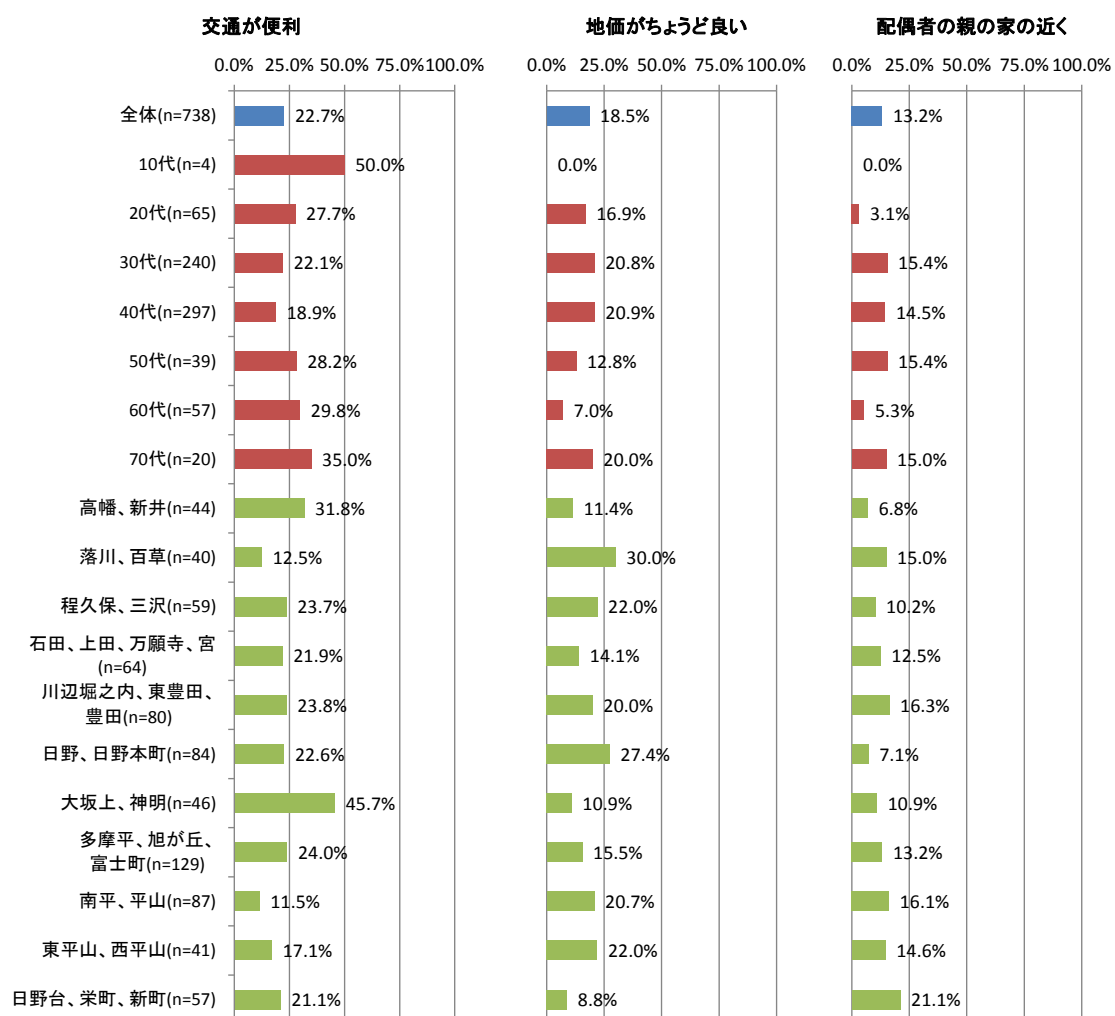
(ロ) 居住地区別

多くの地区で「自分の通勤・通学のしやすさ」という回答が多く、高幡、新井地区では47.7%となっています。一方、落川・百草地区、程久保・三沢地区では「生活環境が良い（自然・町並み等）」という回答が多く、落川・百草地区では47.5%となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問2）



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 2：つづき）



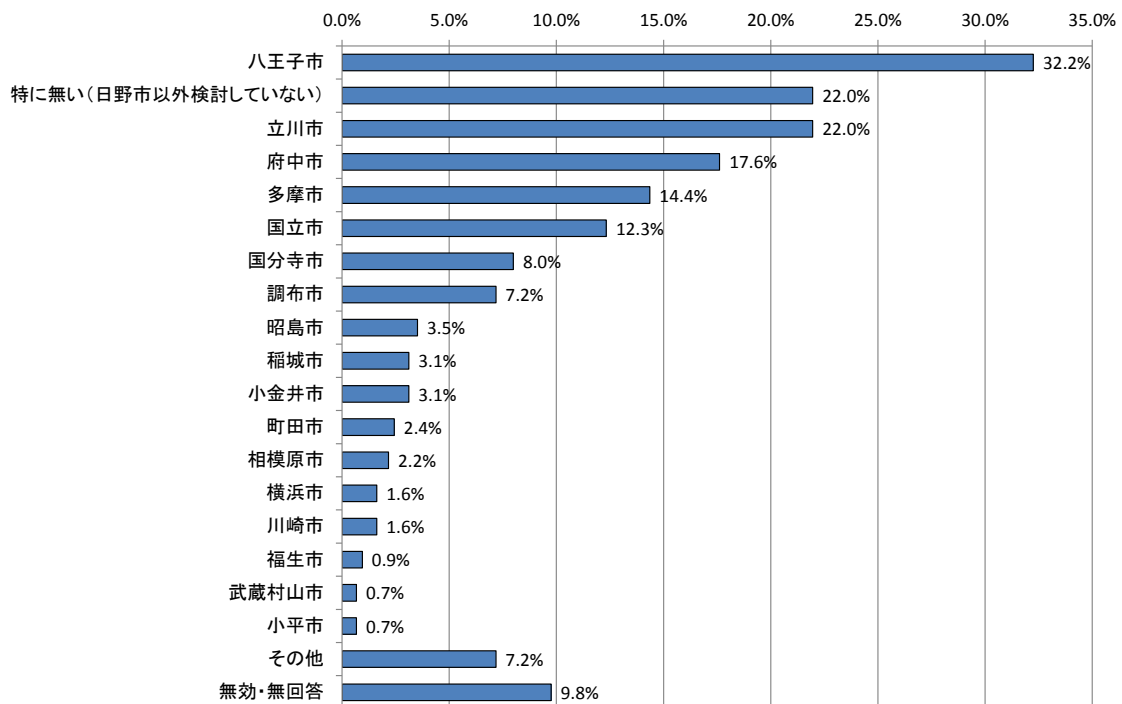
《問1で、「生まれてからずっと住んでいる」及び「親の都合」以外を選択した方にお伺いします。》

問3 日野市に決めるまで、日野市以外に検討した市町村があれば教えてください。

あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「八王子市」を検討した人が最も多く（32.2%）、次いで「特に無い（日野市以外検討していない）」（22.0%）及び「立川市」（22.0%）が続いています。



選択肢	回答数	割合
八王子市	238	32.2%
特に無い（日野市以外検討していない）	162	22.0%
立川市	162	22.0%
府中市	130	17.6%
多摩市	106	14.4%
国立市	91	12.3%
国分寺市	59	8.0%
調布市	53	7.2%
昭島市	26	3.5%
稲城市	23	3.1%

選択肢	回答数	割合
小金井市	23	3.1%
町田市	18	2.4%
相模原市	16	2.2%
横浜市	12	1.6%
川崎市	12	1.6%
福生市	7	0.9%
武蔵村山市	5	0.7%
小平市	5	0.7%
その他	53	7.2%
無効・無回答	72	9.8%
回答者数	738	—

②属性別集計

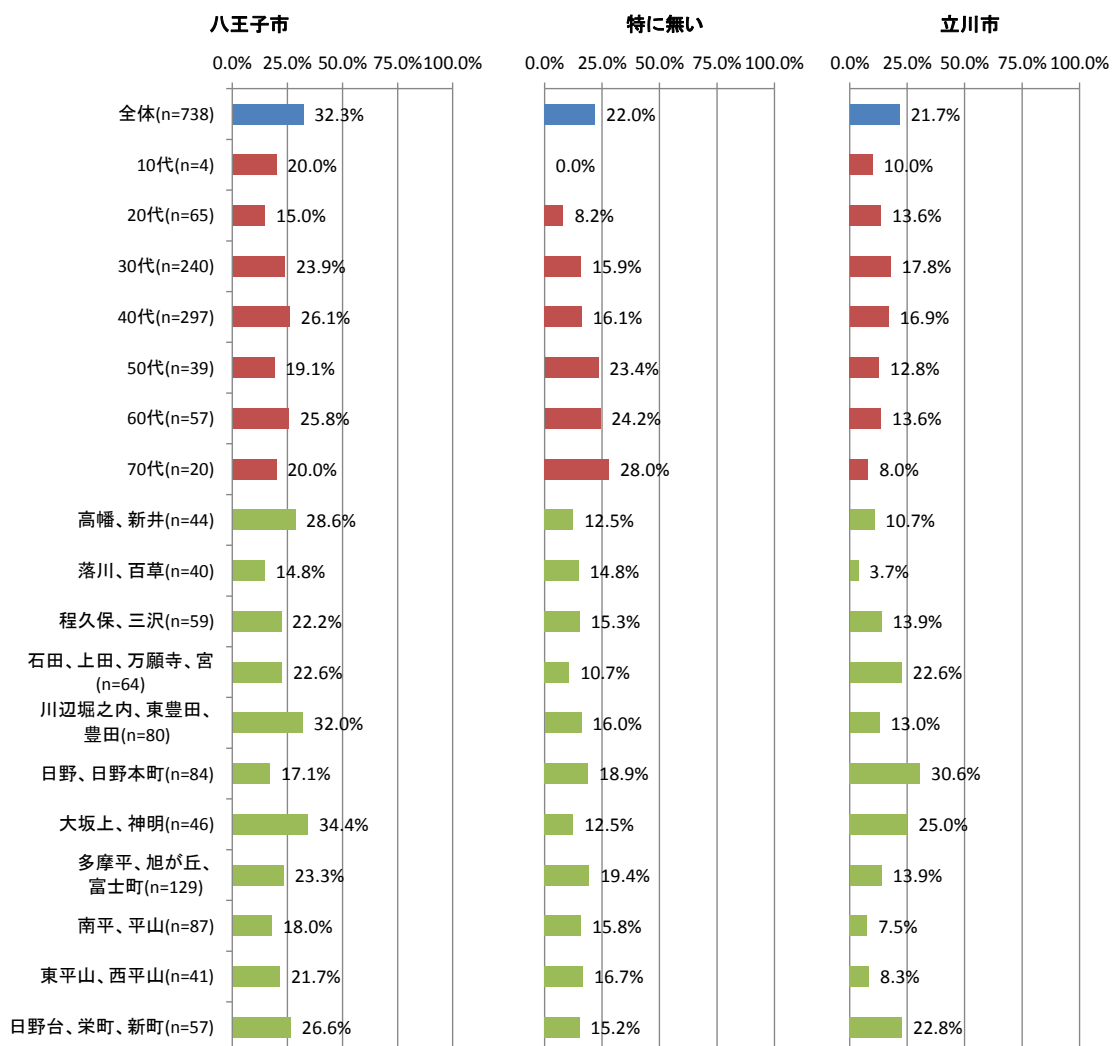
(イ) 年齢別

10代から40代及び60代では「八王子市」という回答が最も多く、40代では26.1%となっています。一方で、50代及び70代では「特に無い（日野市以外検討していない）」という回答が最も多く、70代では28.0%となっています。

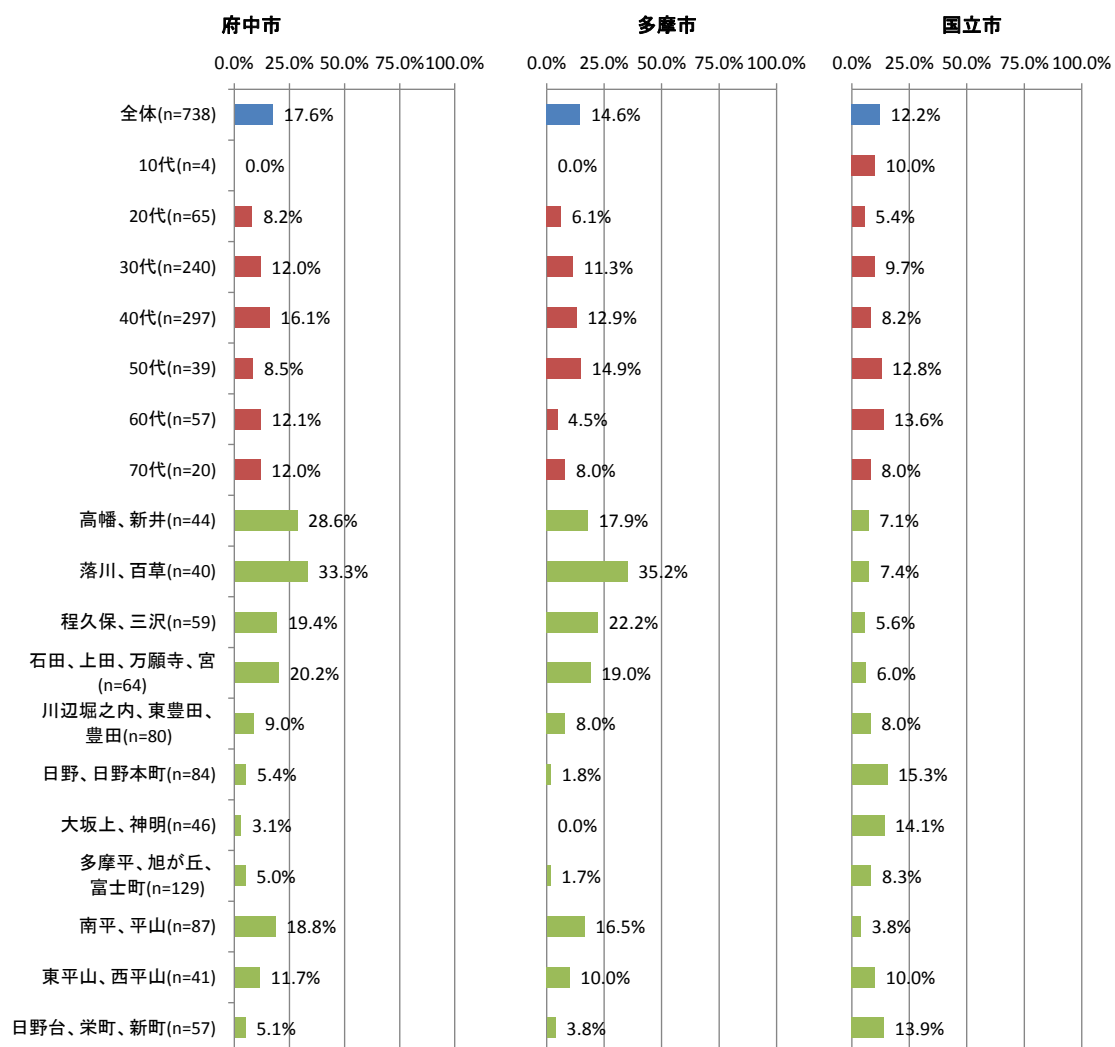
(ロ) 居住地区別

多くの地区で「八王子市」という回答が最も多く、大坂上、神明地区では34.4%となっています。一方で、日野、日野本町地区では「立川市」という回答が最も多く、30.6%となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問3）



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 3：つづき）



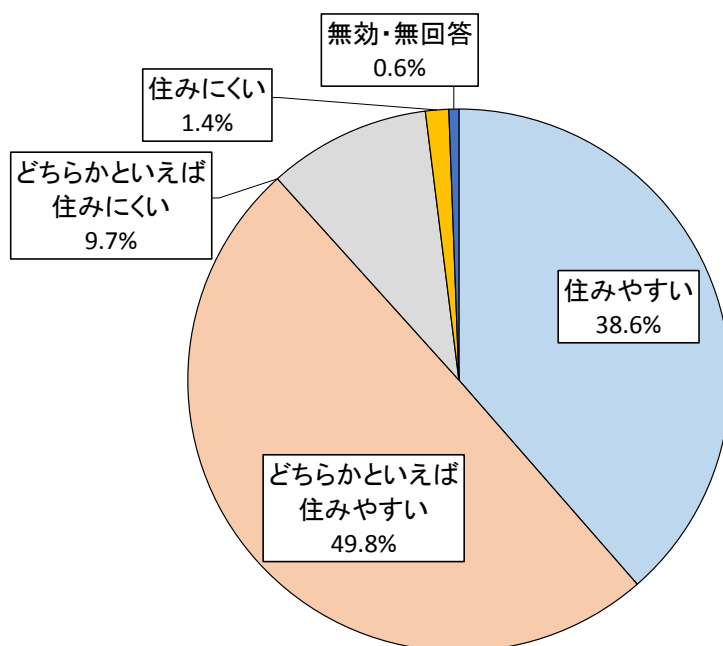
問4 日野市の住みやすさについてどう思われますか？

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「どちらかといえば住みやすい」という回答が最も多く、49.8%となっています。次いで「住みやすい」(38.6%)が続いています。

「住みやすい」及び「どちらかといえば住みやすい」という回答を合わせると、9割弱の方が住みやすいと感じていることがわかります。



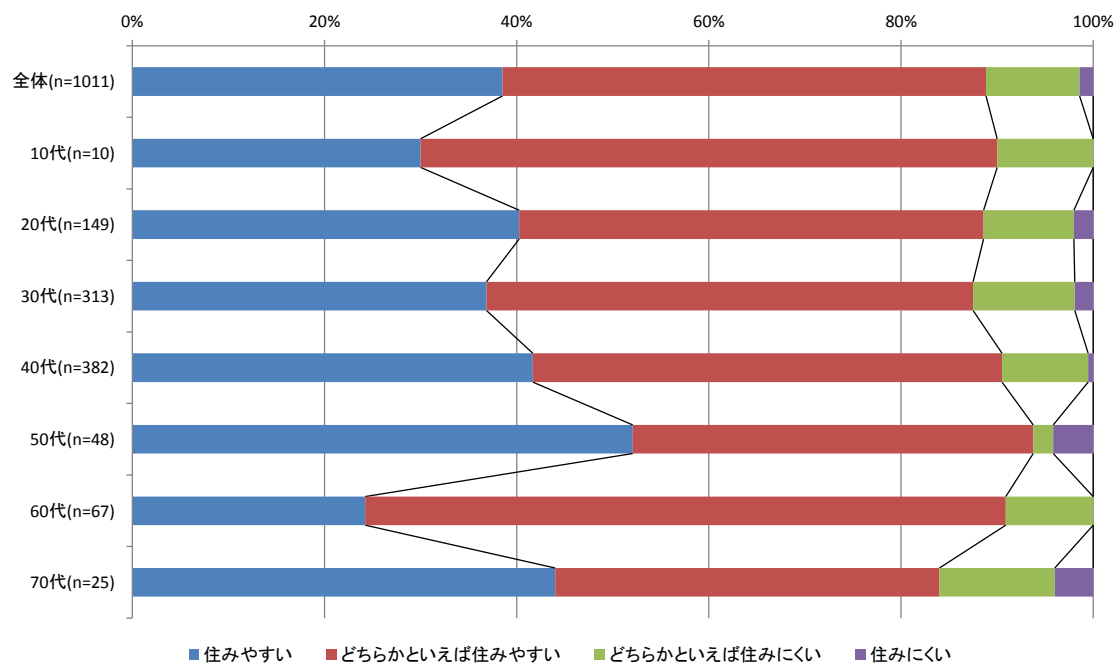
選択肢	回答数	割合
住みやすい	390	38.6%
どちらかといえば住みやすい	503	49.8%
どちらかといえば住みにくい	98	9.7%
住みにくい	14	1.4%
無効・無回答	6	0.6%
回答者数	1,011	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

50代では「住みやすい」という回答が5割を超えており、年代の若い人は他の年代に比べて「住みやすい」という回答が少ない傾向にあります。

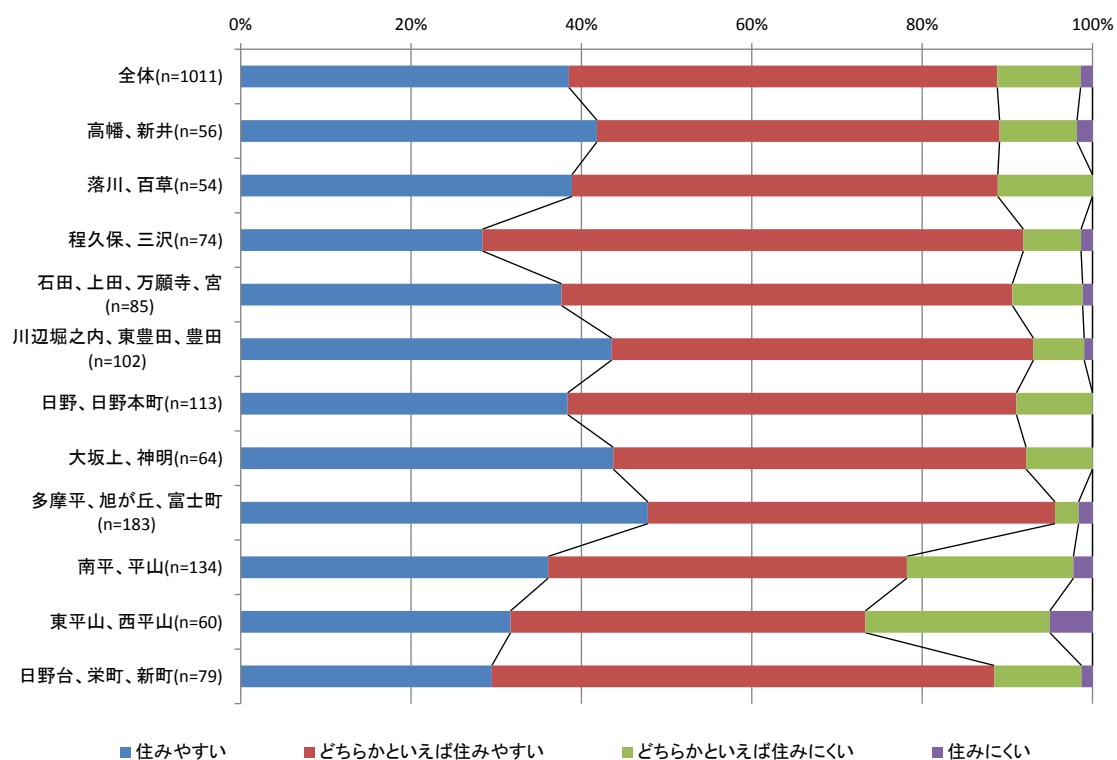
「住みやすい」及び「どちらかといえば住みやすい」という回答を合わせると、どの年代でも9割程度が住みやすいと感じていることがわかります。



(ロ) 居住地区別

南平、平山地区、東平山・西平山地区では「住みやすい」及び「どちらかといえば住みやすい」という回答の合計が8割を下回っています。

その他の地区では、どの地区でも回答結果の傾向に大きな相違はありません。

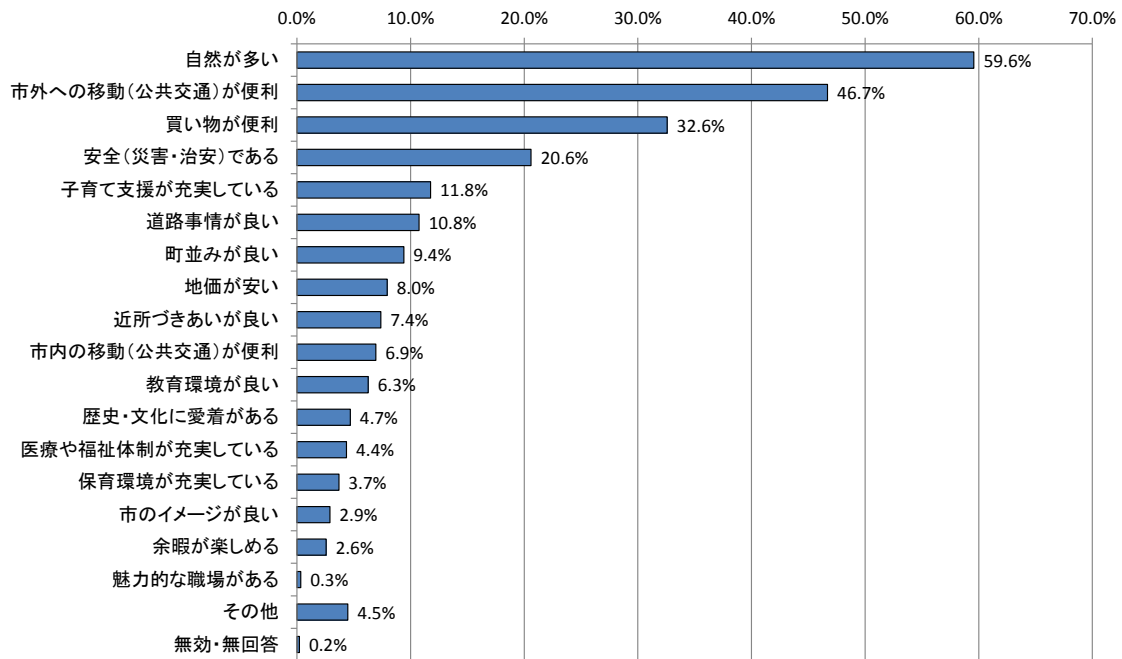


問5-1 「日野市が住みやすい」と感じる理由は何ですか？

あてはまる番号を3つまで選んで番号に○をつけてください。

①全体集計

「自然が多い」(59.6%)という回答が最も多く、次いで「市外への移動(公共交通)が便利」(46.7%)、「買い物が便利」(32.6%)と続いています。



選択肢	回答数	割合
自然が多い	532	59.6%
市外への移動（公共交通）が便利	417	46.7%
買い物が便利	291	32.6%
安全（災害・治安）である	184	20.6%
子育て支援が充実している	105	11.8%
道路事情が良い	96	10.8%
町並みが良い	84	9.4%
地価が安い	71	8.0%
近所づきあいが良い	66	7.4%
市内の移動（公共交通）が便利	62	6.9%

選択肢	回答数	割合
教育環境が良い	56	6.3%
歴史・文化に愛着がある	42	4.7%
医療や福祉体制が充実している	39	4.4%
保育環境が充実している	33	3.7%
市のイメージが良い	26	2.9%
余暇が楽しめる	23	2.6%
魅力的な職場がある	3	0.3%
その他	40	4.5%
無効・無回答	2	0.2%
回答者数	893	—

②属性別集計

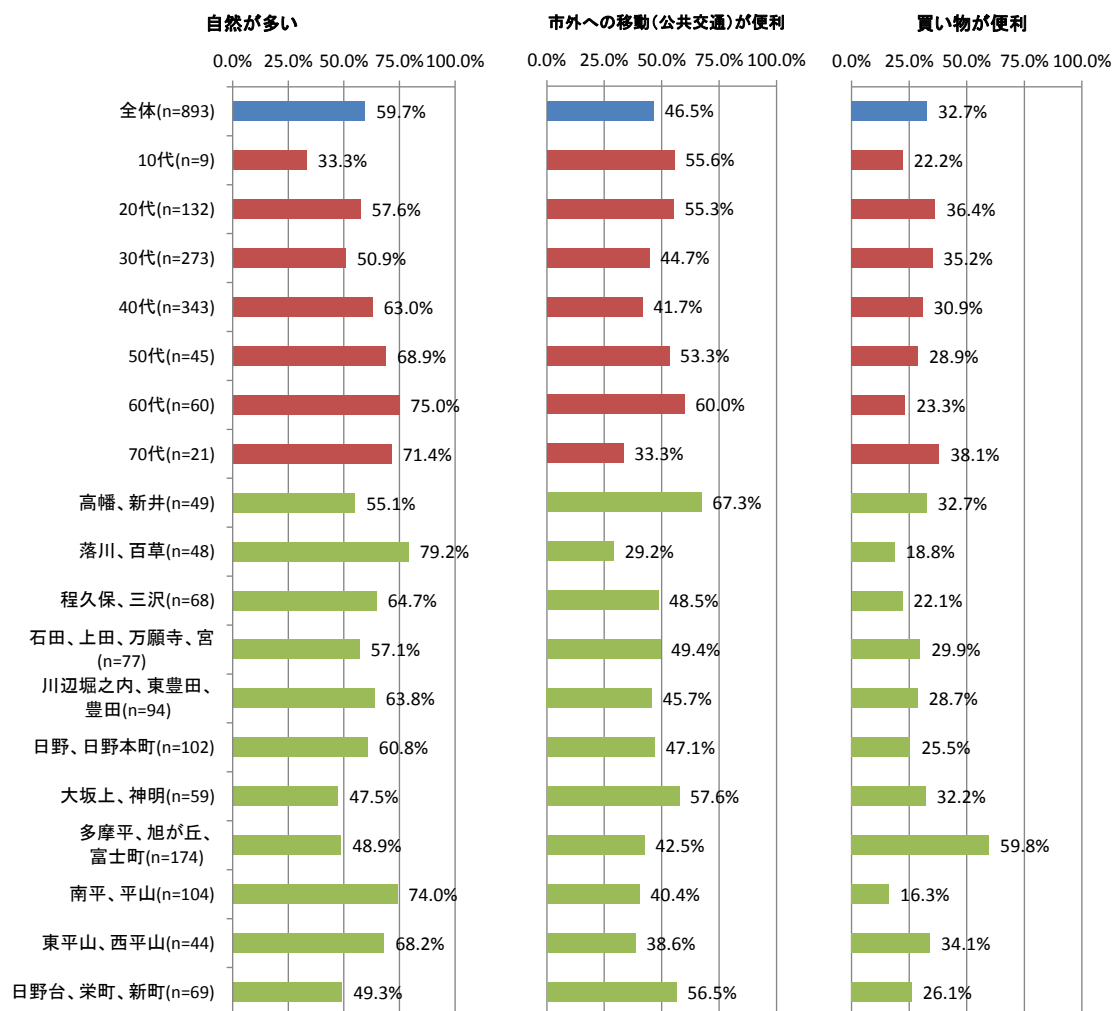
(イ) 年齢別

10代では、「市外への移動（公共交通）が便利」（55.6%）という回答が最も多く、それ以外の年代では、「自然が多い」という回答が最も多くなっています。

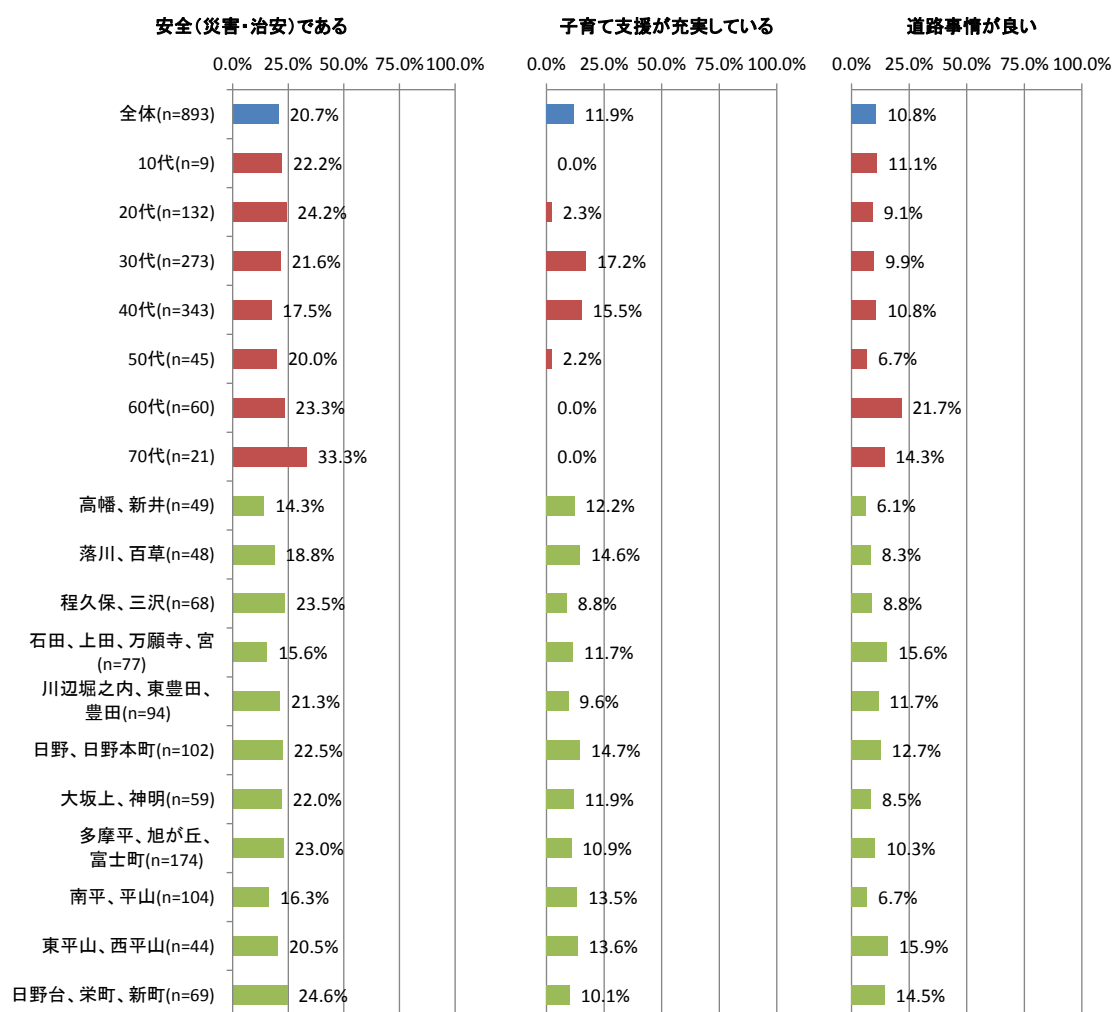
(ロ) 居住地区別

高幡・新井地区、大坂上・神明地区、多摩平、旭が丘・富士町地区、日野台・栄町・新町地区以外の多くの地区で、「自然が多い」という回答が最も多くなっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 5－1）



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 5－1：つづき）



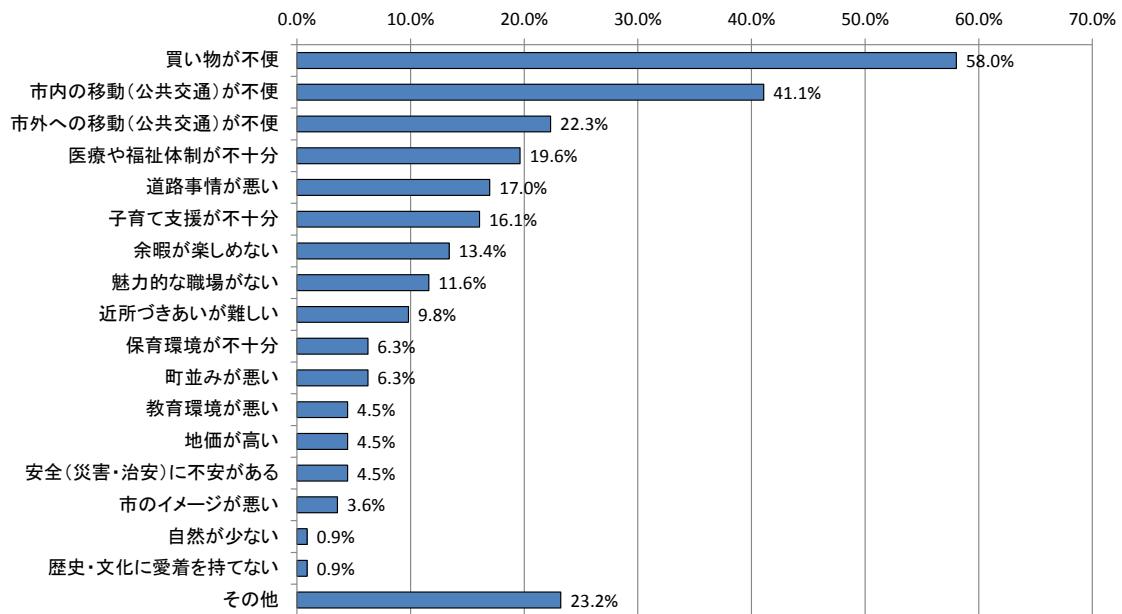
問5-2 「日野市が住みにくい」と感じる理由は何ですか？

あてはまる番号を3つまで選んで番号に○をつけてください。

①全体集計

「買い物が不便」(58.0%)という回答が最も多く、次いで「市内の移動（公共交通）が不便」(41.1%)、「市外への移動（公共交通）が不便」(22.3%)と続いています。

買い物へのアクセスや交通手段など、日常生活の利便性に住みにくさを感じている方が多いことがわかります。



選択肢	回答数	割合
買い物が不便	65	58.0%
市内の移動（公共交通）が不便	46	41.1%
市外への移動（公共交通）が不便	25	22.3%
医療や福祉体制が不十分	22	19.6%
道路事情が悪い	19	17.0%
子育て支援が不十分	18	16.1%
余暇が楽しめない	15	13.4%
魅力的な職場がない	13	11.6%
近所づきあいが難しい	11	9.8%

選択肢	回答数	割合
保育環境が不十分	7	6.3%
町並みが悪い	7	6.3%
教育環境が悪い	5	4.5%
地価が高い	5	4.5%
安全（災害・治安）に不安がある	5	4.5%
市のイメージが悪い	4	3.6%
自然が少ない	1	0.9%
歴史・文化に愛着を持ってない	1	0.9%
その他	26	23.2%
回答者数	112	—

第一部 居住意向に関するアンケート調査

②属性別集計

(イ) 年齢別

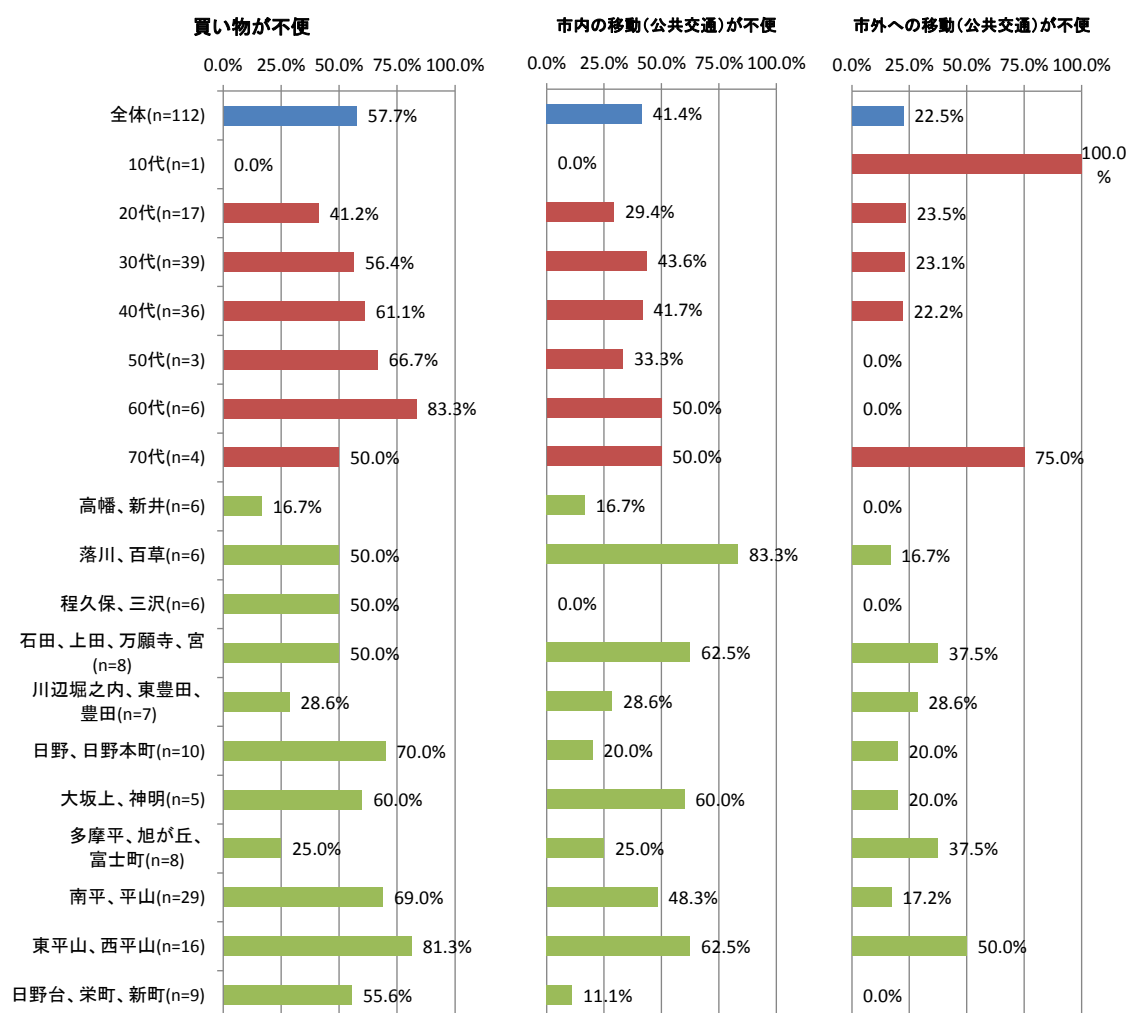
多くの年代で「買い物が不便」という回答が最も多くなっています。年齢別では、全体集計の結果と同様の傾向となりました。

(ロ) 居住地区別

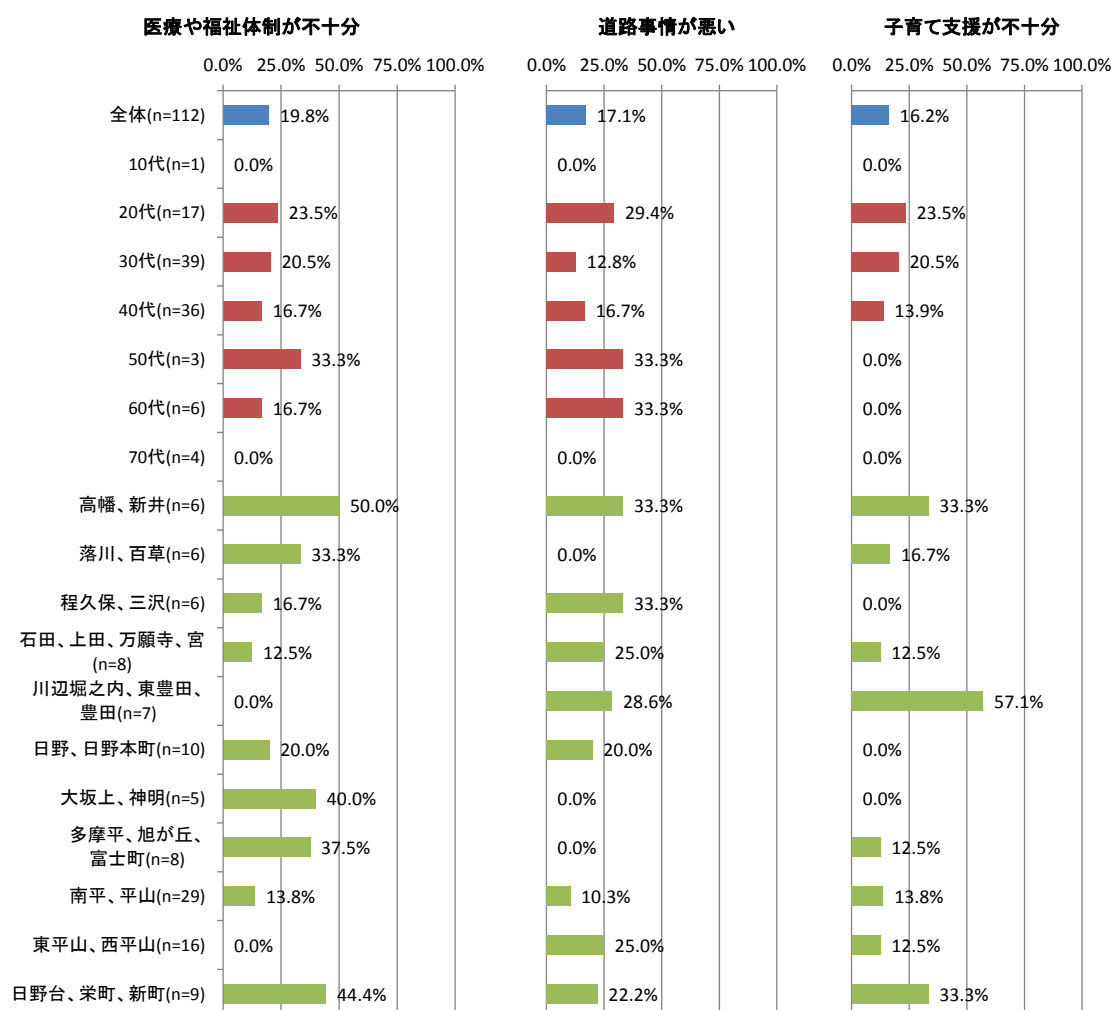
落川・百草地区では、「市内の移動（公共交通）が不便」（83.3%）という回答が最も多く、東平山・西平山地区では、「買い物が不便」（81.3%）という回答が最も多くなっています。

「買い物が不便」という回答がどの地区でも高い回答率となっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 5－2）



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 5－2：つづき）



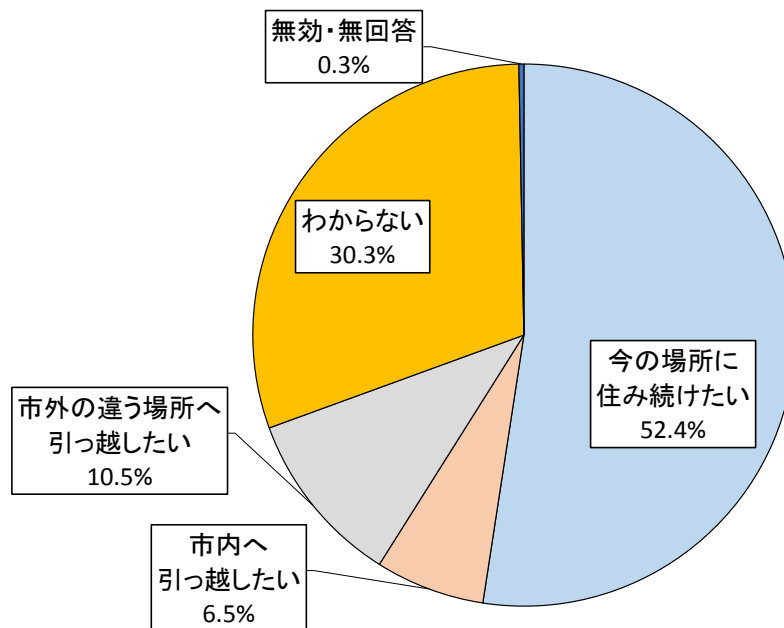
問6 これからも今の場所に住みたいと思いますか？

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「今の場所に住みたい」(52.4%)という回答が最も多く、次いで「わからない」(30.3%)、「市外の違う場所へ引っ越したい」(10.5%)と続いています。

住みたいと考えている方が過半数を占めている一方で、約3割を占めている「わからない」と考えている方に対する定住意向を高めることが課題となります。



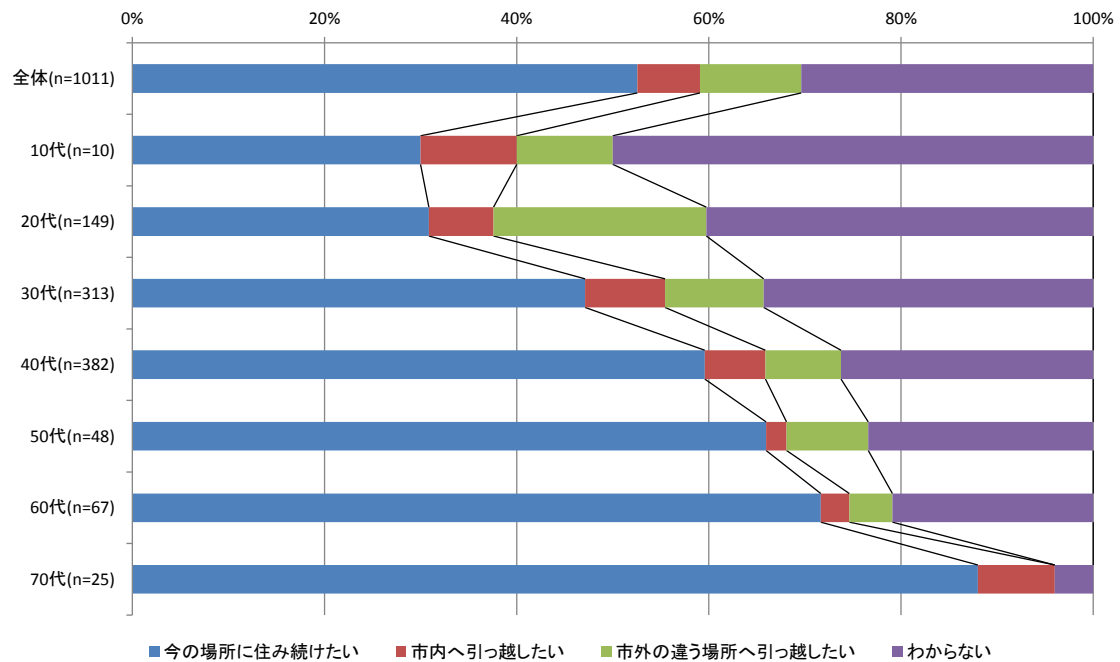
選択肢	回答数	割合
今の場所に住みたい	530	52.4%
市内へ引っ越したい	66	6.5%
市外の違う場所へ引っ越したい	106	10.5%
わからない	306	30.3%
無効・無回答	3	0.3%
回答者数	1,011	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

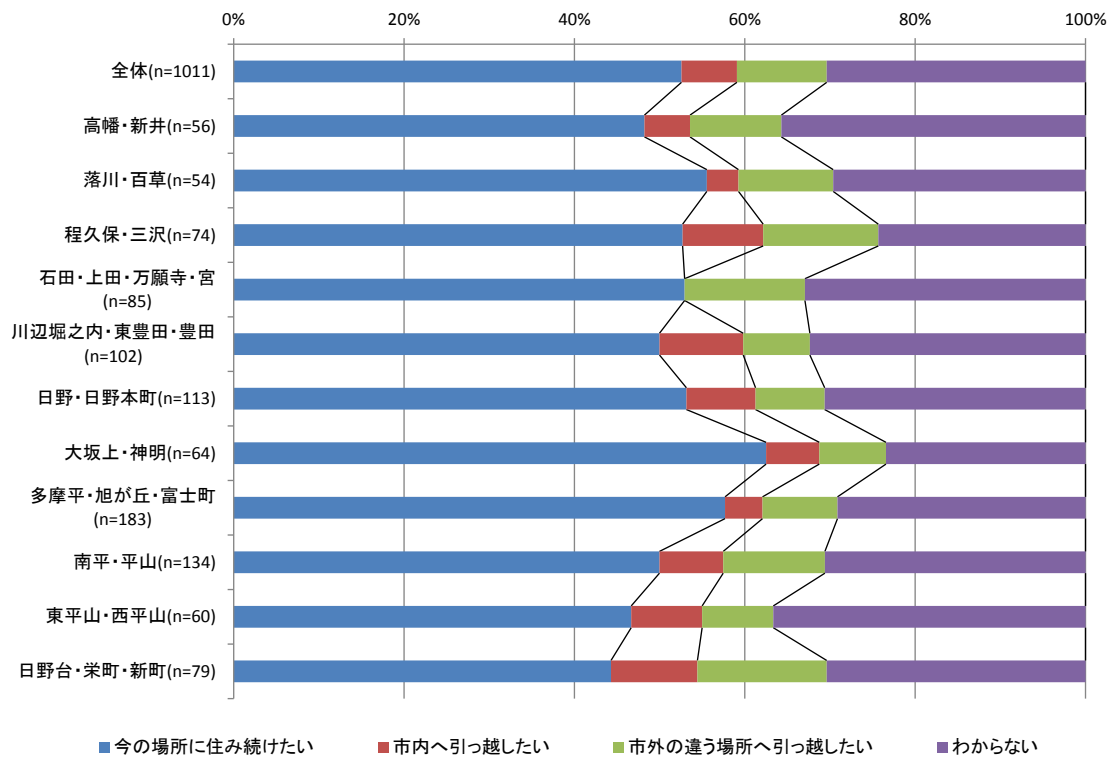
30代以上の方は「今の場所に住み続けたい」という回答が最も多い一方で、10代及び20代では「わからない」という回答が最も多くなっています。

年代が若い方の定住意向の低さを改善することが課題となります。



(ロ) 居住地区別

どの地区でも「今の場所に住み続けたい」という回答が最も多く、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



《問6で、「市外の違う場所へ引っ越したい」を選択した方にお伺いします。》

問7 市外へ引っ越す場合、最も考えられるタイミングを教えてください。

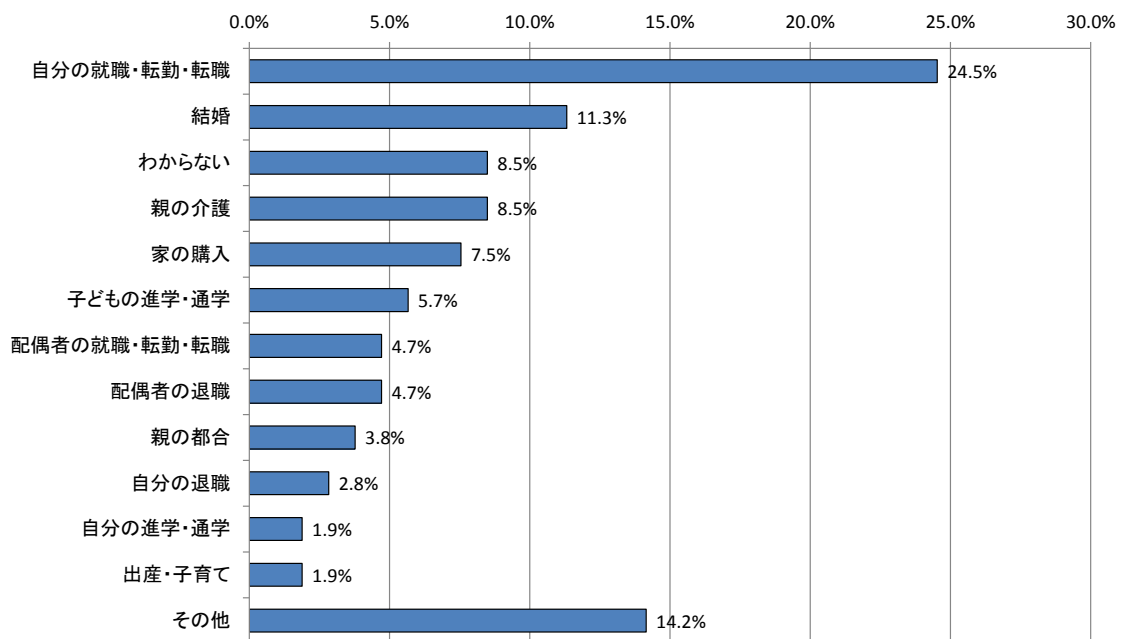
(すでに引っ越すことが決まっている場合、その理由を教えてください)。

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「自分の就職・転勤・転職」(24.5%)という回答が最も多く、次いで「結婚」(11.3%)、「わからない」(8.5%)と続いています。

仕事や結婚が、引越しをするタイミングであると考えている方が多いことがわかります。



選択肢	回答数	割合
自分の就職・転勤・転職	26	24.5%
結婚	12	11.3%
わからない	9	8.5%
親の介護	9	8.5%
家の購入	8	7.5%
子どもの進学・通学	6	5.7%
配偶者の就職・転勤・転職	5	4.7%
配偶者の退職	5	4.7%
親の都合	4	3.8%
自分の退職	3	2.8%
自分の進学・通学	2	1.9%
出産・子育て	2	1.9%
その他	15	14.2%
回答者数	106	100.0%

【問7 「その他」の主な内容】

老後の住み替え。

親が亡くなったら。

子どもが就職後。

親の介護が終わったら。

実家の相続。

子供が独立したら。

通勤困難。(都心まで遠い)

子供の就職

住み替え。

いつでもいい転居先があれば。

社宅の期限が終了する為。

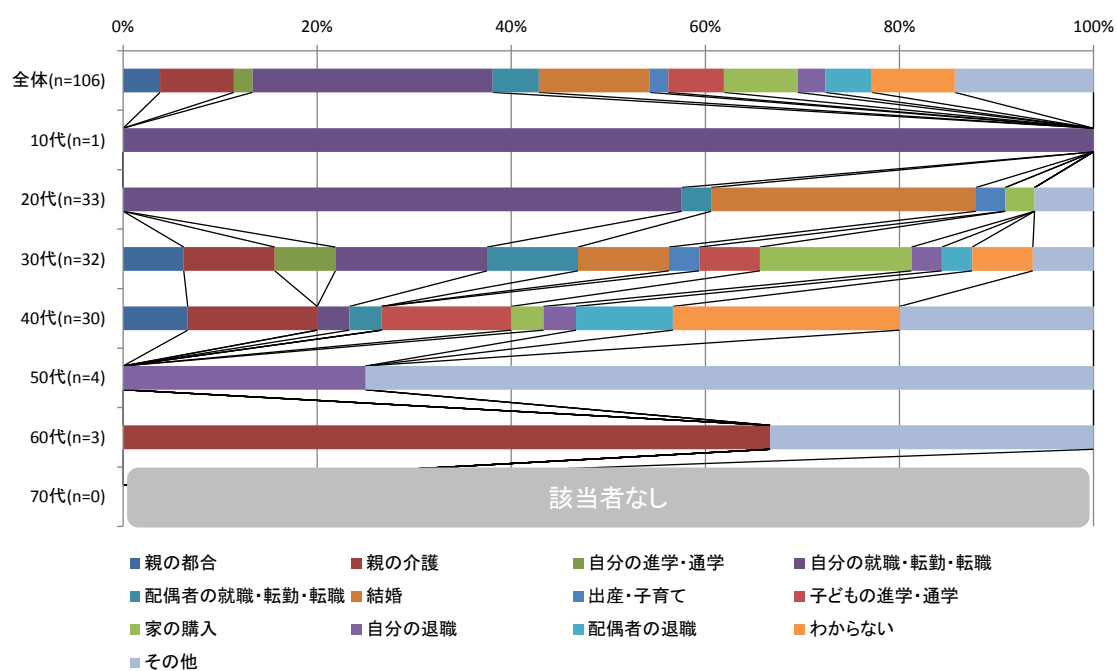
兄との同居

②属性別集計

(イ) 年齢別

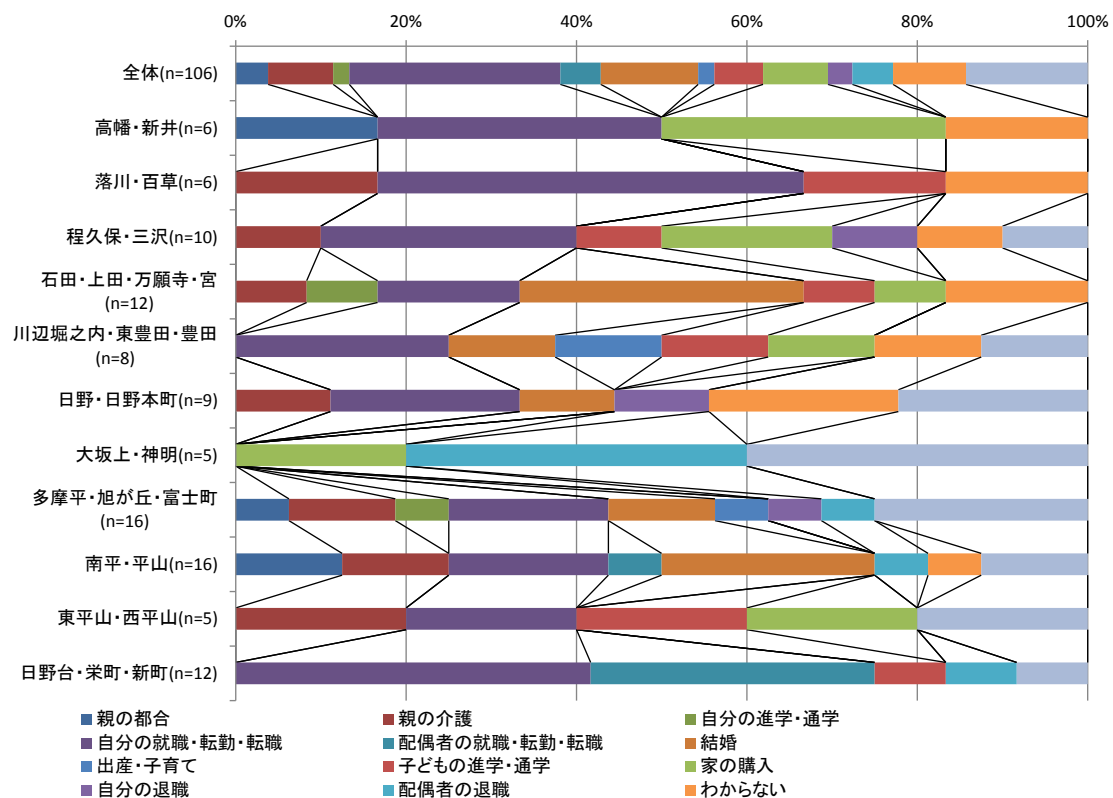
10代～30代の若い方は「自分の就職・転勤・転職」という回答が最も多く、年代が高くなると「結婚」や「家の購入」という回答が高くなります。

50代以上の「その他」の内容としては、「老後の住み替え」や「実家の相続」といった内容となっています。



(ロ) 居住地域別

落川・百草地区では「自分の就職・転勤・転職」(50.0%)という回答が最も多く、その他の地区でも「自分の就職・転勤・転職」という回答が高い割合となっています。



第4章 「日野市の愛着」について

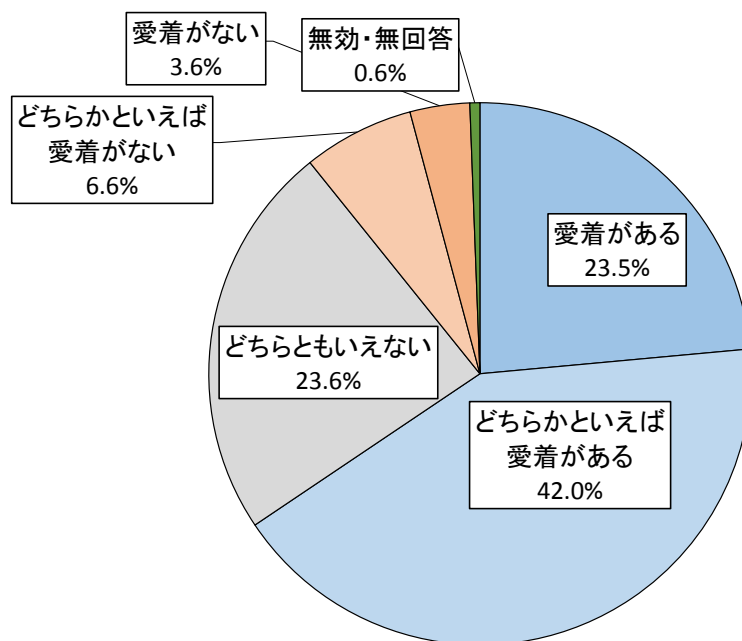
問8 日野市に愛着をもっていますか？

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「どちらかといえば愛着がある」(42.0%)という回答が最も多く、次いで「どちらともいえない」(23.6%)、「愛着がある」(23.5%)と続いています。

「愛着がある」(23.5%)と「どちらかといえば愛着がある」(42.0%)を合わせると、6割超の方が日野市に愛着を感じていることがわかります。



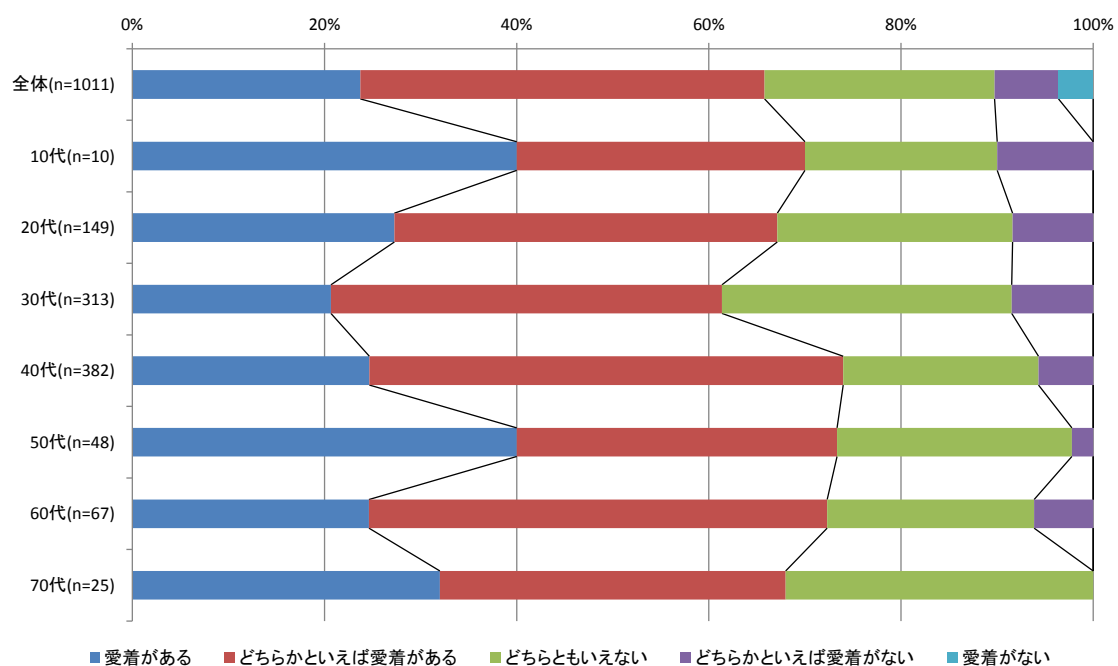
選択肢	回答数	割合
愛着がある	238	23.5%
どちらかといえば愛着がある	425	42.0%
どちらともいえない	239	23.6%
どちらかといえば愛着がない	67	6.6%
愛着がない	36	3.6%
無効・無回答	6	0.6%
回答者数	1,011	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

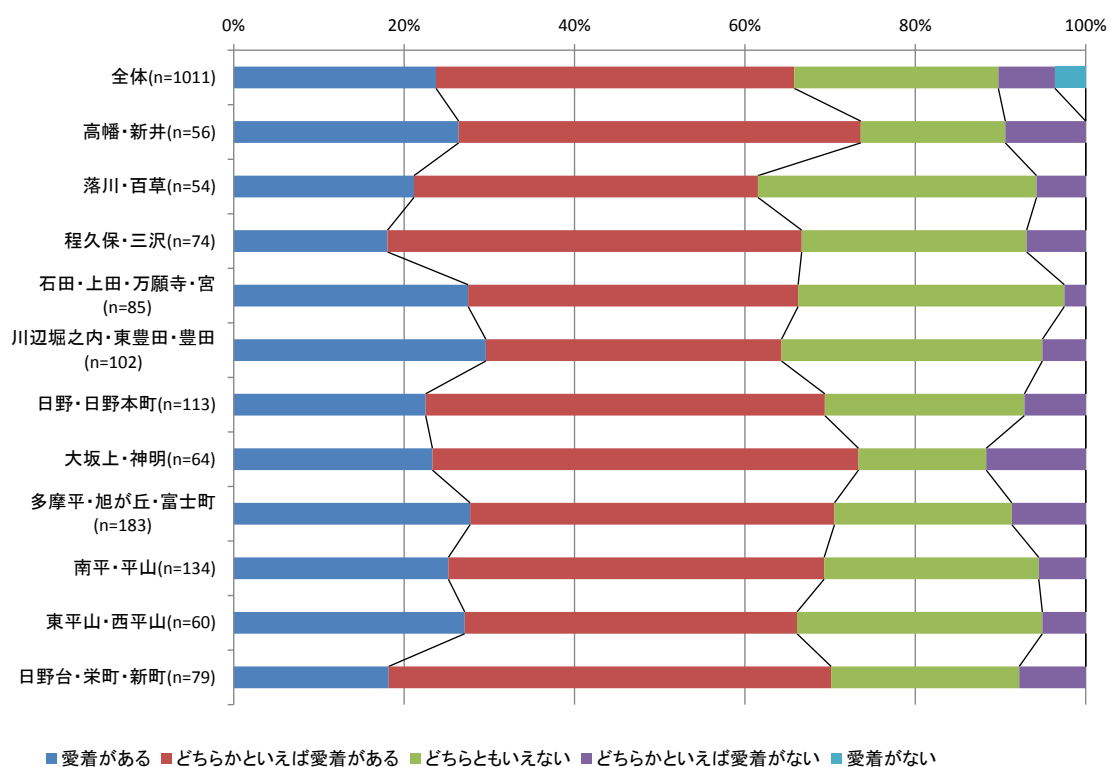
10代及び50代では「愛着がある」という回答が最も多く、その他の年代では「どちらかといえば愛着がある」という回答が最も多くなっています。

概ねどの年代も、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



(ロ) 居住地域別

どの地区でも「どちらかといえば愛着がある」という回答が最も多くなっています。
居住地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



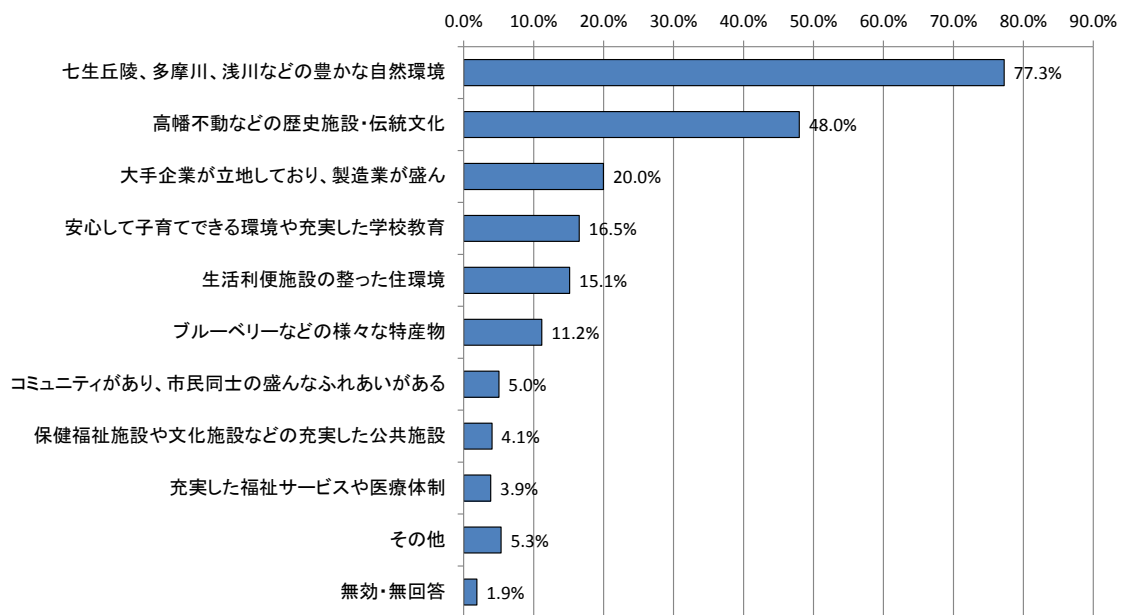
問9 日野市にどのような良いイメージをもっていますか？

あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「七生丘陵、多摩川、浅川などの豊かな自然環境」（77.3%）という回答が最も多く、次いで「高幡不動などの歴史施設・伝統文化」（48.0%）、「大手企業が立地しており、製造業が盛ん」（20.0%）と続いています。

自然環境や歴史・伝統・文化面で、日野市の魅力があると感じている方が多いことがわかります。



選択肢	回答数	割合
七生丘陵、多摩川、浅川などの豊かな自然環境	781	77.3%
高幡不動などの歴史施設・伝統文化	485	48.0%
大手企業が立地しており、製造業が盛ん	202	20.0%
安心して子育てできる環境や充実した学校教育	167	16.5%
生活利便施設の整った住環境	153	15.1%
ブルーベリーなどの様々な特産物	113	11.2%
コミュニティがあり、市民同士の盛んなふれあい	51	5.0%
保健福祉施設や文化施設などの充実した公共施設	41	4.1%
充実した福祉サービスや医療体制	39	3.9%
その他	54	5.3%
無効・無回答	19	1.9%
回答者数	1,011	—

②属性別集計

(イ) 年齢別

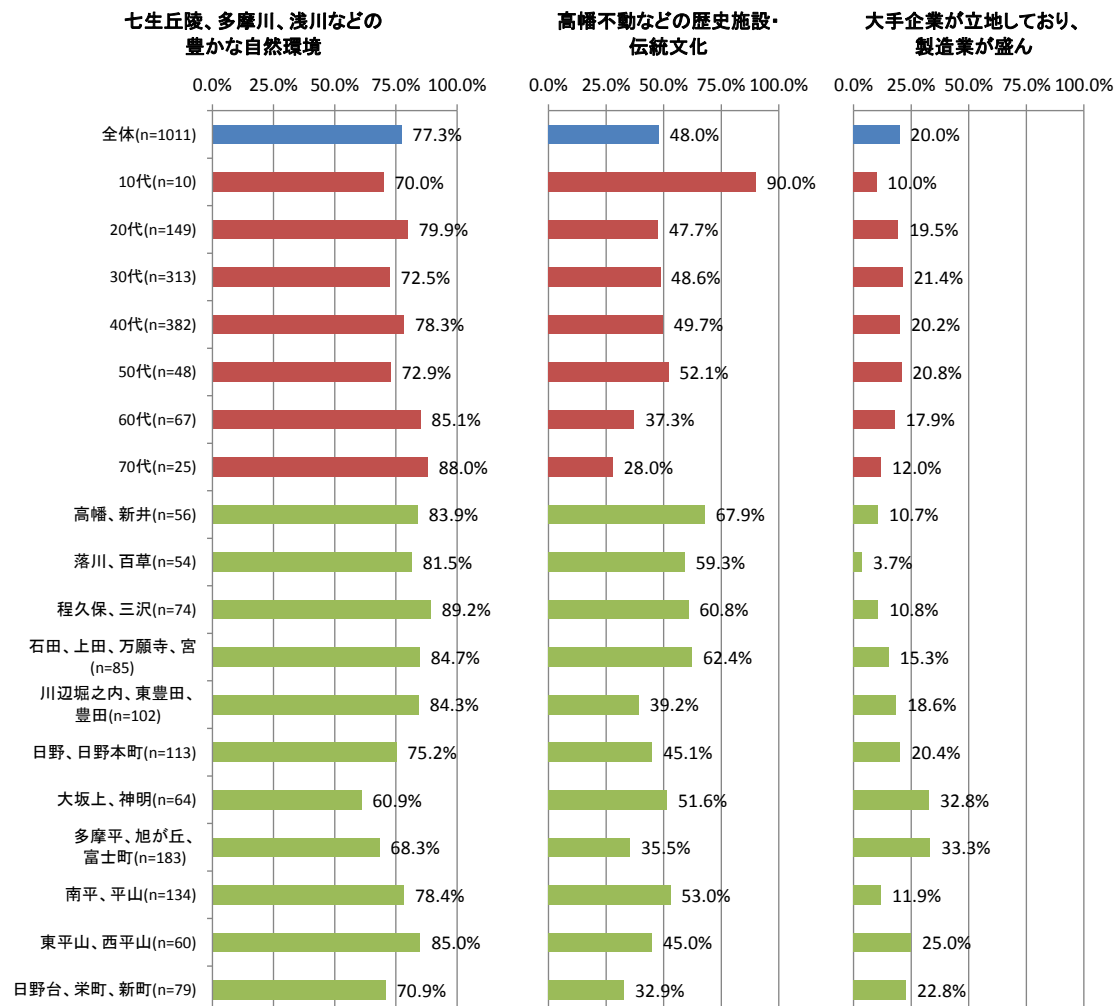
10代では「高幡不動などの歴史施設・伝統文化」(90.0%)という回答が最も多く、その他は「七生丘陵、多摩川、浅川などの豊かな自然環境」という回答が最も多くなっています。年齢別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

(ロ) 居住地域別

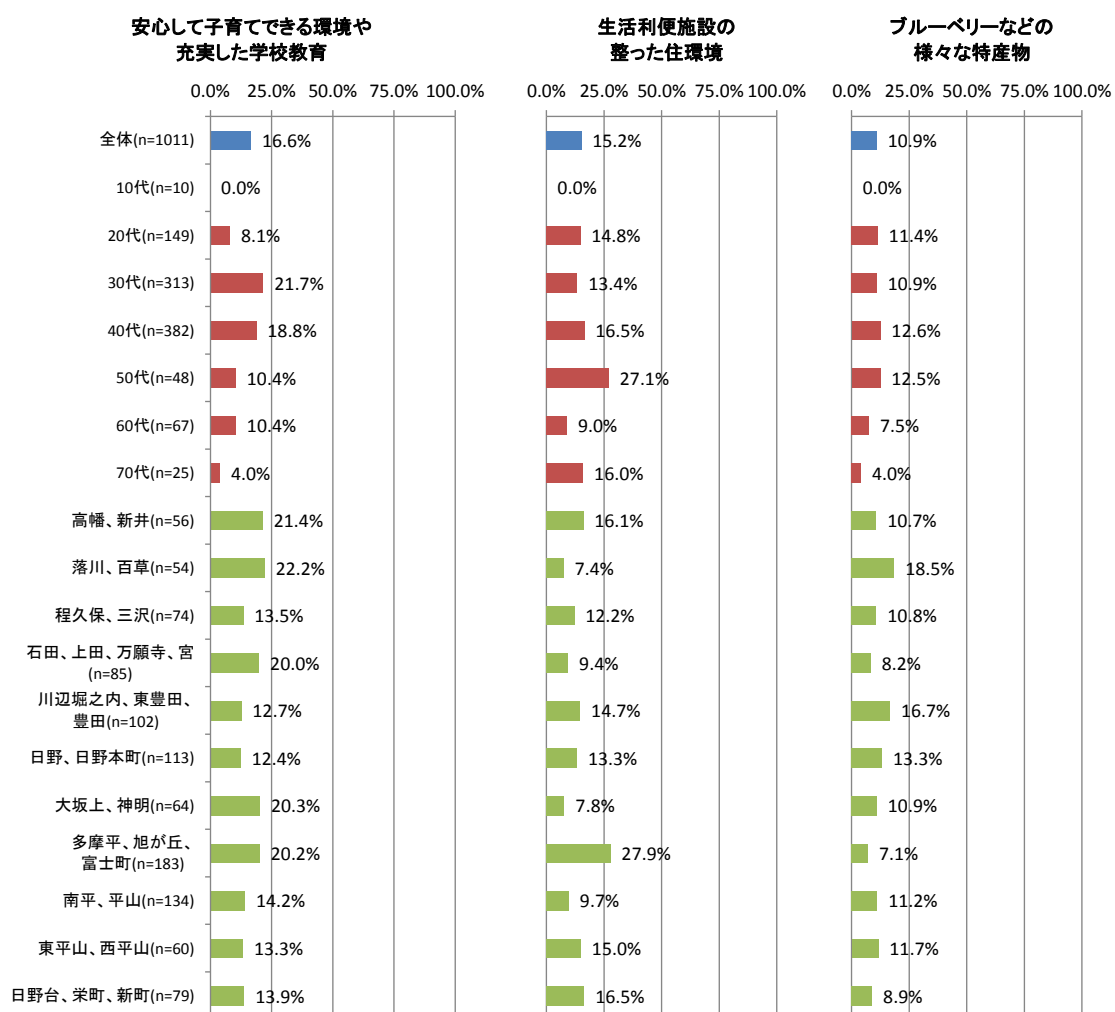
どの地区でも「七生丘陵、多摩川、浅川などの豊かな自然環境」という回答が最も多くなっています。

居住地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】(問9)



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 9：つづき）



第5章 結婚・子育てに対する考え方について

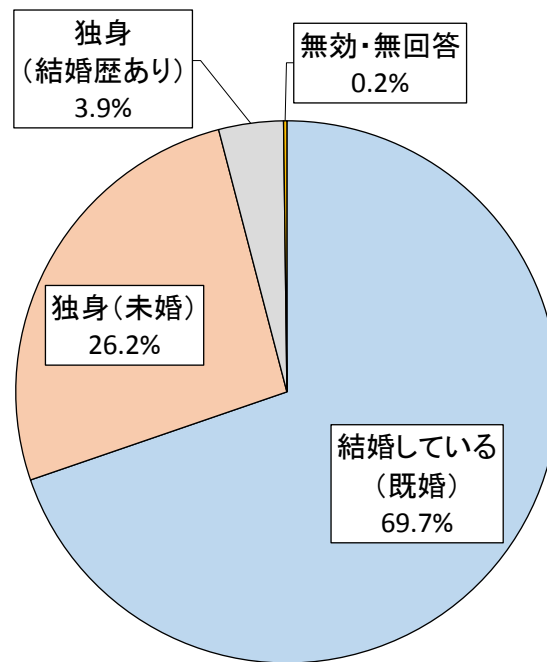
問10 あなたは、現在結婚していますか？

あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

「結婚している（既婚）」(69.7%)という回答が最も多く、次いで「独身（未婚）」(26.2%)が続いています。

回答者の約4人に1人が未婚であることがわかります。



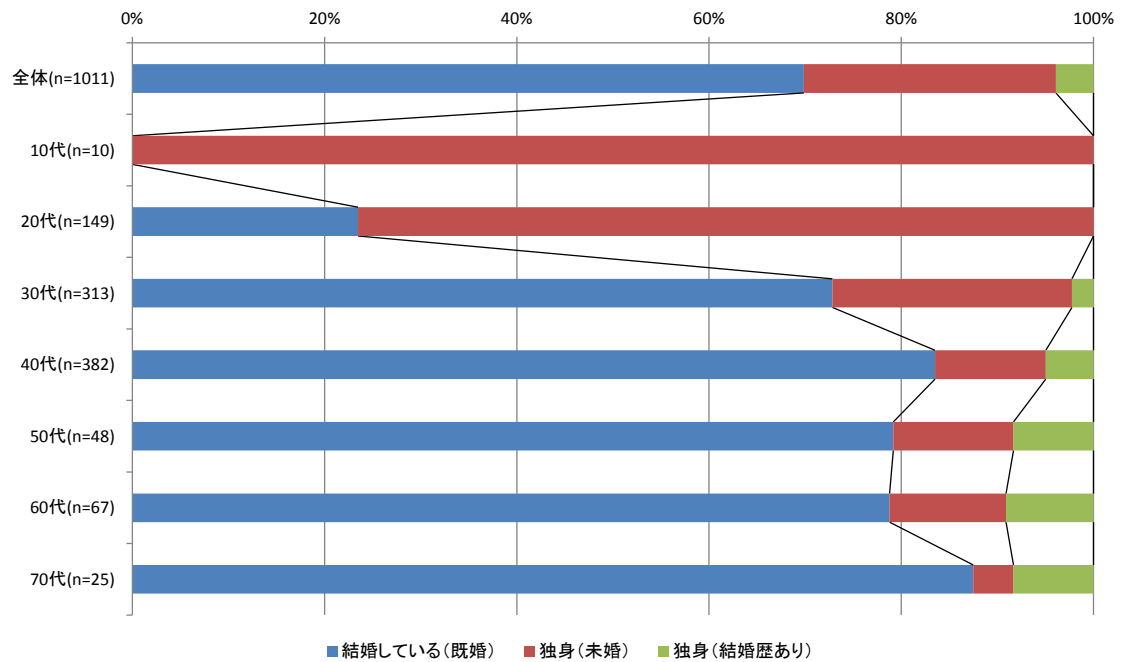
選択肢	回答数	割合
結婚している（既婚）	705	69.7%
独身（未婚）	265	26.2%
独身（結婚歴あり）	39	3.9%
無効・無回答	2	0.2%
回答者数	1,011	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

10代及び20代では「独身（未婚）」という回答が最も多く、その他の年代では「結婚している（既婚）」という回答が最も多くなっています。

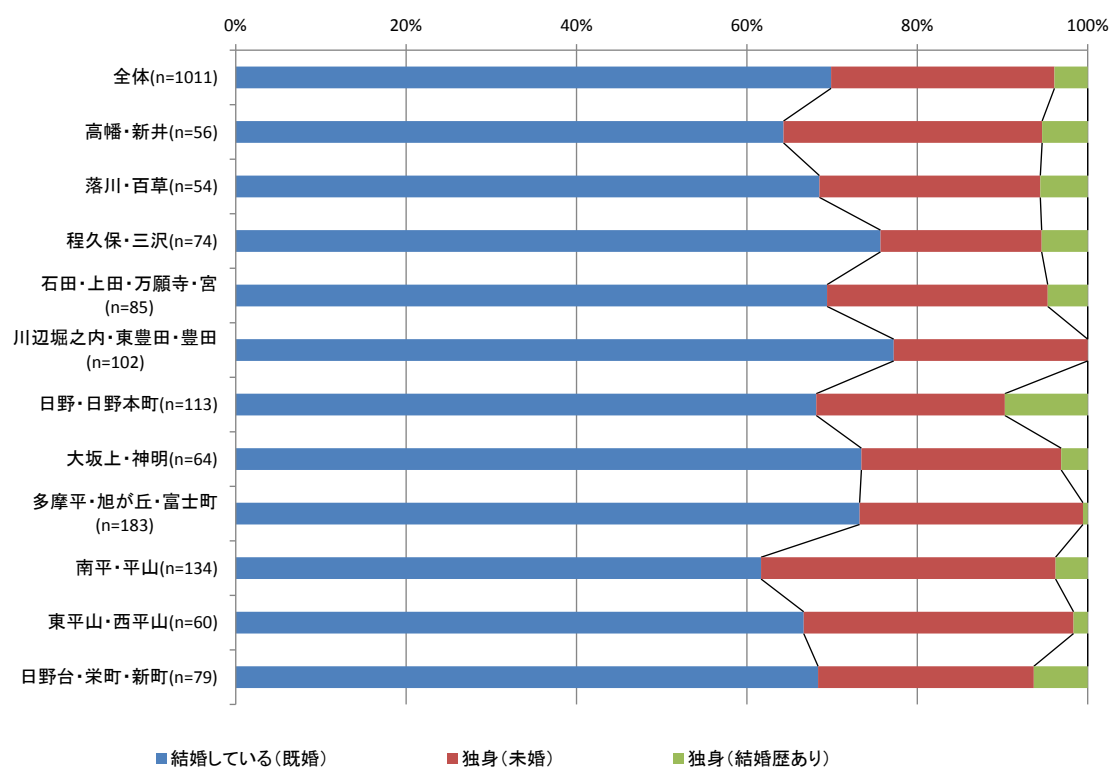
30代でも約25%の方は未婚となっています。



(ロ) 居住地域別

どの地区でも「結婚している（既婚）」という回答が最も多くなっています。

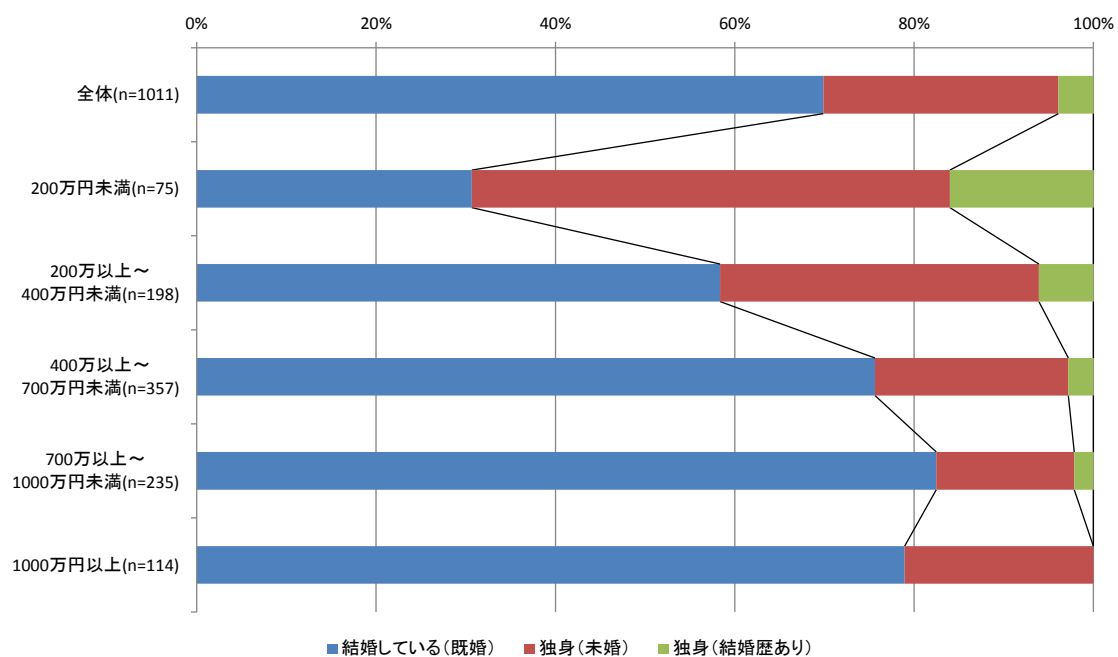
居住地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



(ハ) 世帯年収別

世帯年収が 200 万円未満の世帯では、「独身（未婚）」が 53.3%と最も多くなっています。その他の属性では、「結婚している（既婚）」という回答が最も多くなっています。

年収が高くなるほど結婚している人の割合が高くなっている傾向にあります。



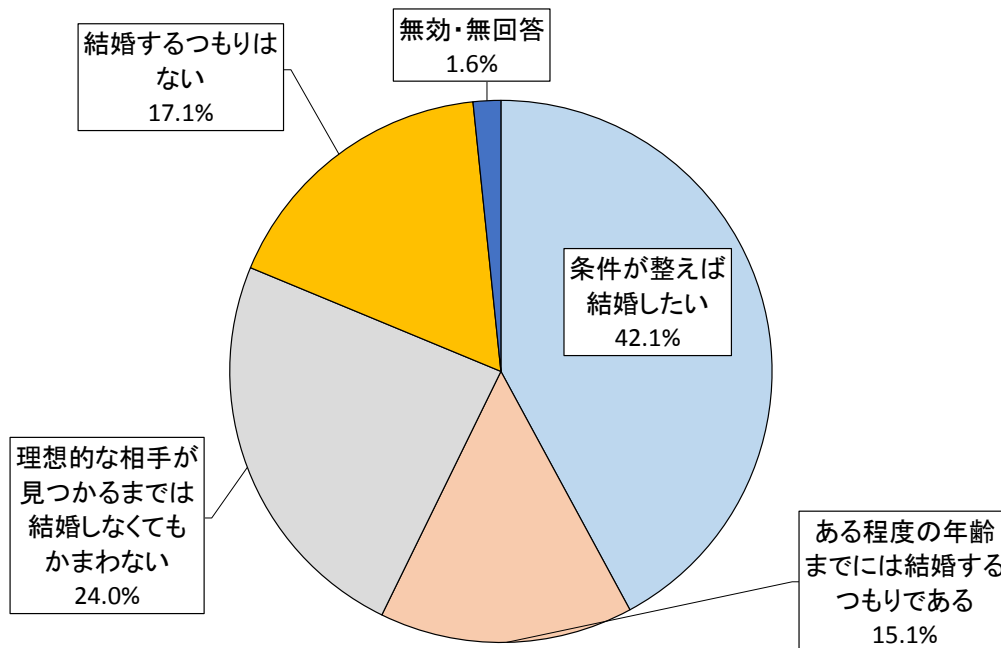
《問１０で、「独身（未婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方に伺います。》

問１１ 結婚に関するあなたのお考えに近いものを１つ選び、○をつけてください。

①全体集計

「条件が整えば結婚したい」（42.1%）という回答が最も多く、次いで「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」（24.0%）、「結婚するつもりはない」（17.1%）と続いています。

「結婚するつもりはない」（17.1%）を除くと、８割以上の方が結婚に意欲的であることがわかります。



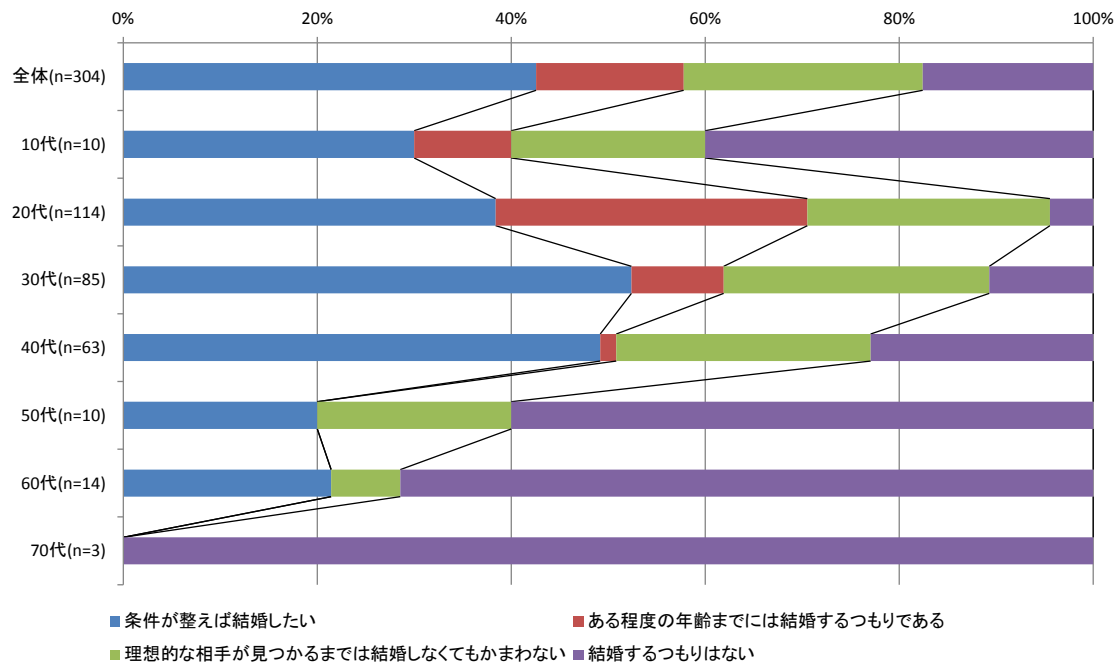
選択肢	回答数	割合
条件が整えば結婚したい	128	42.1%
ある程度の年齢までには結婚するつもりである	46	15.1%
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	73	24.0%
結婚するつもりはない	52	17.1%
無効・無回答	5	1.6%
回答者数	304	100.0%

②属性別集計

(イ) 年齢別

10代及び50～70代では、「結婚するつもりはない」という回答が最も多くなっており、その他の年代では「条件が整えば結婚したい」という回答が最も多くなっています。

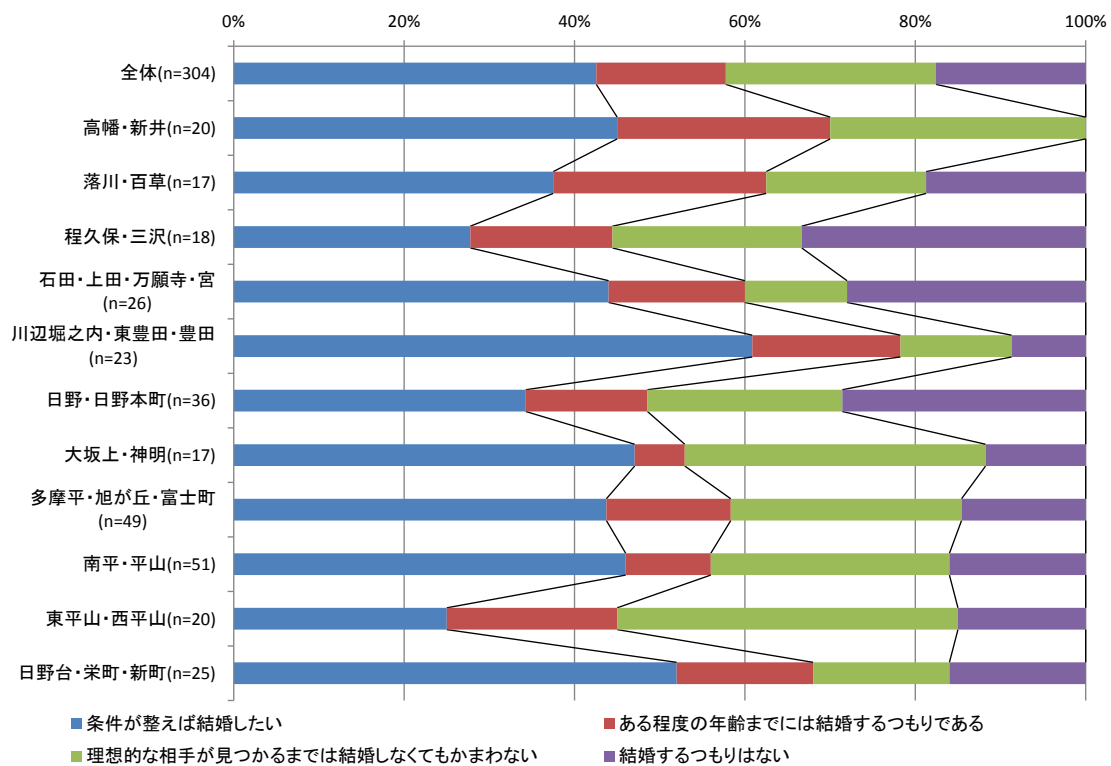
母集団の最も多い20～40代では、結婚意欲の高い方が多いことがわかります。



(ロ) 居住地域別

程久保・三沢地区では「結婚するつもりはない」(33.3%)という回答が最も多く、また、東平山・西平山地区では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」(40.0%)という回答が最も多くなっています。その他の地区では、「条件が整えば結婚したい」という回答が最も多くなっています。

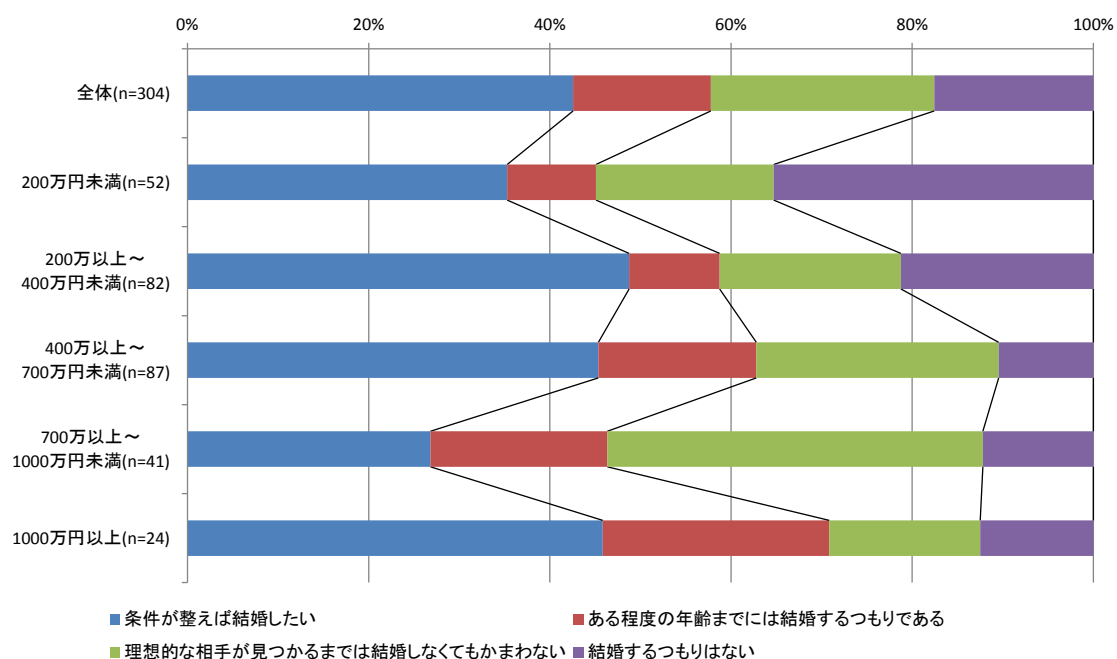
概ねどの地区でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



(ハ) 世帯年収別

700 万以上～1000 万円未満の方は「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」(41.5%) という回答が最も多く、その他の属性では「条件が整えば結婚したい」という回答が最も多くなっています。

概ねどの属性でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。



《問１０で、「独身（未婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方に伺います。》

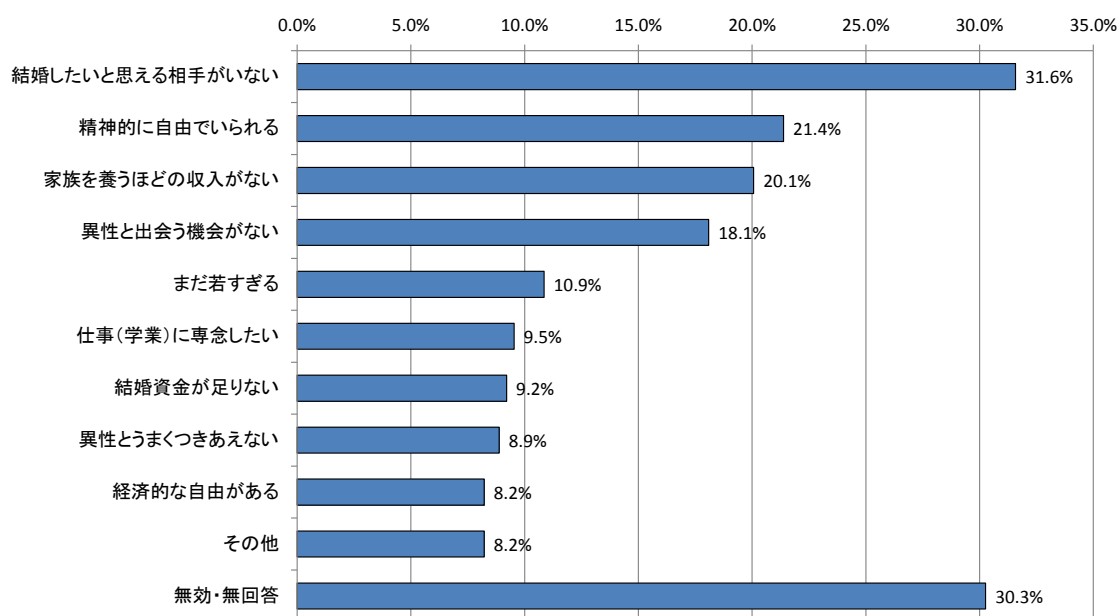
問１２ 結婚しない理由はなんですか？

あなたのお考えに近いものを３つまで選び、○をつけてください。

①全体集計

「結婚したいと思える相手がいない」（31.6%）という回答が最も多く、次いで「精神的に自由でいられる」（21.4%）、「家族を養うほどの収入がない」（20.1%）と続いています。

結婚相手との出会いがないことが原因としてあげられる一方で、経済的な面での不安から結婚をためらっている方も多くいると考えられます。



選択肢	回答数	割合
結婚したいと思える相手がいない	96	31.6%
精神的に自由でいられる	65	21.4%
家族を養うほどの収入がない	61	20.1%
異性と出会う機会がない	55	18.1%
まだ若すぎる	33	10.9%
仕事（学業）に専念したい	29	9.5%
結婚資金が足りない	28	9.2%
異性とうまくつきあえない	27	8.9%
経済的な自由がある	25	8.2%
その他	25	8.2%
無効・無回答	92	30.3%
回答者数	304	—

②属性別集計

(イ) 年齢別

50～70代では「精神的に自由でいられる」という回答が最も多く、その他の年代では「結婚したいと思える相手がいない」という回答が最も多くなっています。

結婚相手との出会いがないことを理由としている方は、主に年代の若い方であることがわかります。

(ロ) 居住地域別

落川・百草地区では「精神的に自由でいられる」(52.9%)という回答が最も多く、程久保・三沢地区では「家族を養うほどの収入がない」(27.8%)という回答が最も多くなっています。

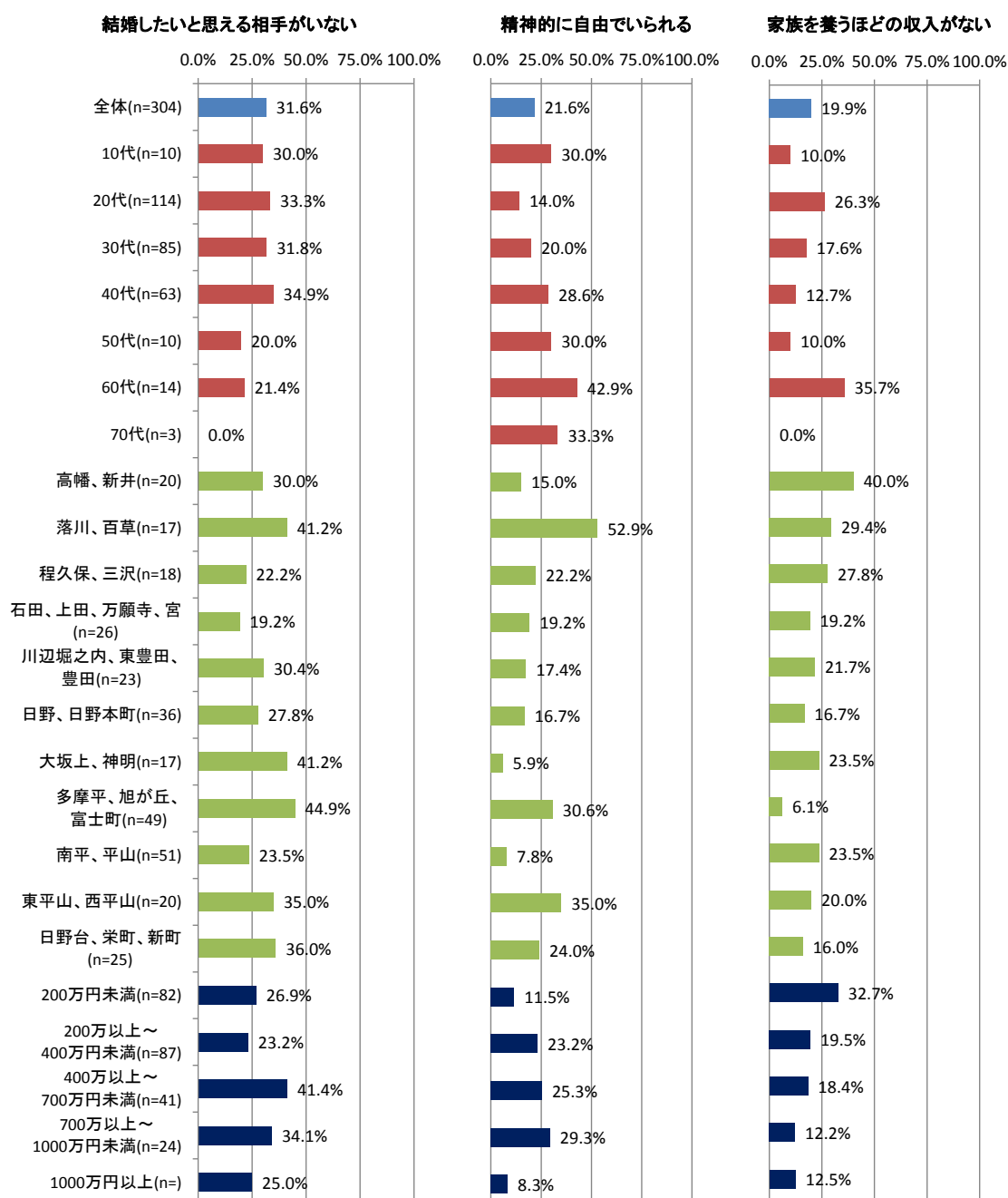
概ねどの地区でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

(ハ) 世帯年収別

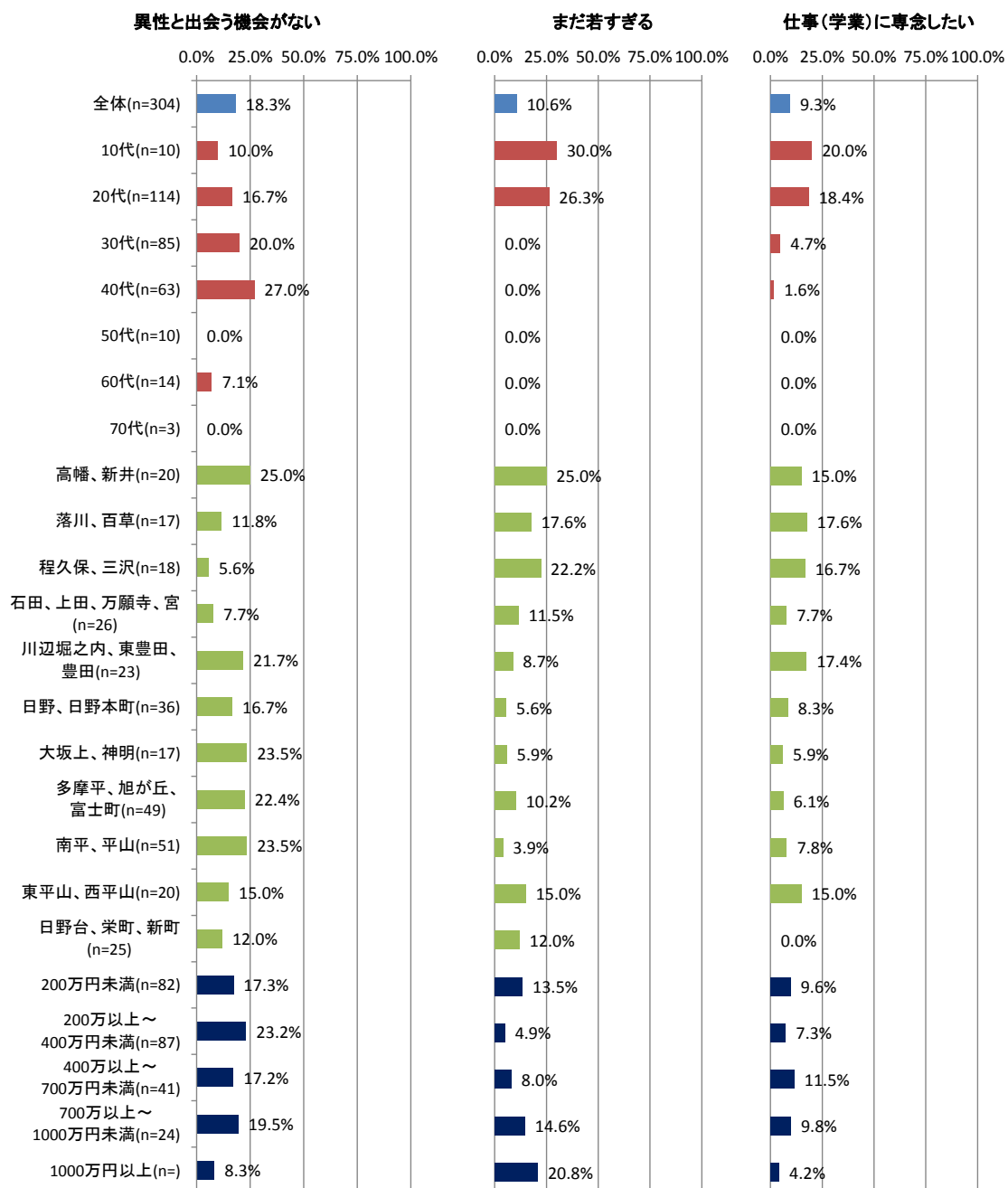
200万円未満の方は「家族を養うほどの収入がない」(32.7%)という回答が最も多く、その他の属性では「結婚したいと思える相手がいない」という回答が最も多くなっています。

概ねどの属性でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 2）



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 2：つづき）

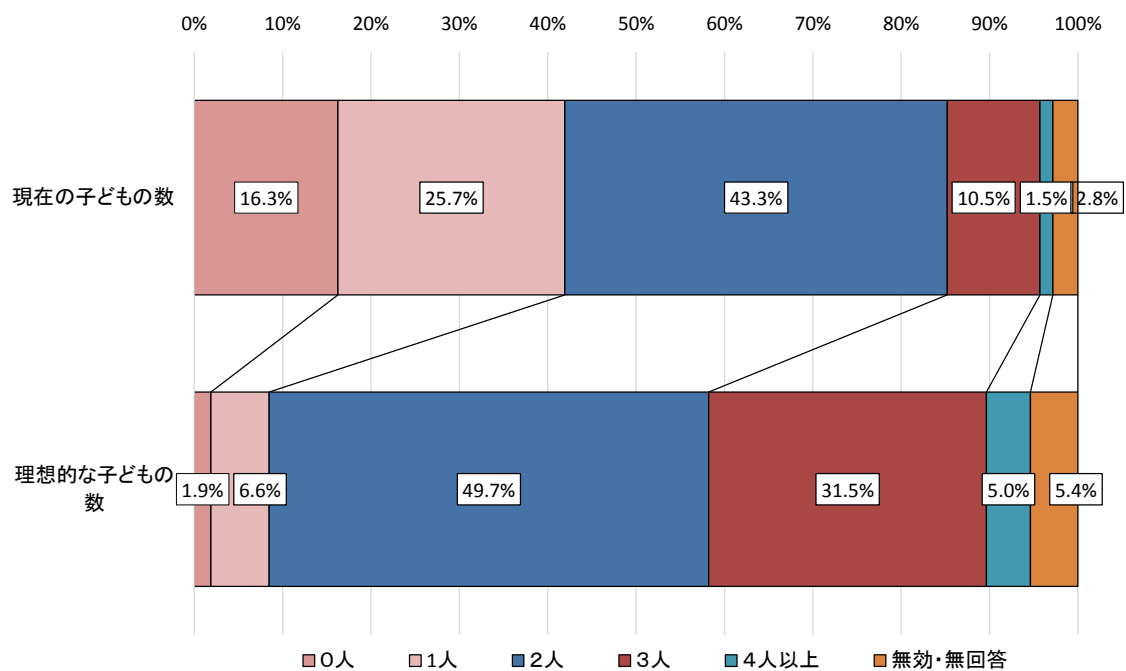


《問10で、「結婚している（既婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方にお伺いします。》

問13 あなたにとって、現在のお子さんの数、理想的な子どもの数は何人ですか？

あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

理想的な子どもの数は「2人」（49.7%）及び「3人」（31.5%）という回答が多い一方で、現在の子どもの数は「1人」（25.7%）及び「2人」（43.3%）という回答が多く、理想的な子どもの数に対して現在の子どもの数が低い水準で乖離していることがわかります。



	0人		1人		2人	
現在の子どもの数	121	16.3%	191	25.7%	322	43.3%
理想的な子どもの数	14	1.9%	49	6.6%	370	49.7%

	3人		4人以上		無効・無回答		回答者数
現在の子どもの数	78	10.5%	11	1.5%	21	2.8%	744
理想的な子どもの数	234	31.5%	37	5.0%	40	5.4%	744

《問１３で「現在の子どもの数」が、「理想的な子どもの数」より少ない方に伺います。》

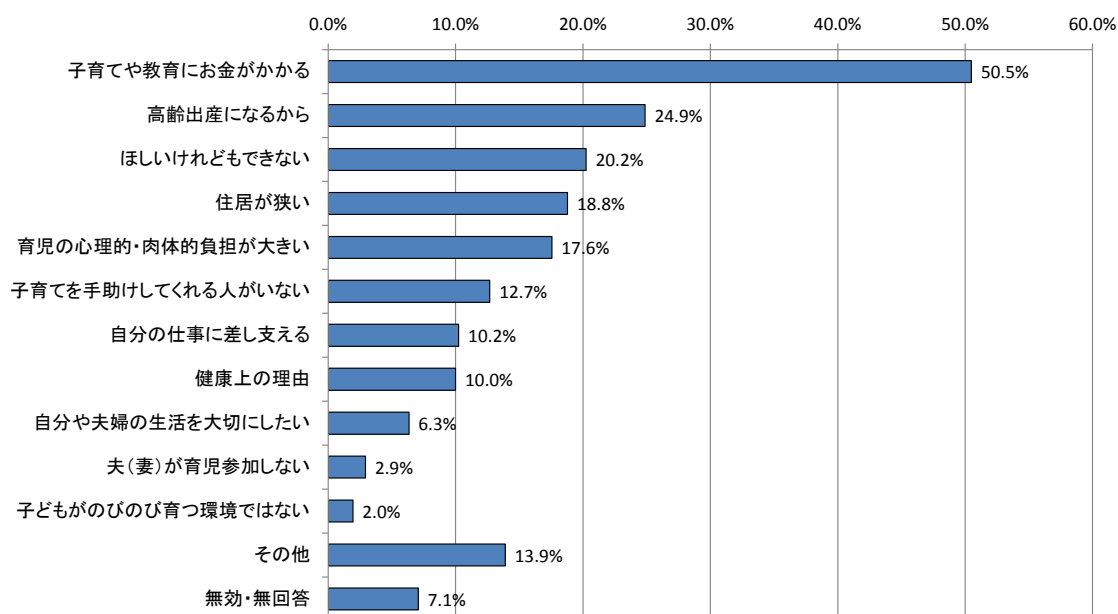
問１４ 「現在の子どもの数」が、「理想的な子どもの数」より少ない理由は何ですか？

あなたのお考えに近いものを3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「子育てや教育にお金がかかる」（50.5%）という回答が最も多く、次いで「高齢出産になるから」（24.9%）、「ほしいけれどもできない」（20.2%）と続いています。

子どもの数が少ない理由として、多くの方が経済的な不安をあげています。



選択肢	回答数	割合
子育てや教育にお金がかかる	207	50.5%
高齢出産になるから	102	24.9%
ほしいけれどもできない	83	20.2%
住居が狭い	77	18.8%
育児の心理的・肉体的負担が大きい	72	17.6%
子育てを手助けしてくれる人がいない	52	12.7%
自分の仕事に差し支える	42	10.2%
健康上の理由	41	10.0%
自分や夫婦の生活を大切にしたい	26	6.3%
夫（妻）が育児参加しない	12	2.9%
子どもがのびのび育つ環境ではない	8	2.0%
その他	57	13.9%
無効・無回答	29	7.1%
回答者数	410	—

②属性別集計

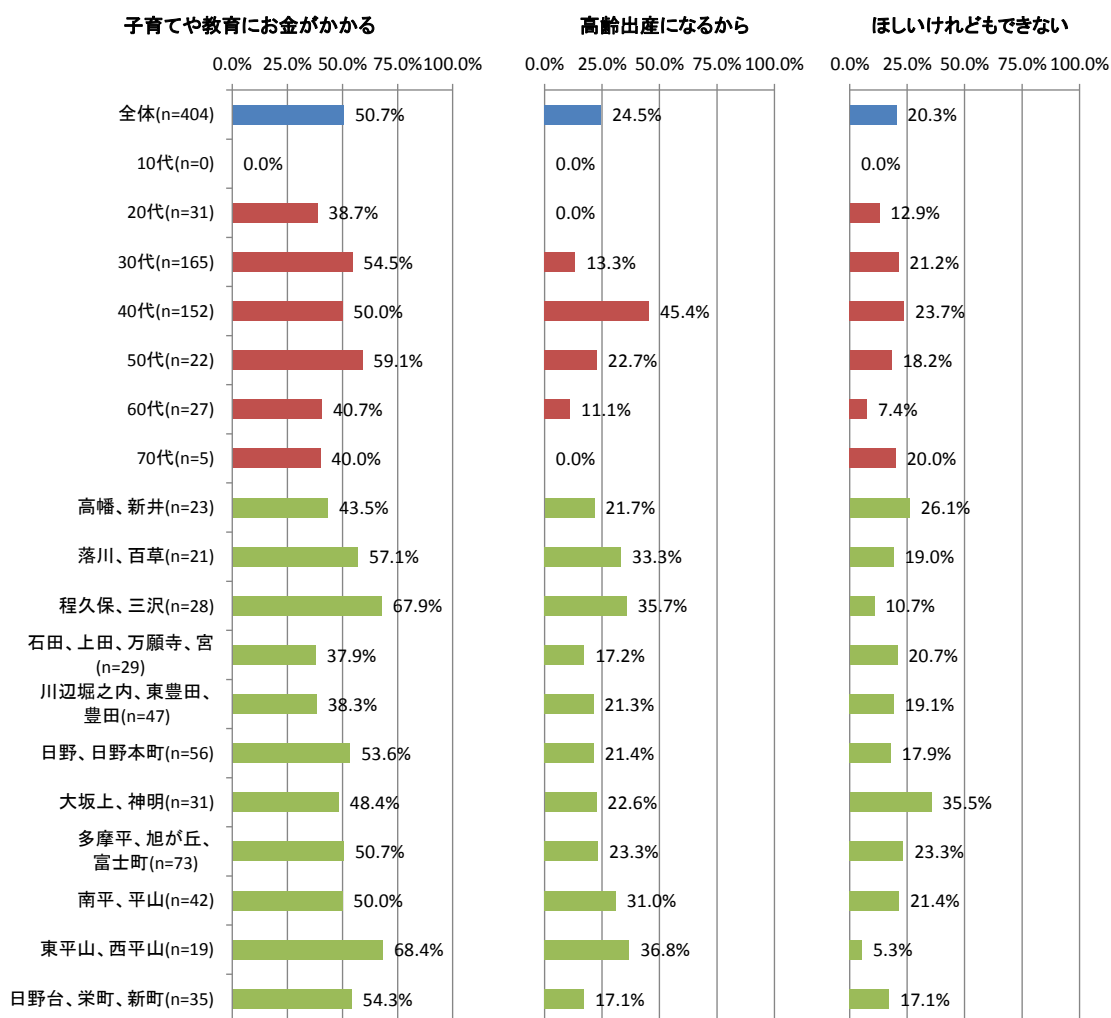
(イ) 年齢別

全ての年代で「子育てや教育にお金がかかる」という回答が最も多くなっています。
年齢別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

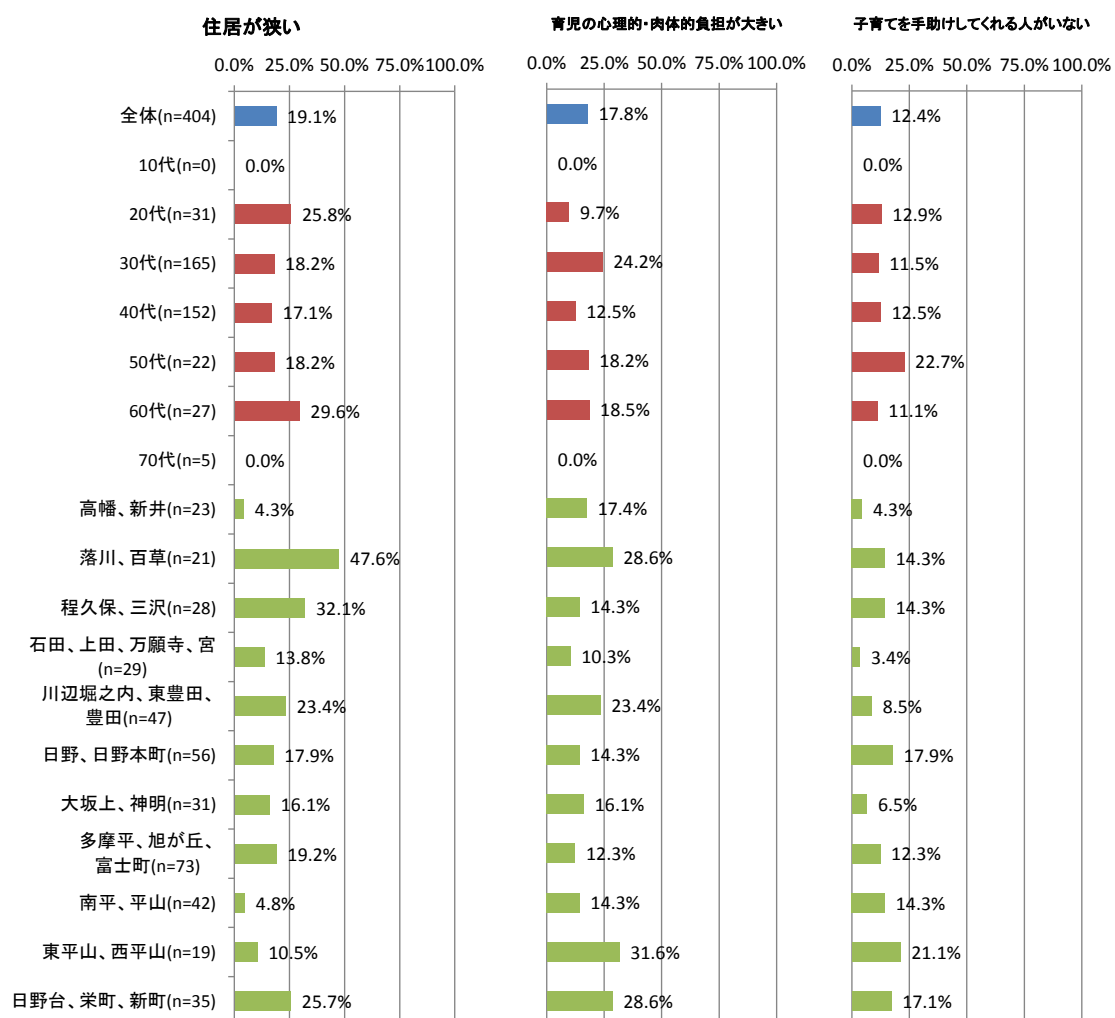
(ロ) 居住地域別

全ての地区で「子育てや教育にお金がかかる」という回答が最も多くなっています。
居住地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】(問 1 4)



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 4：つづき）



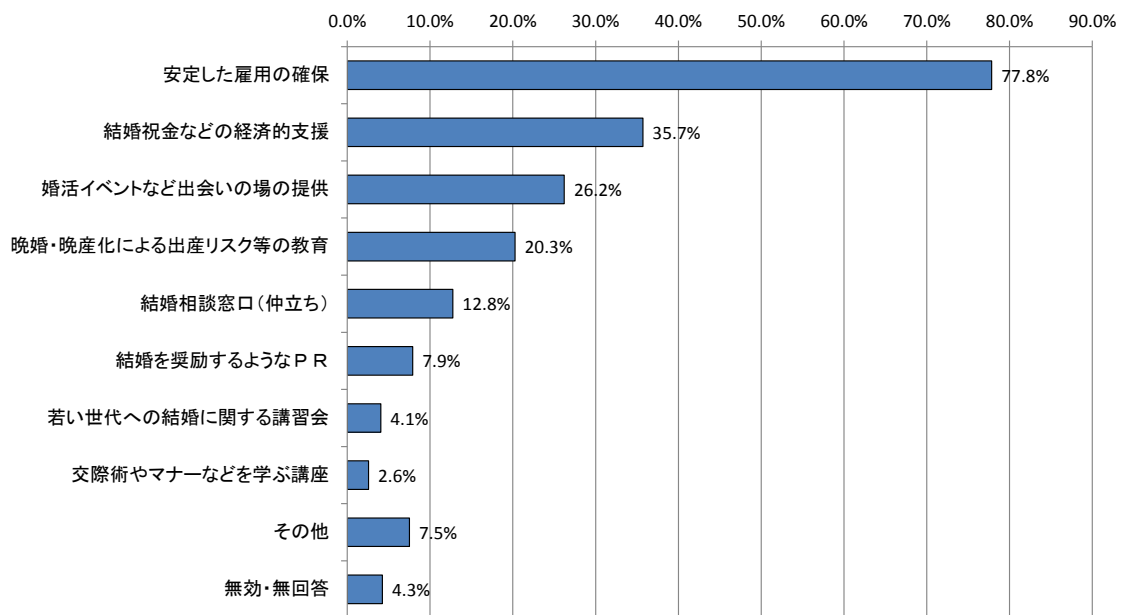
問 1 5 結婚を支援するために、行政（市、都、国）が取り組むべき事業は何だと思いますか？

あなたのお考えに近いものを3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「安定した雇用の確保」（77.8%）という回答が最も多く、次いで「結婚祝金などの経済的支援」（35.7%）、「婚活イベントなど出会いの場の提供」（26.2%）と続いています。

経済的基盤確保のための支援が、結婚を促進するための課題であると考えている方が多いことがわかります。



選択肢	回答数	割合
安定した雇用の確保	787	77.8%
結婚祝金などの経済的支援	361	35.7%
婚活イベントなど出会いの場の提供	265	26.2%
晩婚・晩産化による出産リスク等の教育	205	20.3%
結婚相談窓口（仲立ち）	129	12.8%
結婚を奨励するようなPR	80	7.9%
若い世代への結婚に関する講習会	41	4.1%
交際術やマナーなどを学ぶ講座	26	2.6%
その他	76	7.5%
無効・無回答	43	4.3%
回答者数	1,011	—

②属性別集計

(イ) 年齢別

全ての年代で「安定した雇用の確保」という回答が最も多くなっています。

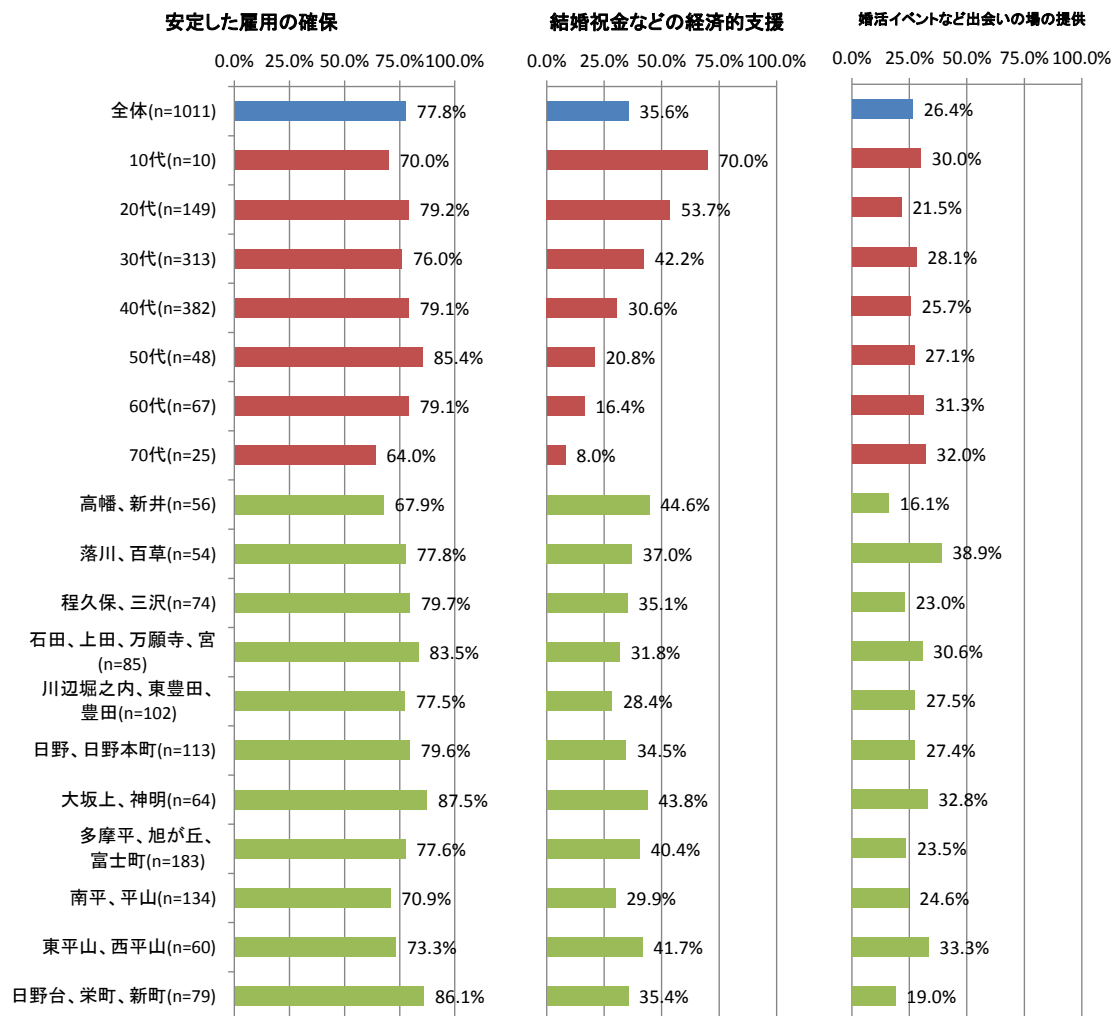
年齢別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

(ロ) 居住地域別

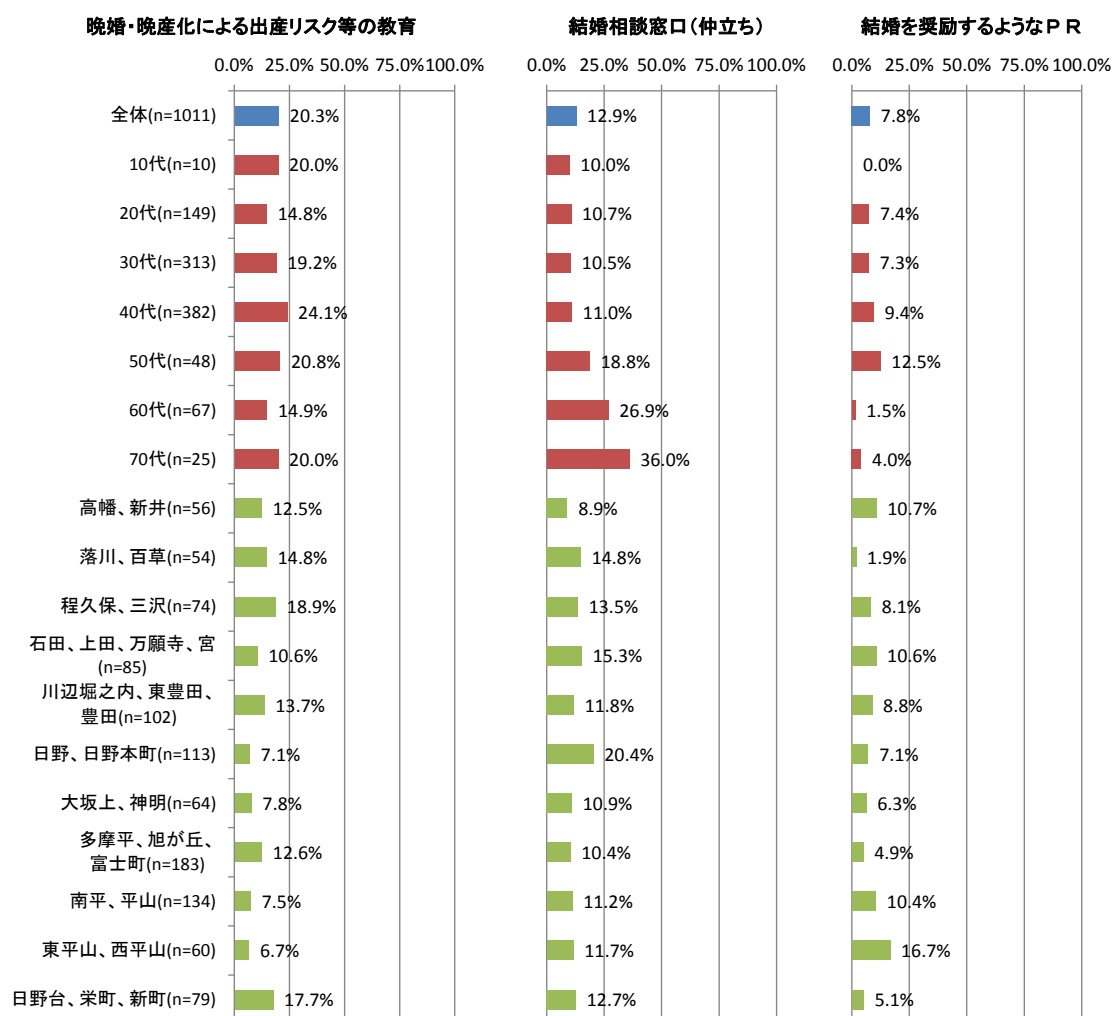
全ての地区で「安定した雇用の確保」という回答が最も多くなっています。

居住地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】(問 1 5)



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 5：つづき）

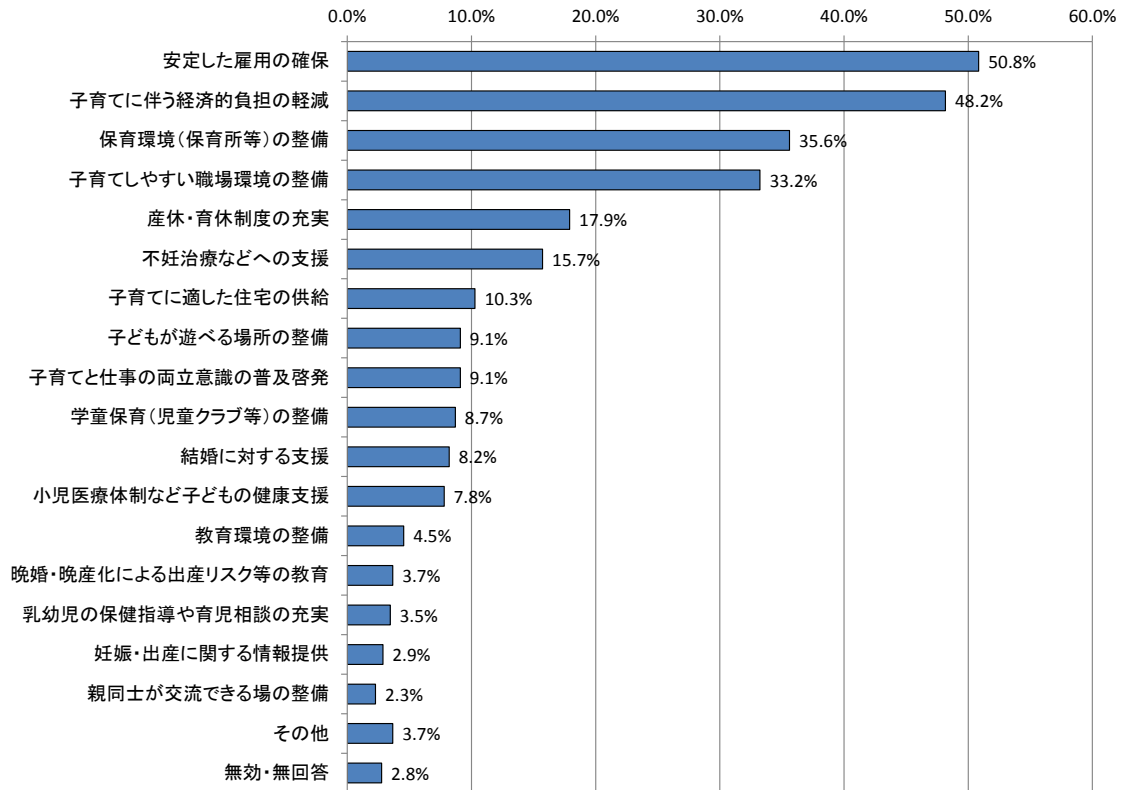


問16 あなたは、どのような支援・対策を行えば、子どもの数が増えると思いますか？
あなたのお考えに近いものを3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「安定した雇用の確保」(50.8%)という回答が最も多く、次いで「子育てに伴う経済的負担の軽減」(48.2%)、「保育環境(保育所等)の整備」(35.6%)と続いています。

結婚の促進と同様に、経済的基盤の確保が出生数改善のための課題であるといえます。



選択肢	回答数	割合
安定した雇用の確保	514	50.8%
子育てに伴う経済的負担の軽減	487	48.2%
保育環境（保育所等）の整備	360	35.6%
子育てしやすい職場環境の整備	336	33.2%
産休・育休制度の充実	181	17.9%
不妊治療などへの支援	159	15.7%
子育てに適した住宅の供給	104	10.3%
子どもが遊べる場所の整備	92	9.1%
子育てと仕事の両立意識の普及啓発	92	9.1%
学童保育（児童クラブ等）の整備	88	8.7%

選択肢	回答数	割合
結婚に対する支援	83	8.2%
小児医療体制など子どもの健康支援	79	7.8%
教育環境の整備	46	4.5%
晩婚・晩産化による出産リスク等の教育	37	3.7%
乳幼児の保健指導や育児相談の充実	35	3.5%
妊娠・出産に関する情報提供	29	2.9%
親同士が交流できる場の整備	23	2.3%
その他	37	3.7%
無効・無回答	28	2.8%
回答者数	1,011	—

②属性別集計

(イ) 年齢別

10代では「子育てしやすい職場環境の整備」(60.0%)という回答が最も多く、20代、30代では「子育てに伴う経済的負担の軽減」、その他の年代では「安定した雇用の確保」という回答が最も多くなっています。

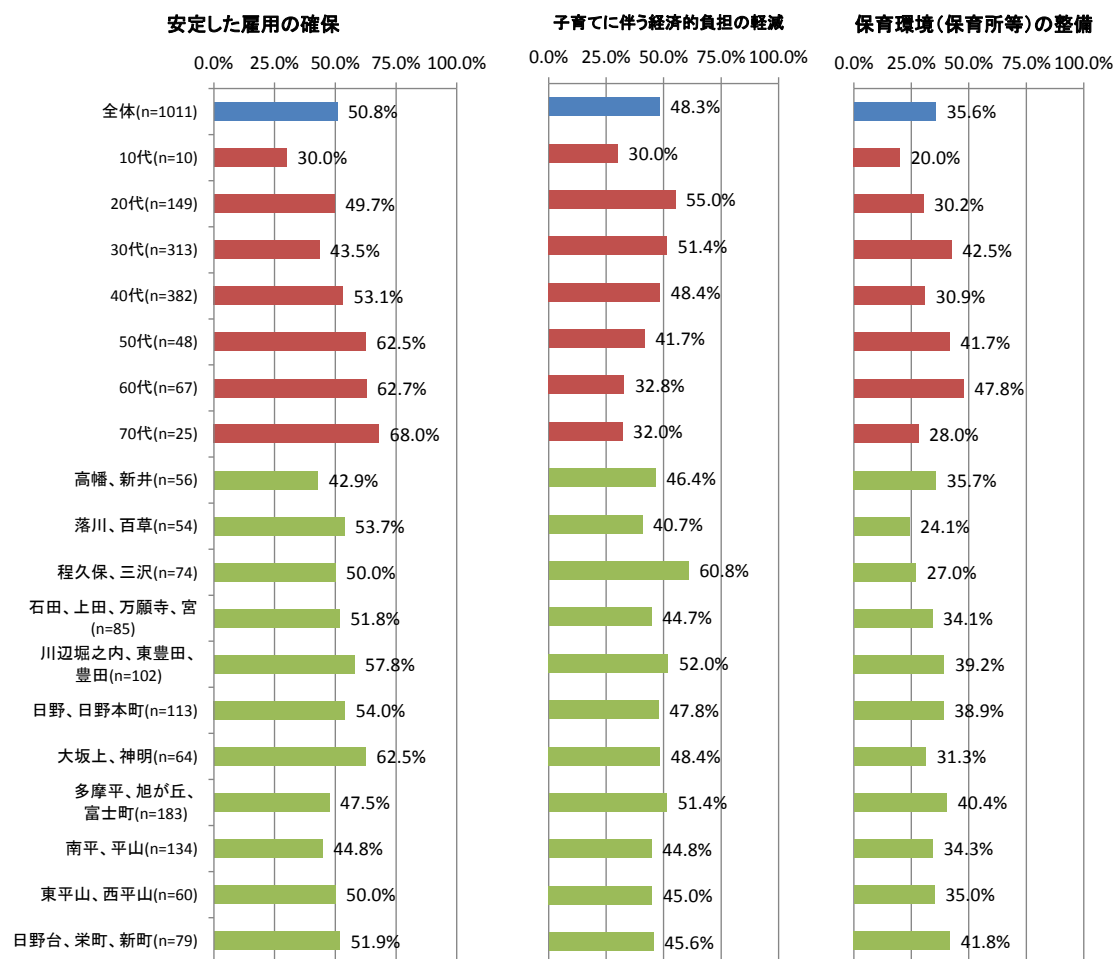
子育て世代の中心である20～30代では特に、経済的負担の軽減を求める方が多くなっています。

(ロ) 居住地域別

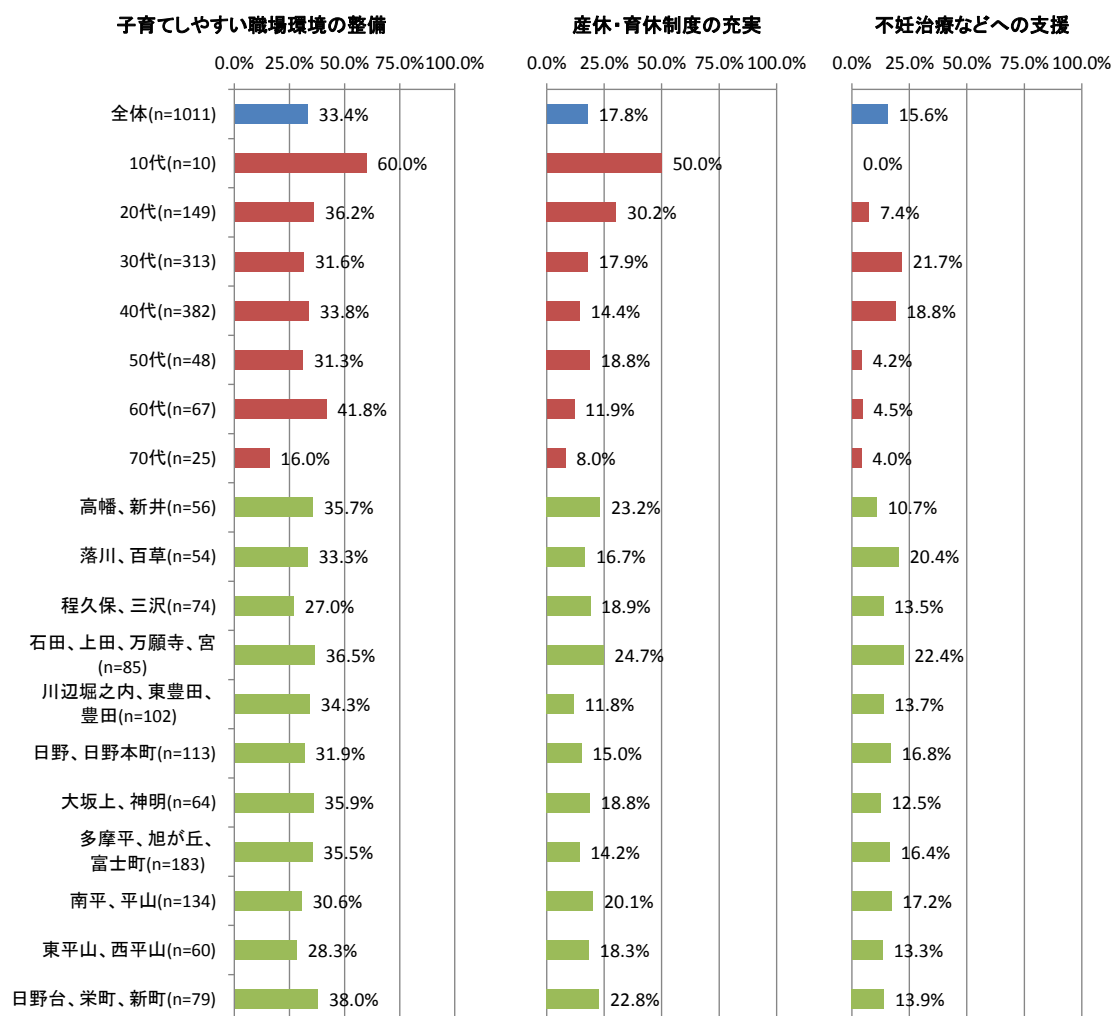
高幡・新井地区、程久保・三沢地区、多摩平・旭が丘・富士町地区、南平・平山地区では「子育てに伴う経済的負担の軽減」という回答が最も多く、その他の地域では「安定した雇用の確保」という回答が最も多くなっています。

概ねどの地区でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】(問16)



【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 6 : つづき）



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

第1章 調査の概要

（1）調査の目的

日野市から転出された方の居住環境の満足度や転出理由を把握することで、日野市の定住意向に関する課題を認識し、本市の将来展望につなげることを目的としています。

（2）調査対象・抽出方法

調査対象：日野市から転出された市外居住の方 1,000 名を無作為抽出し、調査対象としました。

（3）調査内容

- ・日野市からの転出時のこと
- ・現在お住まいの地域と日野市との比較

（設問数：13）

（4）調査方法・調査期間

- ① 調査方法：市民意識調査票を郵送により配布、回収
- ② 調査期間：平成 27 年 7 月下旬～8 月上旬

（5）回収結果

回収件数：243 件（回収率 24.3%）

抽出数 (a)	有効回答数 (b)	有効回答率 (b/a)
1,000 件	243 件	24.3%

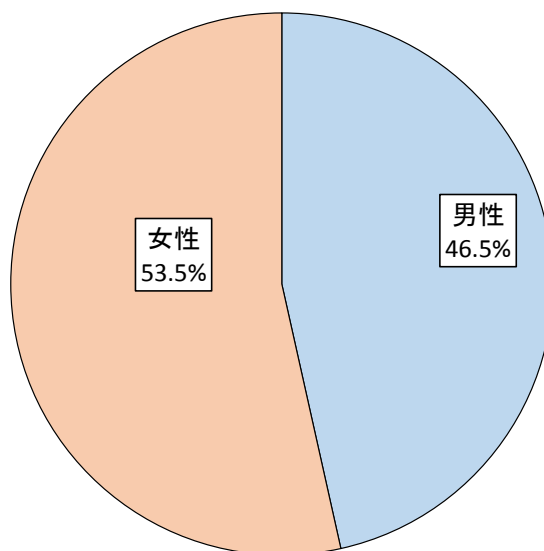
（6）留意点

- ① 結果は百分率で表示しました。百分率は小数点第 2 位を四捨五入したため、比率の合計が 100%と一致しない場合があります。
- ② 複数回答可の質問の百分率の合計は、100%を超えます。
- ③ 二重回答や判読不能の回答などは、無効としています。
- ④ 各質問のサンプル数は「n＝」で表しています。

第2章 「あなた自身のこと」について

（1）性別

男女比はほぼ同水準となっています。

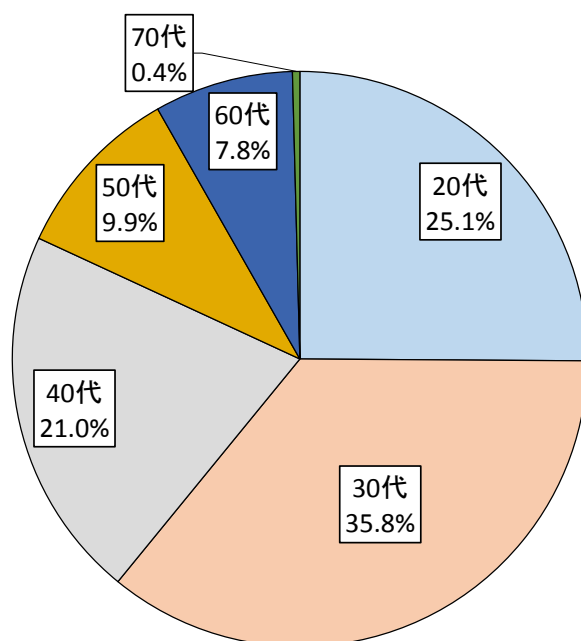


項目	人数	割合
男性	113	46.5%
女性	130	53.5%
合計	243	100.0%

第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

（２）年齢

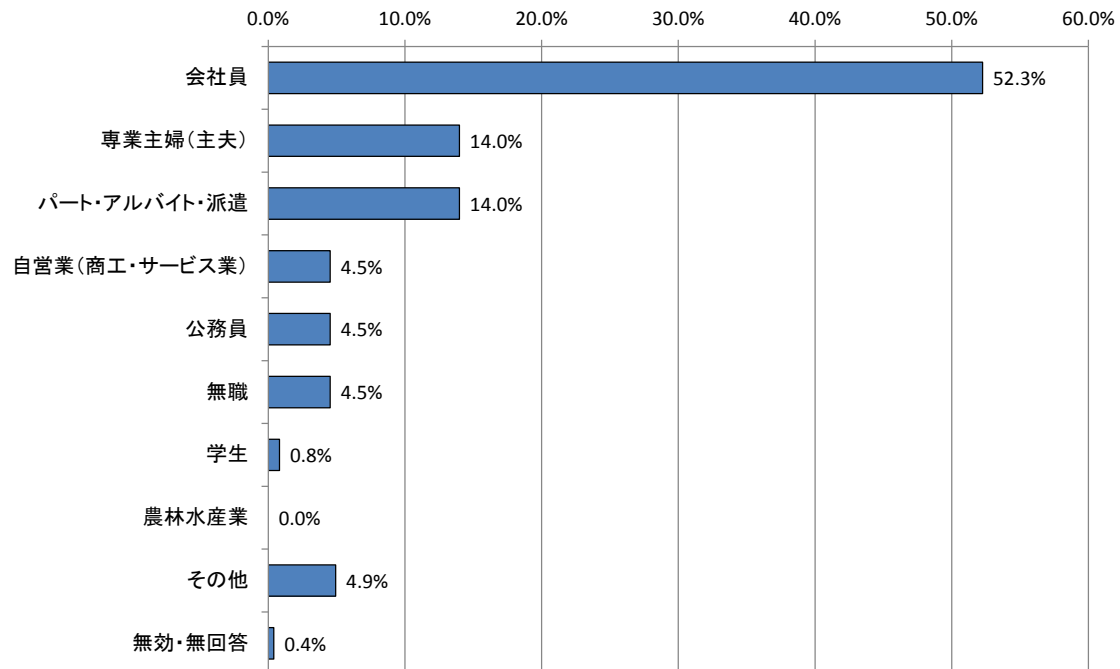
「30代」（35.8%）が最も多く、次いで「20代」（25.1%）、「40代」（21.0%）と続いています。



項目	人数	割合
20代	61	25.1%
30代	87	35.8%
40代	51	21.0%
50代	24	9.9%
60代	19	7.8%
70代	1	0.4%
合計	243	100.0%

（３）職業

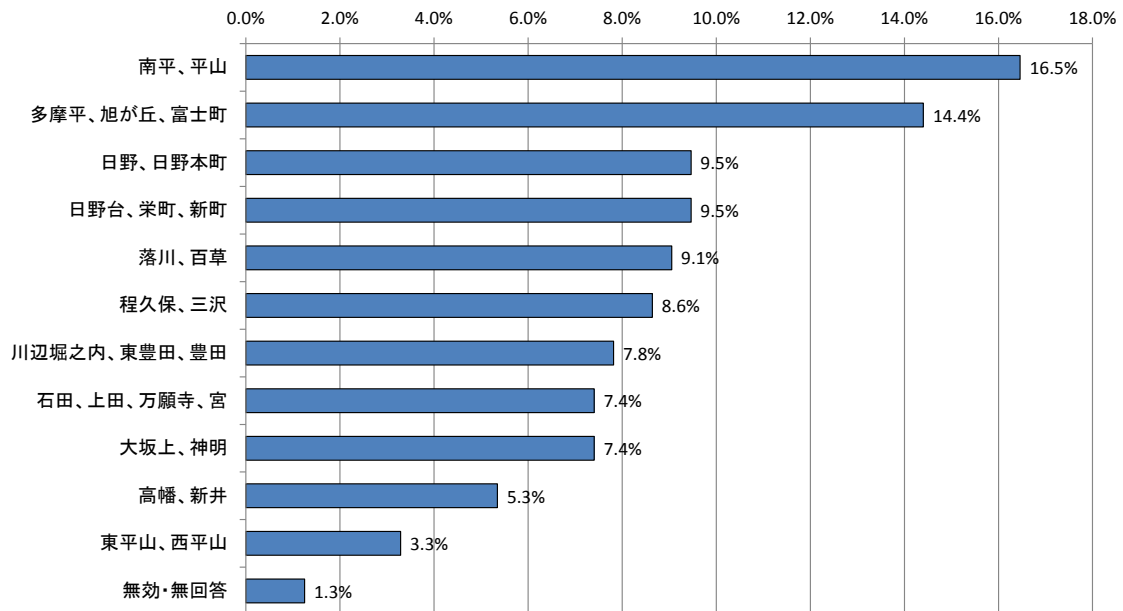
「会社員」（52.3%）の方が最も多く、次いで「専業主婦（主夫）」、「パート・アルバイト・派遣」（ともに 14.0%）と続いています。



項目	人数	割合
会社員	127	52.3%
専業主婦（主夫）	34	14.0%
パート・アルバイト・派遣	34	14.0%
自営業（商工・サービス業）	11	4.5%
公務員	11	4.5%
無職	11	4.5%
学生	2	0.8%
農林水産業	0	0.0%
その他	12	4.9%
無効・無回答	1	0.4%
合計	243	100.0%

（４）転出前の居住地域

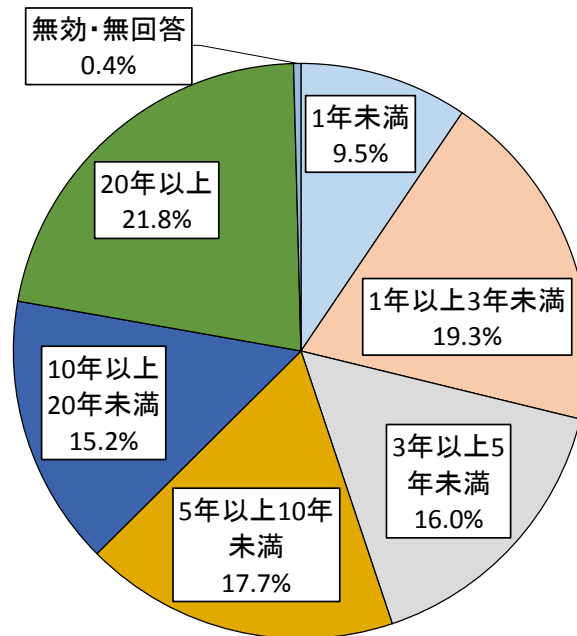
「南平、平山」（16.5%）が最も多くなっていますが、概ねどの地域からもバランスよく回答されています。



項目	人数	割合
南平、平山	40	16.5%
多摩平、旭が丘、富士町	35	14.4%
日野、日野本町	23	9.5%
日野台、栄町、新町	23	9.5%
落川、百草	22	9.1%
程久保、三沢	21	8.6%
川辺堀之内、東豊田、豊田	19	7.8%
石田、上田、万願寺、宮	18	7.4%
大坂上、神明	18	7.4%
高幡、新井	13	5.3%
東平山、西平山	8	3.3%
無効・無回答	3	1.3%
合計	243	100.0%

（５）転入前の居住地の居住期間

「20 年以上」（21.8%）が最も多く、次いで「1 年以上 3 年未満」（19.3%）、「5 年以上 10 年未満」（17.7%）と続いています。

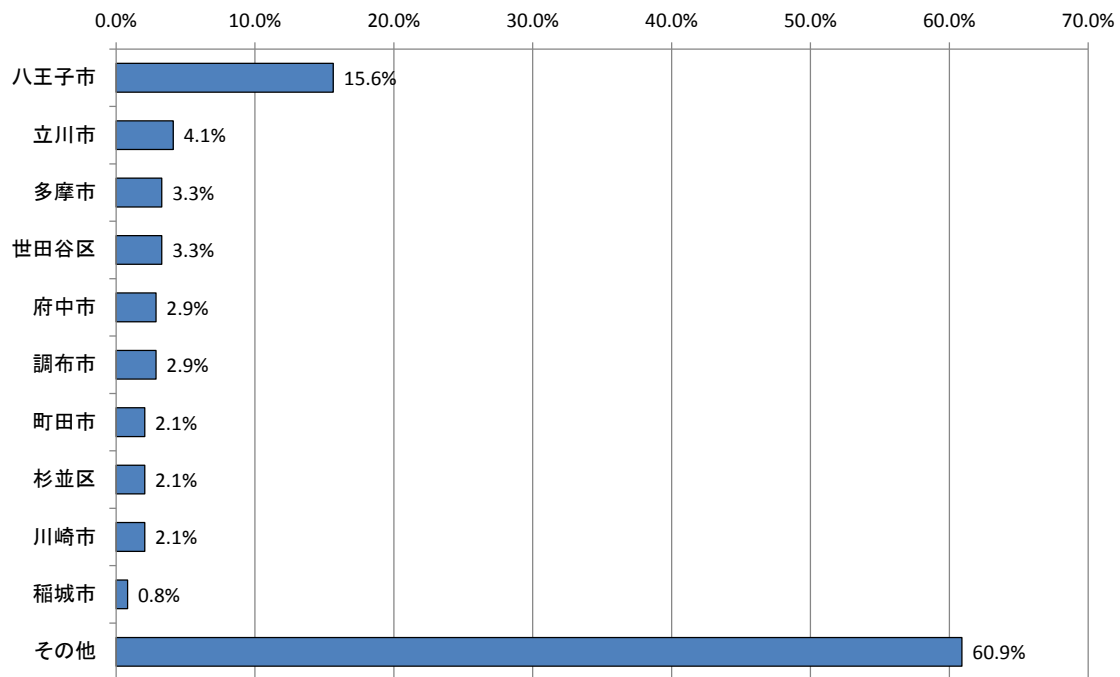


項目	人数	割合
1年未満	23	9.5%
1年以上3年未満	47	19.3%
3年以上5年未満	39	16.0%
5年以上10年未満	43	17.7%
10年以上20年未満	37	15.2%
20年以上	53	21.8%
無効・無回答	1	0.4%
回答者数	243	100.0%

（６）現在の居住地

「八王子市」(15.6%) が最も多く、次いで「立川市」(4.1%)、「多摩市」、「世田谷区」(ともに 3.3%) と続いています。

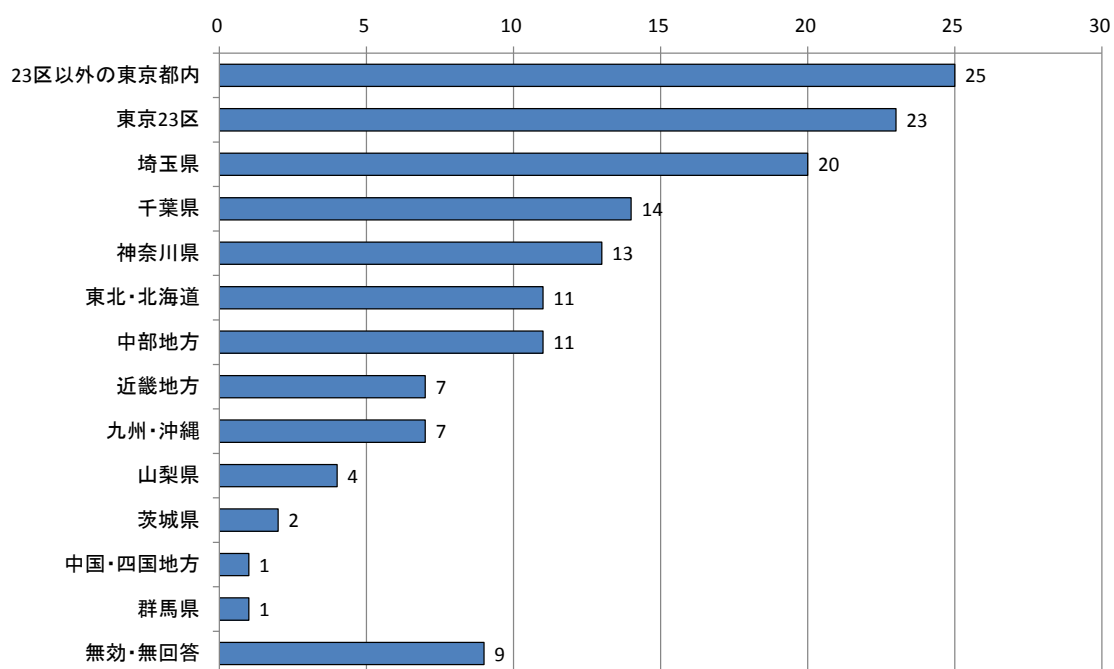
「その他」(60.9%) の内容としては、小平市、東大和市、三鷹市等の「23 区以外の東京都内」(25 件)、大田区、葛飾区、港区等の「東京 23 区」(23 件)、さいたま市等の「埼玉県」(20 件) という回答が多くなっています。



項目	人数	割合
八王子市	38	15.6%
立川市	10	4.1%
多摩市	8	3.3%
世田谷区	8	3.3%
府中市	7	2.9%
調布市	7	2.9%
町田市	5	2.1%
杉並区	5	2.1%
川崎市	5	2.1%
稲城市	2	0.8%
その他	148	60.9%
合計	243	100.0%

第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

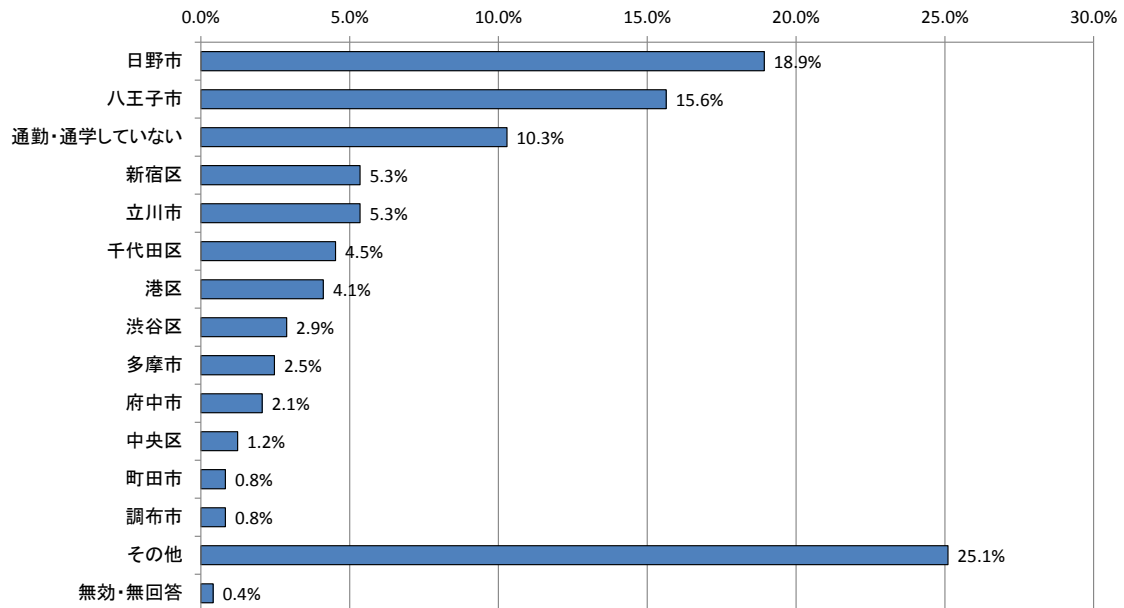
【「その他」の内容】



（７）通勤・通学先（転出前）

「日野市」（18.9％）へ通勤・通学していた方が最も多く、次いで「八王子市」（15.6％）と続いています。

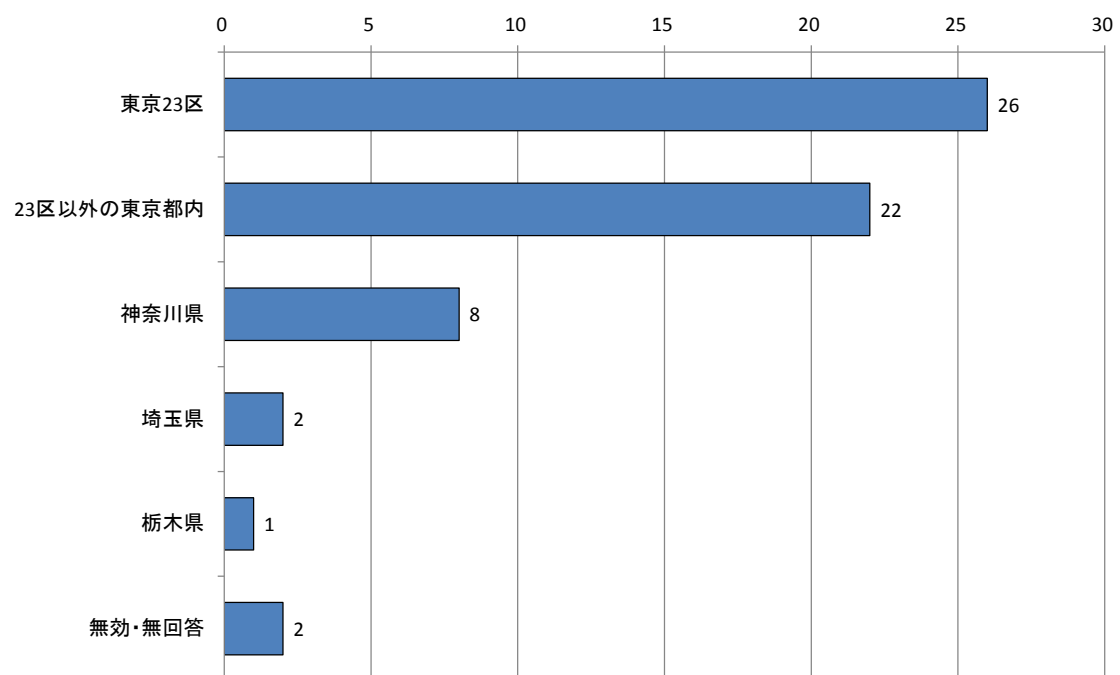
「その他」（25.1％）の内容としては、品川区、杉並区、豊島区等の「東京 23 区」（26 件）、国分寺市、武蔵野市等の「23 区以外の東京都内」（22 件）、川崎市、横浜市等の「神奈川県」（8 件）が多くなっています。



項目	人数	割合
日野市	46	18.9%
八王子市	38	15.6%
通勤・通学していない	25	10.3%
新宿区	13	5.3%
立川市	13	5.3%
千代田区	11	4.5%
港区	10	4.1%
渋谷区	7	2.9%
多摩市	6	2.5%
府中市	5	2.1%
中央区	3	1.2%
町田市	2	0.8%
調布市	2	0.8%
その他	61	25.1%
無効・無回答	1	0.4%
合計	243	100.0%

第二部 居留意向に関するアンケート調査（転出者向け）

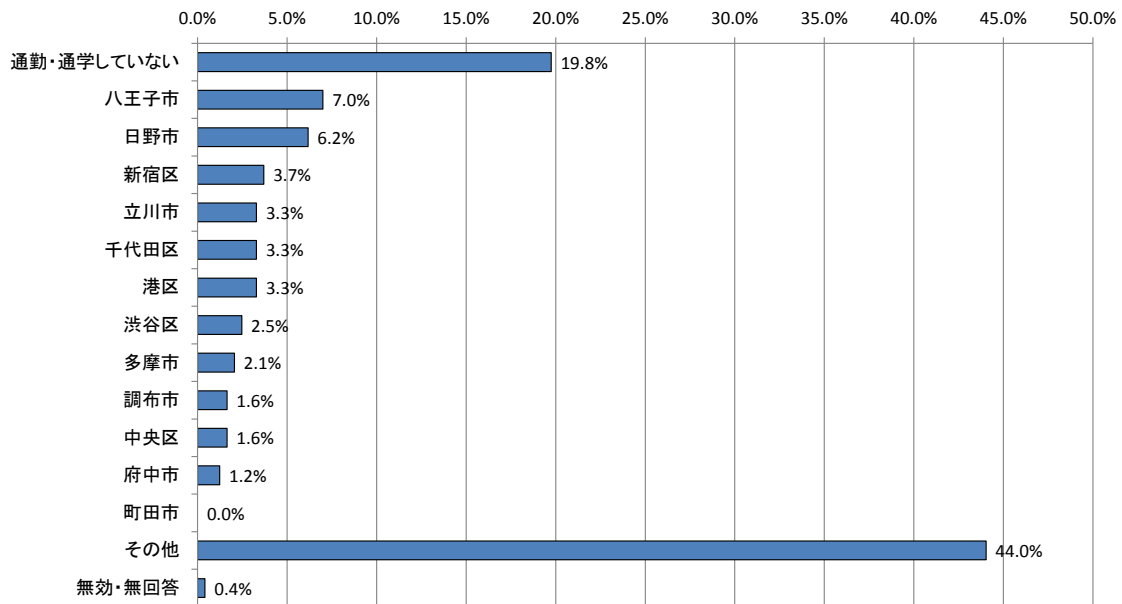
【「その他」の内容】



（８）通勤・通学先（転出後）

転出後は「通勤・通学していない」（19.8%）という方が最も多く、次いで「八王子市」（7.0%）、「日野市」（6.2%）と続いています。

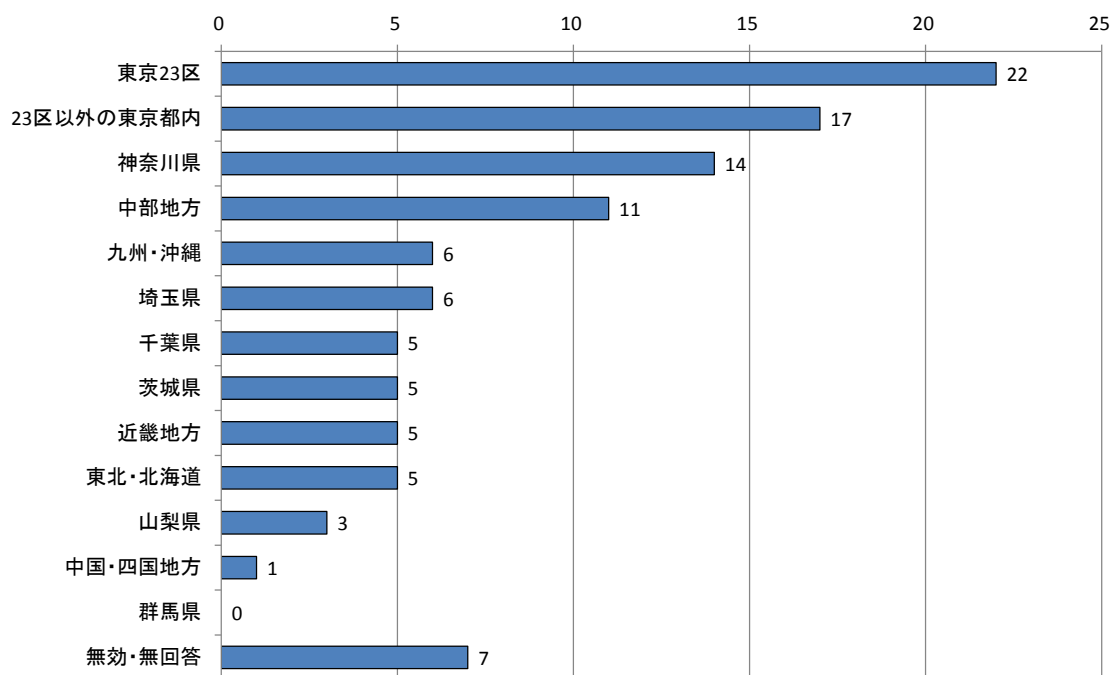
「その他」（44.0%）の内容としては、品川区、豊島区等の「東京 23 区」（22 件）、武蔵野市等の「23 区以外の東京都内」（17 件）、川崎市、横浜市等の「神奈川県」（14 件）が多くなっています。



項目	人数	割合
通勤・通学していない	48	19.8%
八王子市	17	7.0%
日野市	15	6.2%
新宿区	9	3.7%
立川市	8	3.3%
千代田区	8	3.3%
港区	8	3.3%
渋谷区	6	2.5%
多摩市	5	2.1%
調布市	4	1.6%
中央区	4	1.6%
府中市	3	1.2%
町田市	0	0.0%
その他	107	44.0%
無効・無回答	1	0.4%
合計	243	100.0%

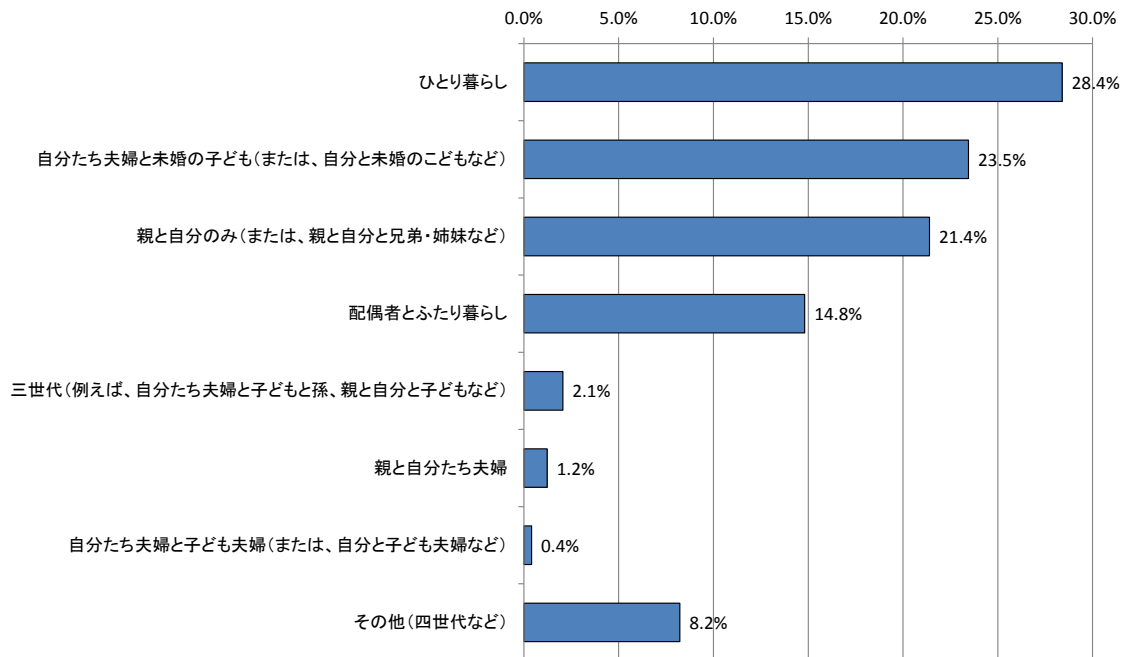
第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

【「その他」の内容】



（９）世帯構成（転出前）

「ひとり暮らし」（28.4%）であった方が最も多く、次いで「自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚のこどもなど）」（23.5%）、「親と自分のみ（または、親と自分と兄弟・姉妹など）」（21.4%）と続いています。

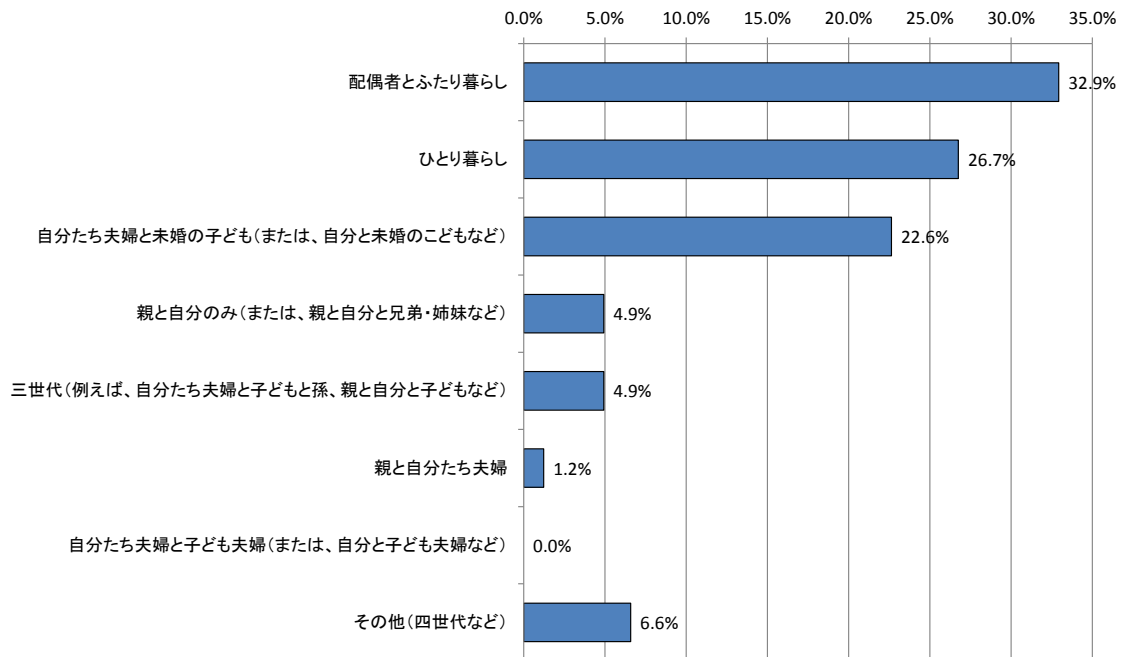


項目	人数	割合
ひとり暮らし	69	28.4%
自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚のこどもなど）	57	23.5%
親と自分のみ（または、親と自分と兄弟・姉妹など）	52	21.4%
配偶者とふたり暮らし	36	14.8%
三世代（例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど）	5	2.1%
親と自分たち夫婦	3	1.2%
自分たち夫婦と子ども夫婦（または、自分と子ども夫婦など）	1	0.4%
その他（四世代など）	20	8.2%
合計	243	100.0%

第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

（１０）世帯構成（転出後）

「配偶者とふたり暮らし」（32.9%）という方が最も多く、次いで「ひとり暮らし」（26.7%）、
「自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚のこどもなど）」（22.6%）と続いています。

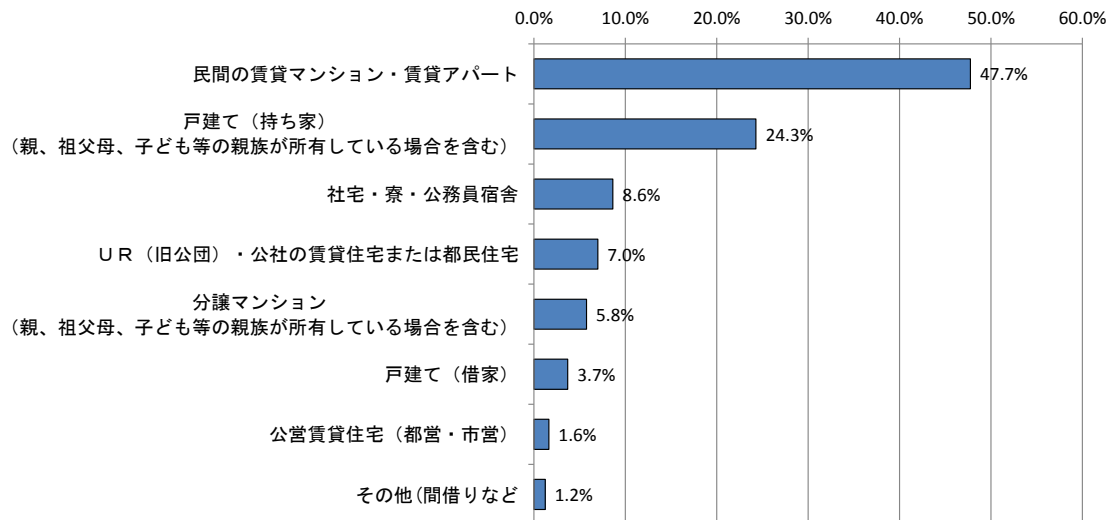


項目	人数	割合
配偶者とふたり暮らし	80	32.9%
ひとり暮らし	65	26.7%
自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚のこどもなど）	55	22.6%
親と自分のみ（または、親と自分と兄弟・姉妹など）	12	4.9%
三世代（例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど）	12	4.9%
親と自分たち夫婦	3	1.2%
自分たち夫婦と子ども夫婦（または、自分と子ども夫婦など）	0	0.0%
その他（四世代など）	16	6.6%
合計	243	100.0%

第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

（１１）住宅の状況（転出前）

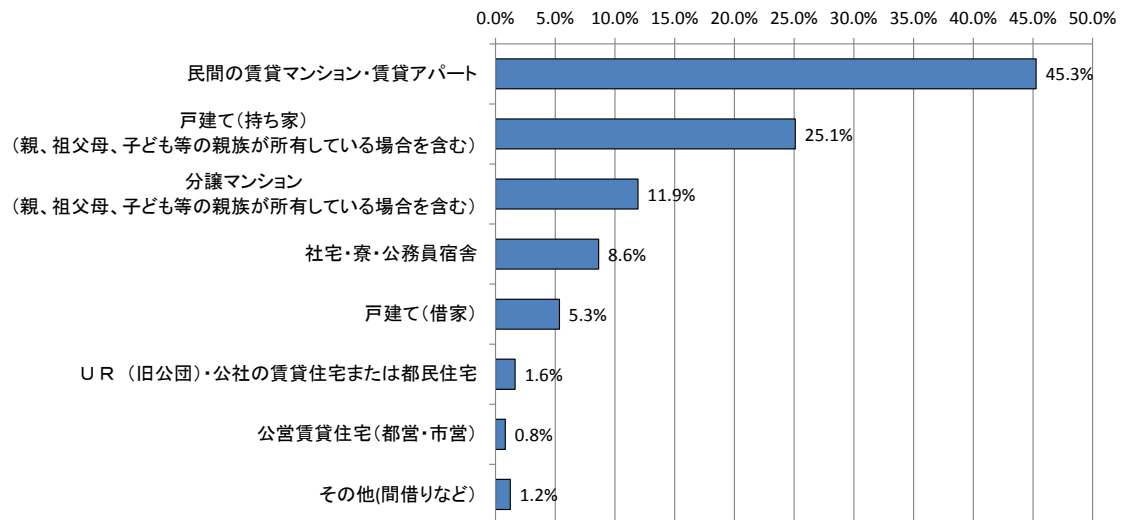
「民間の賃貸マンション・賃貸アパート」（47.7%）であった方が最も多く、次いで「戸建て（持ち家）」（24.3%）、「社宅・寮・公務員宿舎」（8.6%）と続いています。



項目	人数	割合
民間の賃貸マンション・賃貸アパート	116	47.7%
戸建て（持ち家） （親、祖父母、子ども等の親族が所有している場合を含む）	59	24.3%
社宅・寮・公務員宿舎	21	8.6%
UR（旧公団）・公社の賃貸住宅または都民住宅	17	7.0%
分譲マンション （親、祖父母、子ども等の親族が所有している場合を含む）	14	5.8%
戸建て（借家）	9	3.7%
公営賃貸住宅（都営・市営）	4	1.6%
その他（間借りなど）	3	1.2%
合計	243	100.0%

（１２）住宅の状況（転出後）

「民間の賃貸マンション・賃貸アパート」（45.3%）である方が最も多く、次いで「戸建て（持ち家）」（25.1%）、「分譲マンション」（11.9%）と続いています。



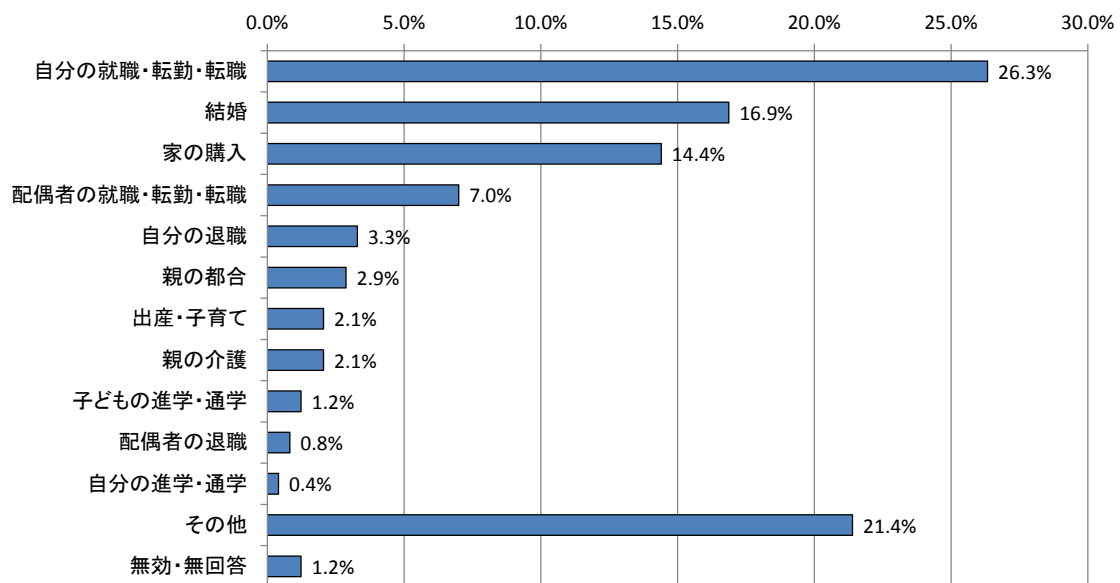
項目	人数	割合
民間の賃貸マンション・賃貸アパート	110	45.3%
戸建て（持ち家） （親、祖父母、子ども等の親族が所有している場合を含む）	61	25.1%
分譲マンション （親、祖父母、子ども等の親族が所有している場合を含む）	29	11.9%
社宅・寮・公務員宿舎	21	8.6%
戸建て（借家）	13	5.3%
UR（旧公団）・公社の賃貸住宅または都民住宅	4	1.6%
公営賃貸住宅（都営・市営）	2	0.8%
その他(間借りなど)	3	1.2%
合計	243	100.0%

第3章 「日野市からの転出時のこと」について

問10 何をきっかけに日野市から転出しましたか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

①全体集計

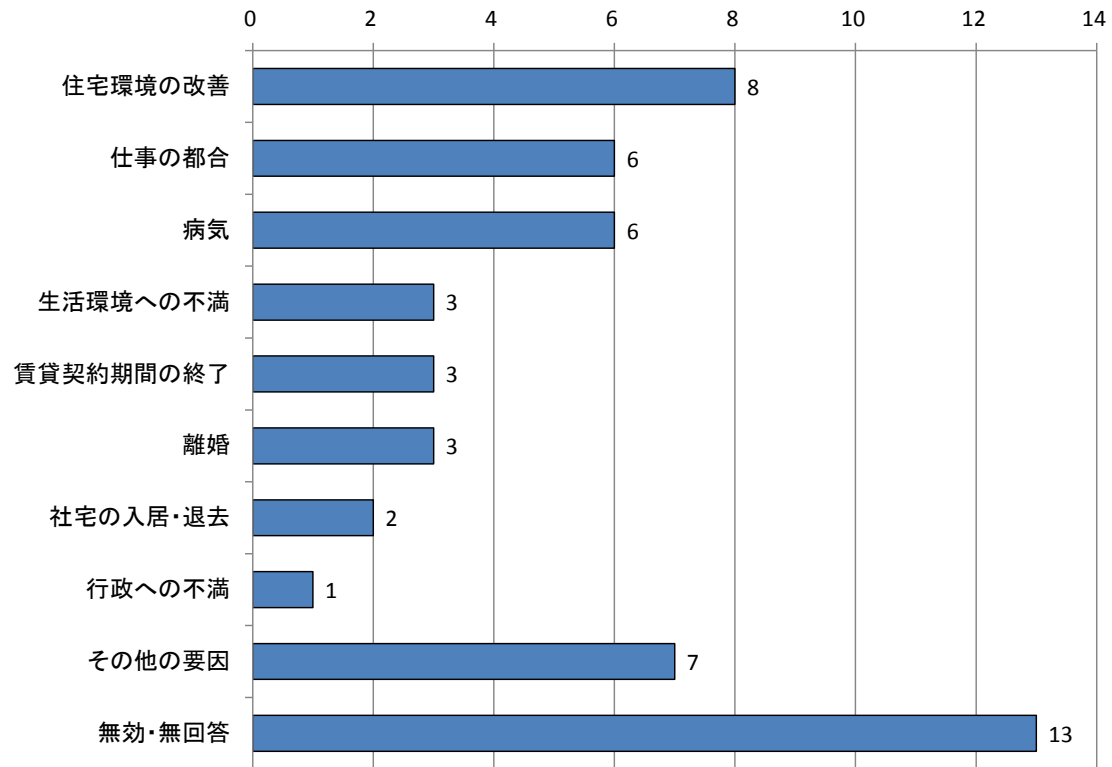
「自分の就職・転勤・転職」（26.3%）という回答が最も多く、次いで「結婚」（16.9%）、
「家の購入」（14.4%）と続いています。



選択肢	回答数	割合
自分の就職・転勤・転職	64	26.3%
結婚	41	16.9%
家の購入	35	14.4%
配偶者の就職・転勤・転職	17	7.0%
自分の退職	8	3.3%
親の都合	7	2.9%
出産・子育て	5	2.1%
親の介護	5	2.1%
子どもの進学・通学	3	1.2%
配偶者の退職	2	0.8%
自分の進学・通学	1	0.4%
その他	52	21.4%
無効・無回答	3	1.2%
回答者数	243	100.0%

【問１０ 「その他」の内容】

住宅の老朽化による住み替え等の「住宅環境の改善」（８件）や「仕事の都合」、「病気」（ともに６件）という内容が多くなっています。



（「その他の要因」について）

兄妹の実家入居希望があり、それを機に引っ越し

自分の希望

自分の都合（２件）

自分１人になったから

震災

友人の上京。

②属性別集計

（イ）年齢別

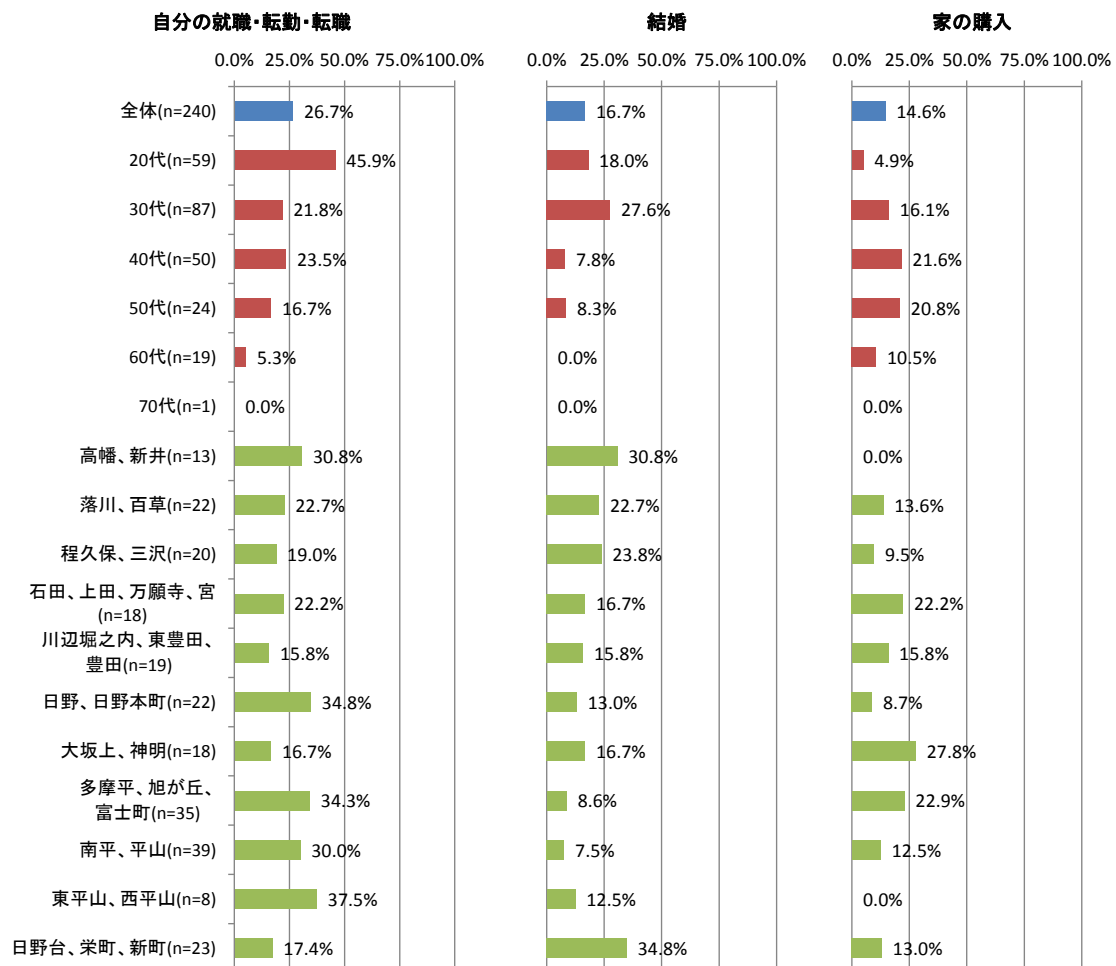
30代では、「結婚」（27.6%）という回答が最も多く、50代では「家の購入」（20.8%）、60代では「自分の退職」、「親の介護」（ともに15.8%）という回答が多くなっています。その他の年代では「自分の就職・転勤・転職」という回答が最も多くなっています。

年代が若い方は仕事関係での引越しが多く、年代が高くなると仕事以外の要因も加わることがわかります。

（ロ）転出前の居住地域別

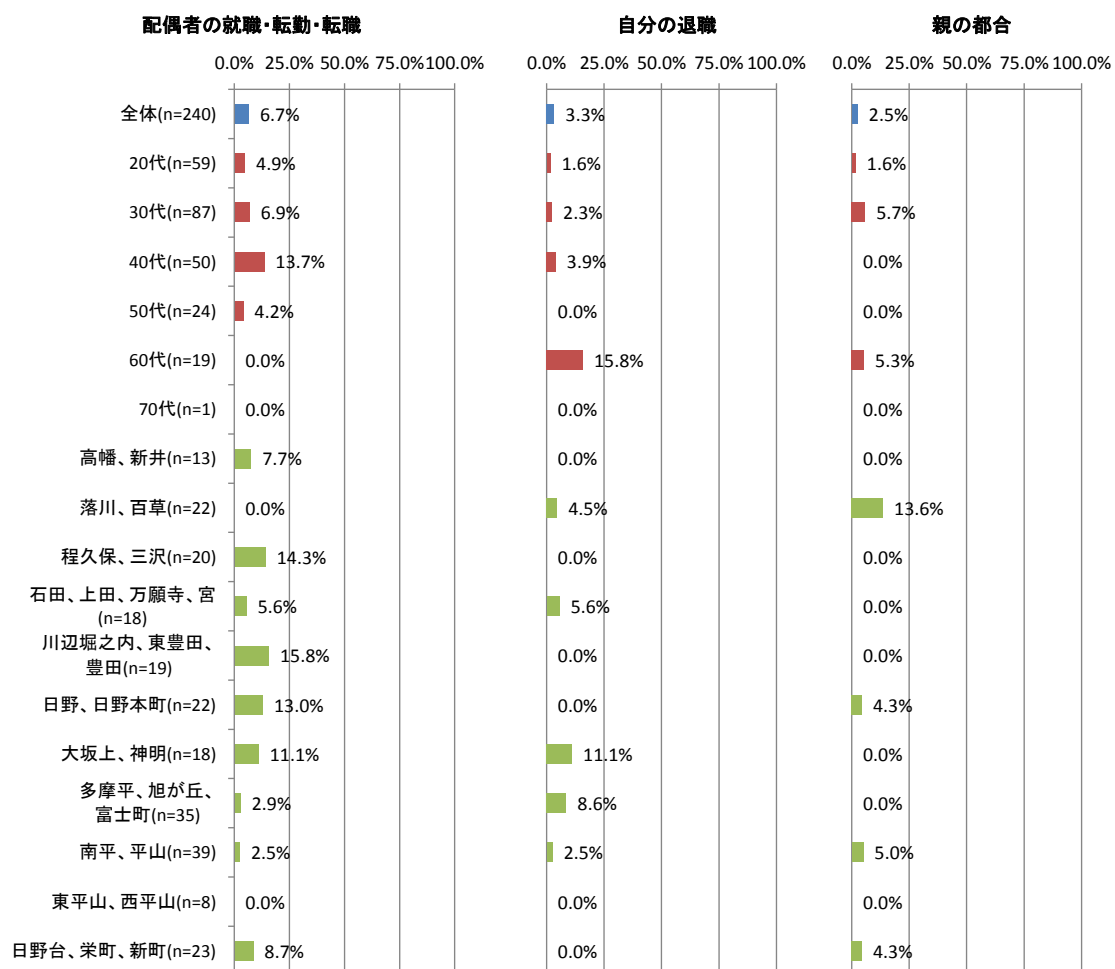
ほとんどの地区で「自分の就職・転勤・転職」という回答が最も多くなっており、概ねどの地区でも、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問10）



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

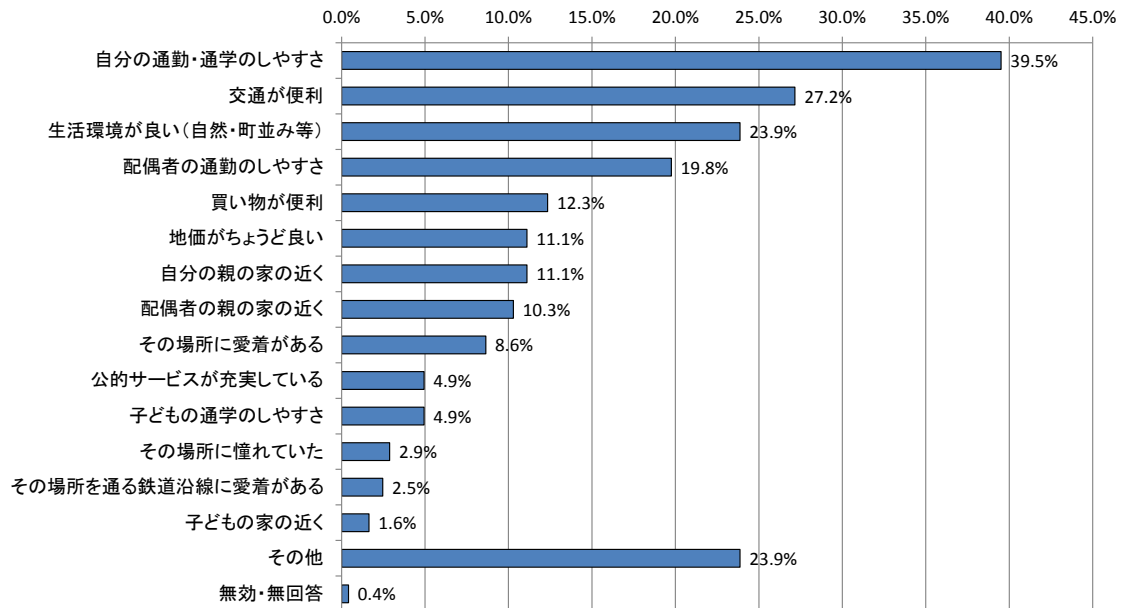
【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 10：つづき）



問11 現在のお住まいを選んだ理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

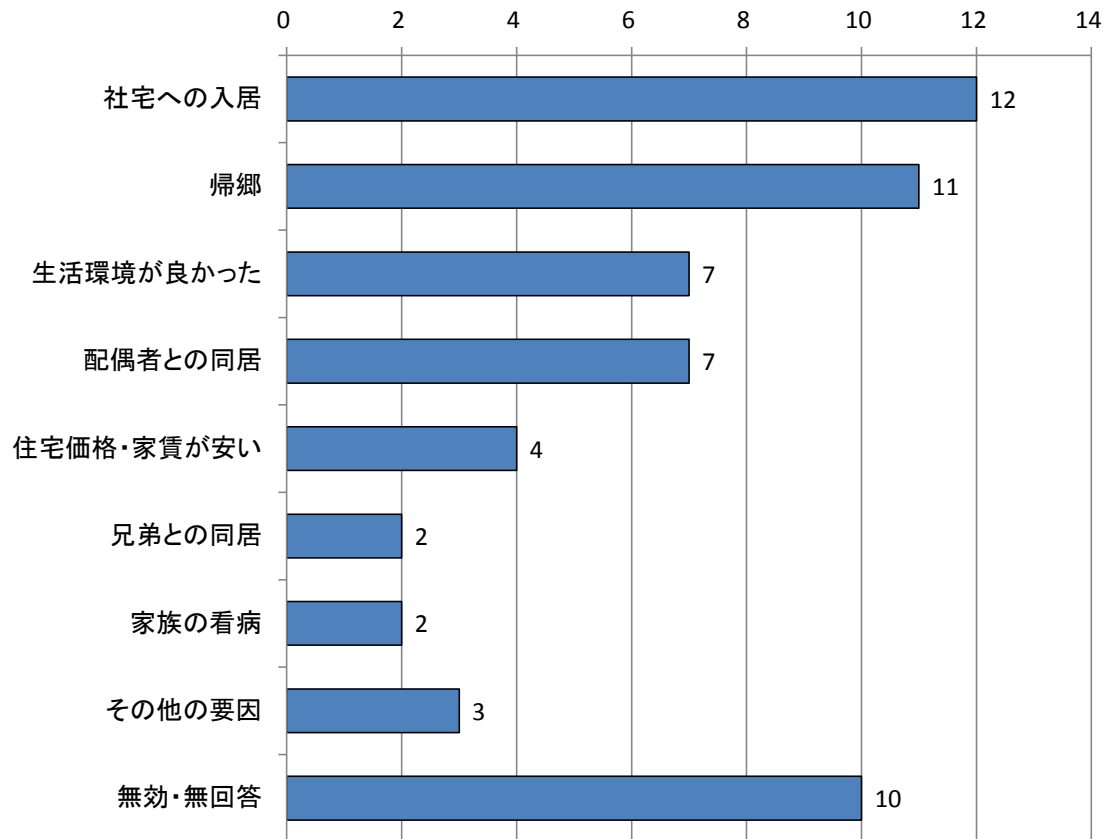
「自分の通勤・通学のしやすさ」（39.5%）という回答が最も多く、次いで「交通が便利」（27.2%）、「生活環境が良い（自然・町並み等）」（23.9%）と続いています。



選択肢	回答数	割合
自分の通勤・通学のしやすさ	96	39.5%
交通が便利	66	27.2%
生活環境が良い（自然・町並み等）	58	23.9%
配偶者の通勤のしやすさ	48	19.8%
買い物が便利	30	12.3%
地価がちょうど良い	27	11.1%
自分の親の家の近く	27	11.1%
配偶者の親の家の近く	25	10.3%
その場所に愛着がある	21	8.6%
公的サービスが充実している	12	4.9%
子どもの通学のしやすさ	12	4.9%
その場所に憧れていた	7	2.9%
その場所を通る鉄道沿線に愛着がある	6	2.5%
子どもの家の近く	4	1.6%
その他	58	23.9%
無効・無回答	1	0.4%
回答者数	243	—

【問 1 1 「その他」の内容】

「社宅への入居」（12 件）、「帰郷」（11 件）、住環境が良かった等の「生活環境が良かった」及び「配偶者との同居」（ともに 7 件）という内容が多くなっています。



（「その他の要因」について）

寺院の住職に嫁いだので選べない。

自分の力の無さ。そうするしかなかった。

配偶者の祖母が所有している所を提供してくれたから。

②属性別集計

（イ）年齢別

60代、70代では「生活環境が良い（自然・町並み等）」という回答が最も多く、その他の年代では「自分の通勤・通学のしやすさ」という回答が最も多くなっています。

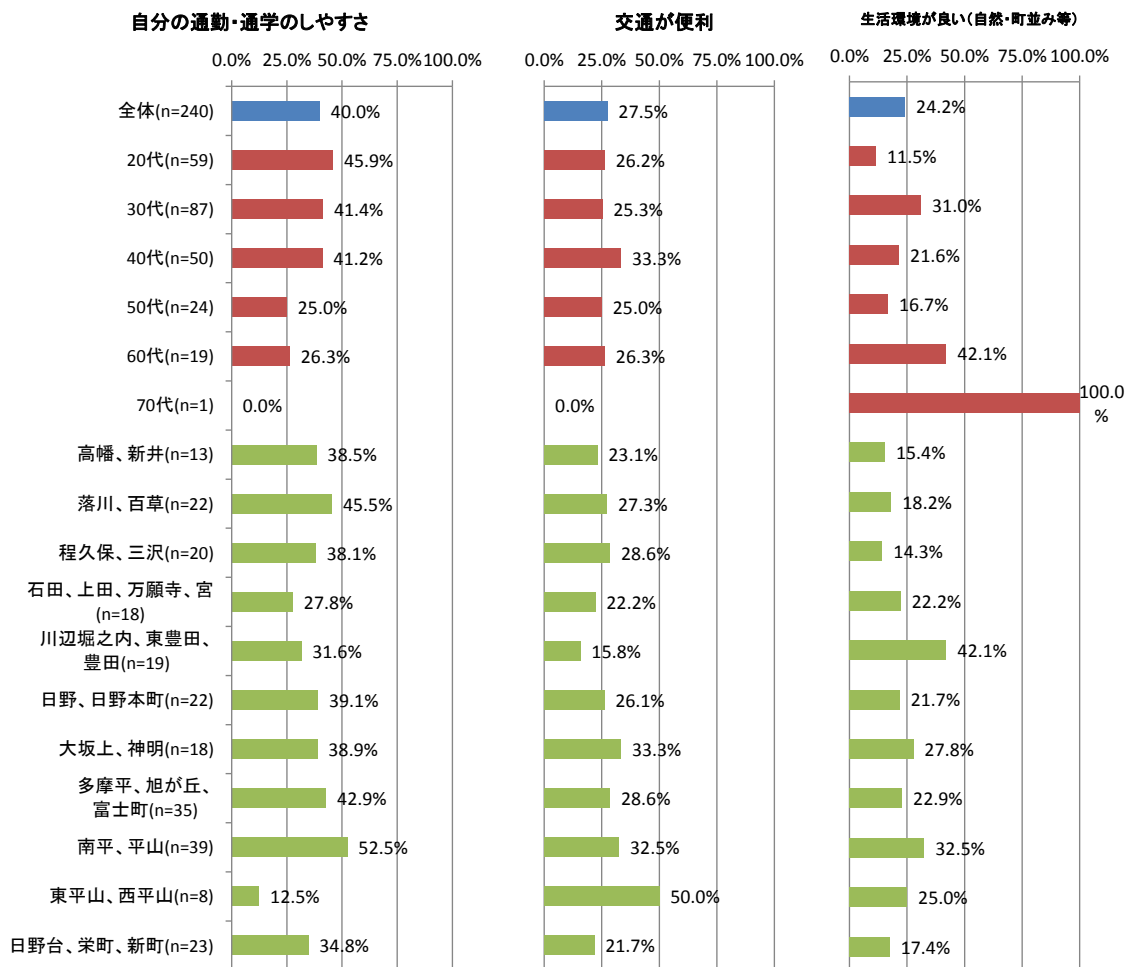
年齢別にみると、概ね全体集計の結果と同様の傾向となっています。

（ロ）転出前の居住地域別

川辺堀之内、東豊田、豊田地区では「生活環境が良い（自然・町並み等）」（42.1%）という回答が最も多く、東平山、西平山地区では「交通が便利」（50.0%）という回答が最も多くなっており、その他の地区では「自分の通勤・通学のしやすさ」という回答が最も多くなっています。

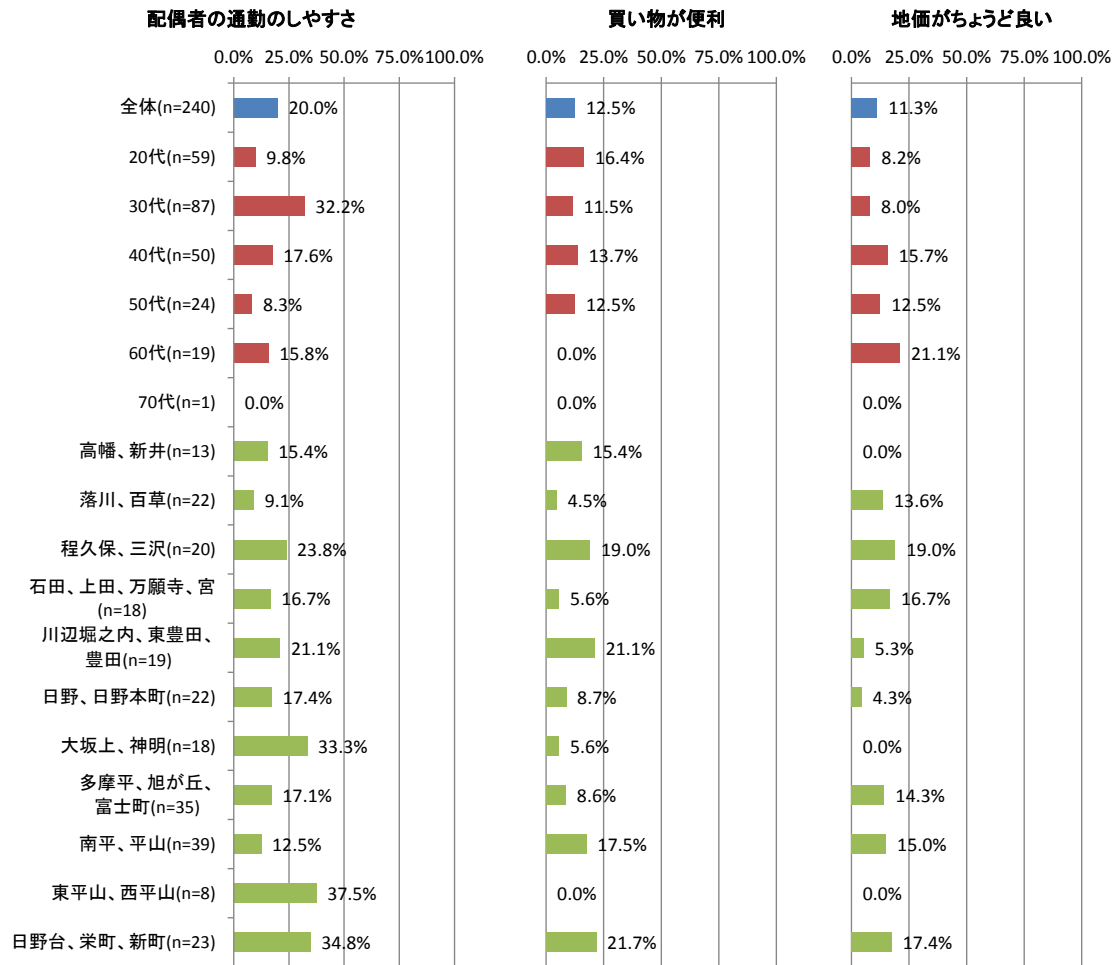
居住地域別にみると、概ね全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位6項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問11）



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

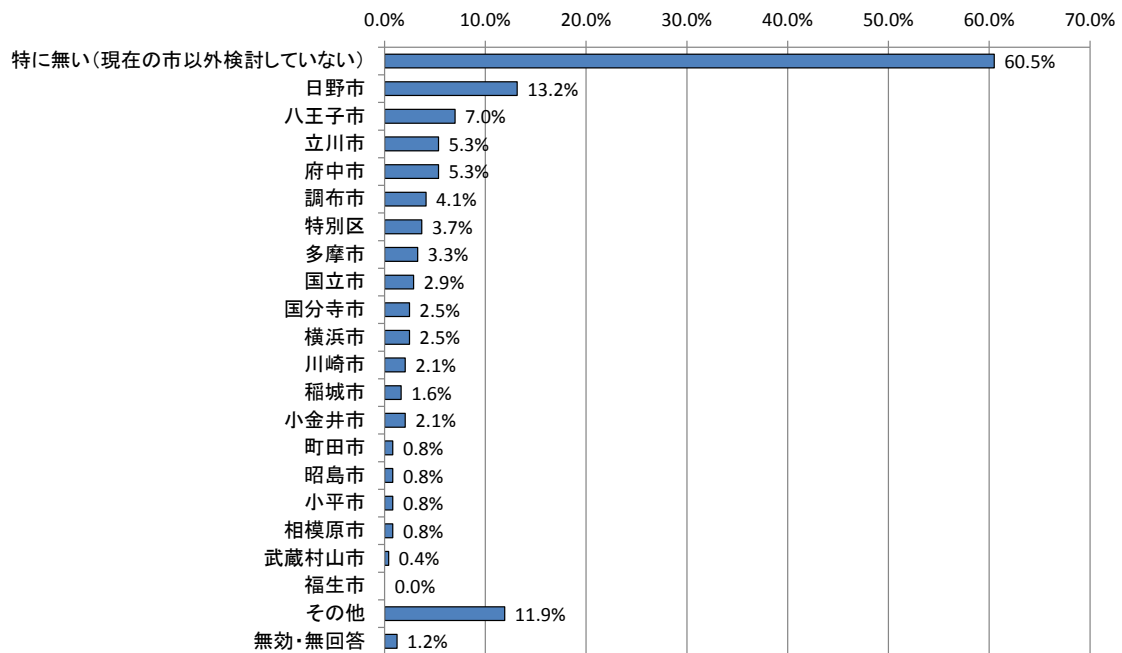
【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 1：つづき）



問１２ 転出するにあたって、現在お住まいの市以外でもお住まいを探されましたか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

①全体集計

「特に無い（現在の市以外検討していない）」(60.5%) という回答が最も多くなりました。



選択肢	回答数	割合
特になし	147	60.5%
日野市	32	13.2%
八王子市	17	7.0%
立川市	13	5.3%
府中市	13	5.3%
調布市	10	4.1%
特別区	9	3.7%
多摩市	8	3.3%
国立市	7	2.9%
国分寺市	6	2.5%
横浜市	6	2.5%
川崎市	5	2.1%

選択肢	回答数	割合
稲城市	4	1.6%
小金井市	5	2.1%
町田市	2	0.8%
昭島市	2	0.8%
小平市	2	0.8%
相模原市	2	0.8%
武蔵村山市	1	0.4%
福生市	0	0.0%
その他	29	11.9%
無効・無回答	3	1.2%
回答者数	243	—

②属性別集計

（イ）年齢別

どの年代の方も「特に無い（現在の市以外検討していない）」という回答が最も多くなっています。

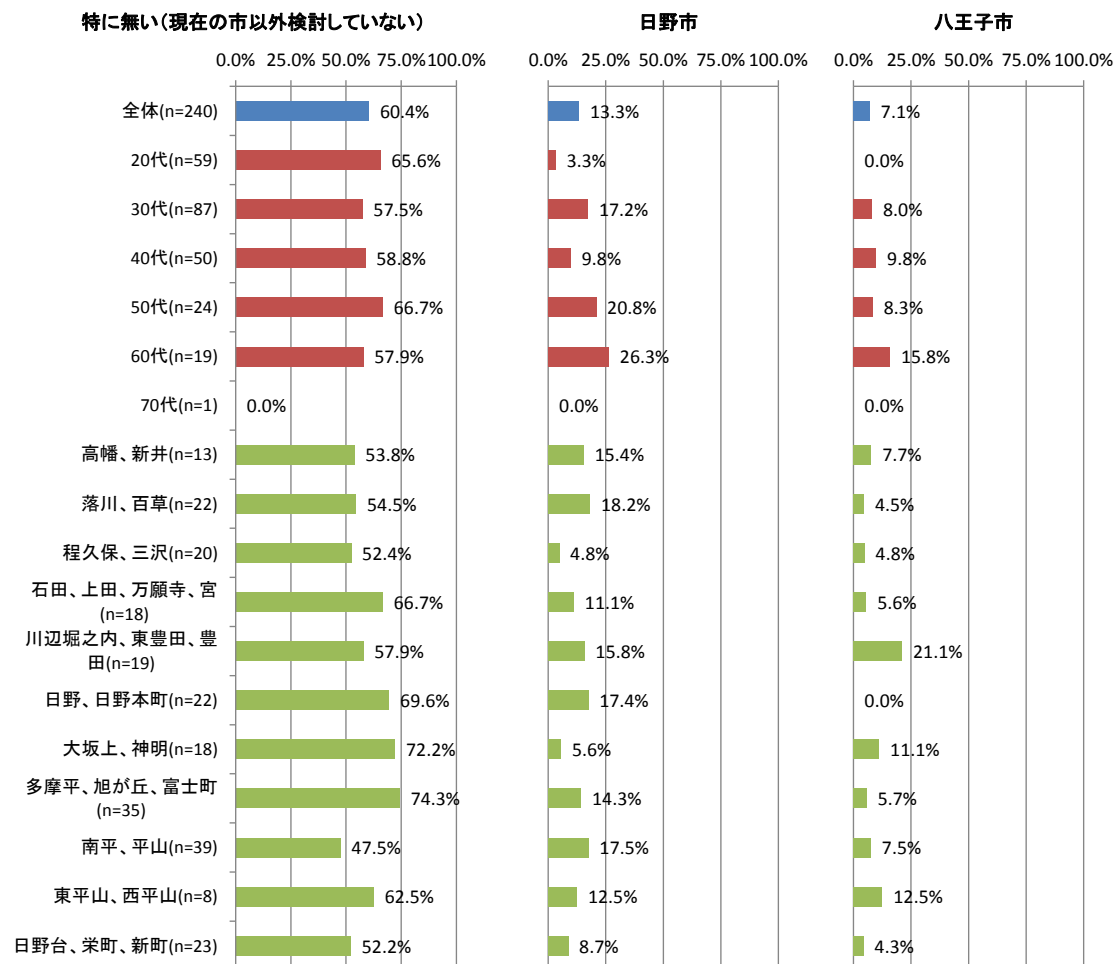
年齢別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

（ロ）転出前の居住地地域別

どの地域に住んでいた方も、「特に無い（現在の市以外検討していない）」という回答が最も多くなっています。

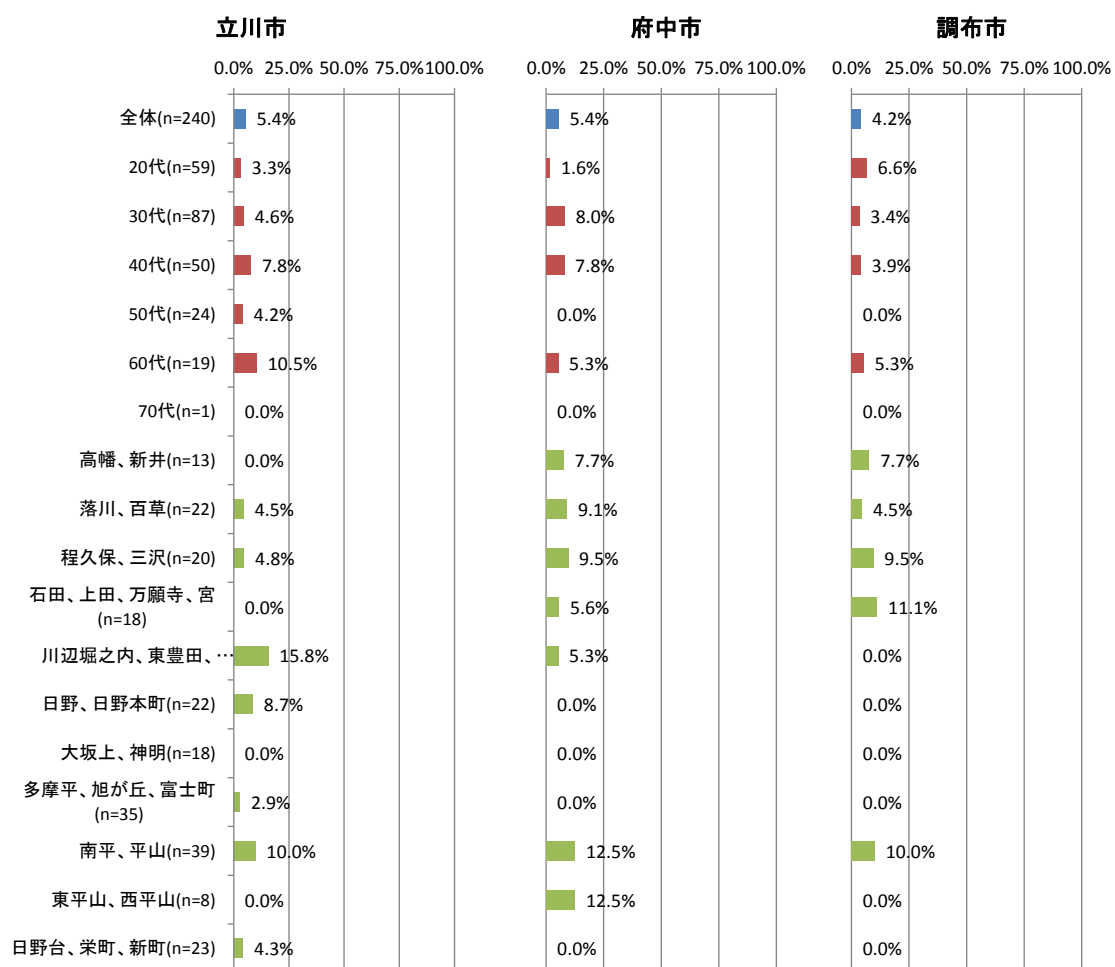
転出前の居住地地域別にみると、全体集計の結果と同様の傾向となっています。

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 2）



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

【上位 6 項目における全体・年齢別・地区別クロス集計】（問 1 2：つづき）

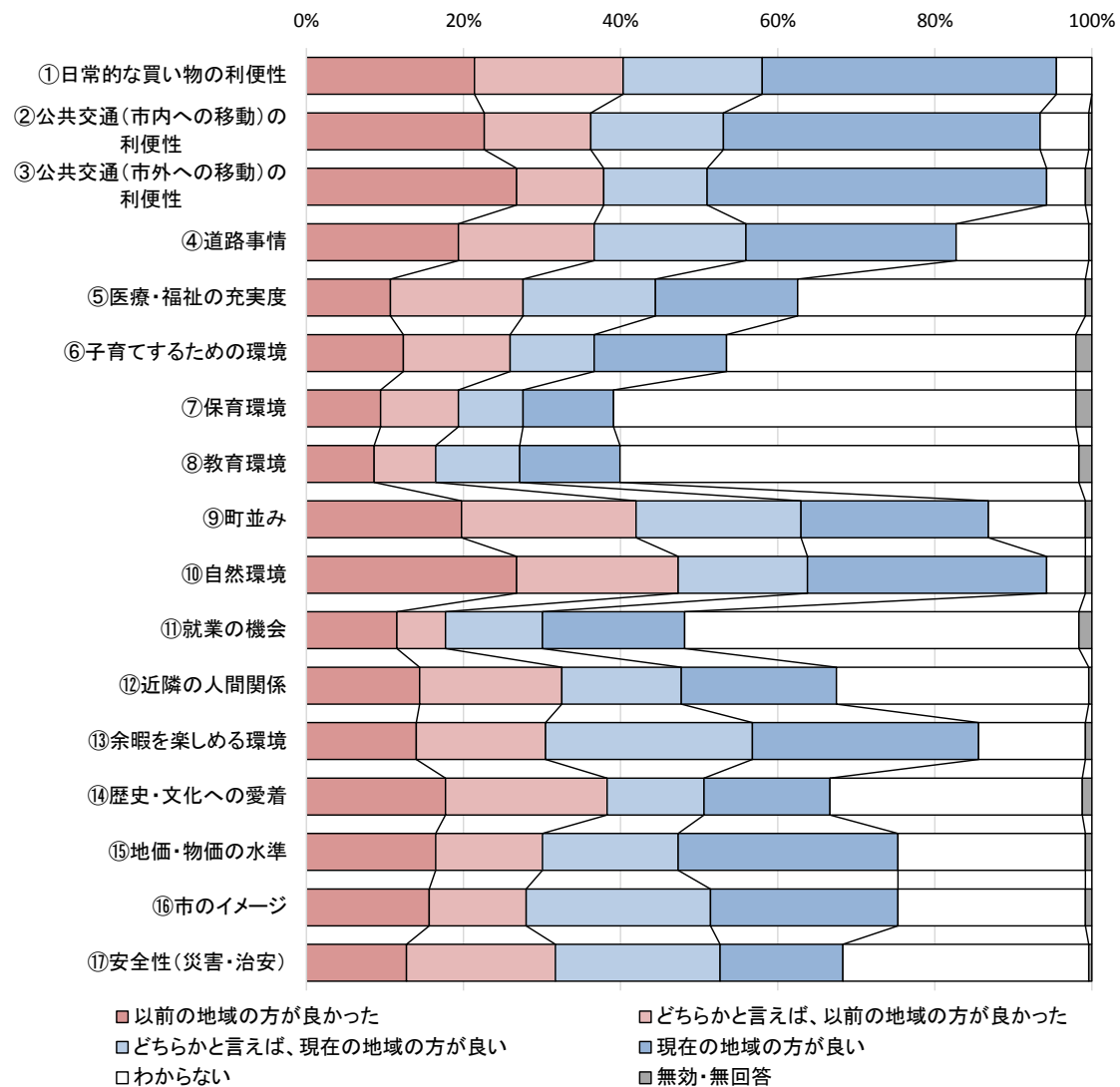


第4章 「現在のお住まいの地域」について

問13 あなたが以前お住まいだった日野市の地域と、現在お住まいの市の地域を比較したとき、あなたご自身はどちらの環境が良いと感じますか。①～⑰の各項目について、それぞれ最もあてはまるもの1つに○をつけて下さい

①全体集計

多くの項目で「現在の地域の方が良い」という回答が多くなっています。特に、「①日常的な買い物の利便性」、「②公共交通（市内への移動）の利便性」、「③公共交通（市外への移動）の利便性」の項目では「現在の地域の方が良い」という回答の割合が高く、買い物や交通アクセスといった日常生活の利便性に日野市の課題があると考えられます。



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

【全体集計結果：一覧表】

	以前の地域の方が良かった		どちらかと言えば、以前の地域の方が良かった		どちらかと言えば、現在の地域の方が良い		現在の地域の方が良い		わからない		無効・無回答		回答者数
①日常的な買い物の利便性	52	21.4%	46	18.9%	43	17.7%	91	37.4%	11	4.5%	0	0.0%	243
	55	22.6%	33	13.6%	41	16.9%	98	40.3%	15	6.2%	1	0.4%	243
	65	26.7%	27	11.1%	32	13.2%	105	43.2%	12	4.9%	2	0.8%	243
	47	19.3%	42	17.3%	47	19.3%	65	26.7%	41	16.9%	1	0.4%	243
⑤医療・福祉の充実度	26	10.7%	41	16.9%	41	16.9%	44	18.1%	89	36.6%	2	0.8%	243
⑥子育てするための環境	30	12.3%	33	13.6%	26	10.7%	41	16.9%	108	44.4%	5	2.1%	243
⑦保育環境	23	9.5%	24	9.9%	20	8.2%	28	11.5%	143	58.8%	5	2.1%	243
⑧教育環境	21	8.6%	19	7.8%	26	10.7%	31	12.8%	142	58.4%	4	1.6%	243
⑨町並み	48	19.8%	54	22.2%	51	21.0%	58	23.9%	30	12.3%	2	0.8%	243
⑩自然環境	65	26.7%	50	20.6%	40	16.5%	74	30.5%	12	4.9%	2	0.8%	243
⑪就業の機会	28	11.5%	15	6.2%	30	12.3%	44	18.1%	122	50.2%	4	1.6%	243
⑫近隣の人間関係	35	14.4%	44	18.1%	37	15.2%	48	19.8%	78	32.1%	1	0.4%	243
⑬余暇を楽しめる環境	34	14.0%	40	16.5%	64	26.3%	70	28.8%	33	13.6%	2	0.8%	243
⑭歴史・文化への愛着	43	17.7%	50	20.6%	30	12.3%	39	16.0%	78	32.1%	3	1.2%	243
⑮地価・物価の水準	40	16.5%	33	13.6%	42	17.3%	68	28.0%	58	23.9%	2	0.8%	243
⑯市のイメージ	38	15.6%	30	12.3%	57	23.5%	58	23.9%	58	23.9%	2	0.8%	243
⑰安全性（災害・治安）	31	12.8%	46	18.9%	51	21.0%	38	15.6%	76	31.3%	1	0.4%	243

（各項目ごとに回答率が最も高い選択肢について、表中で色づけしている）

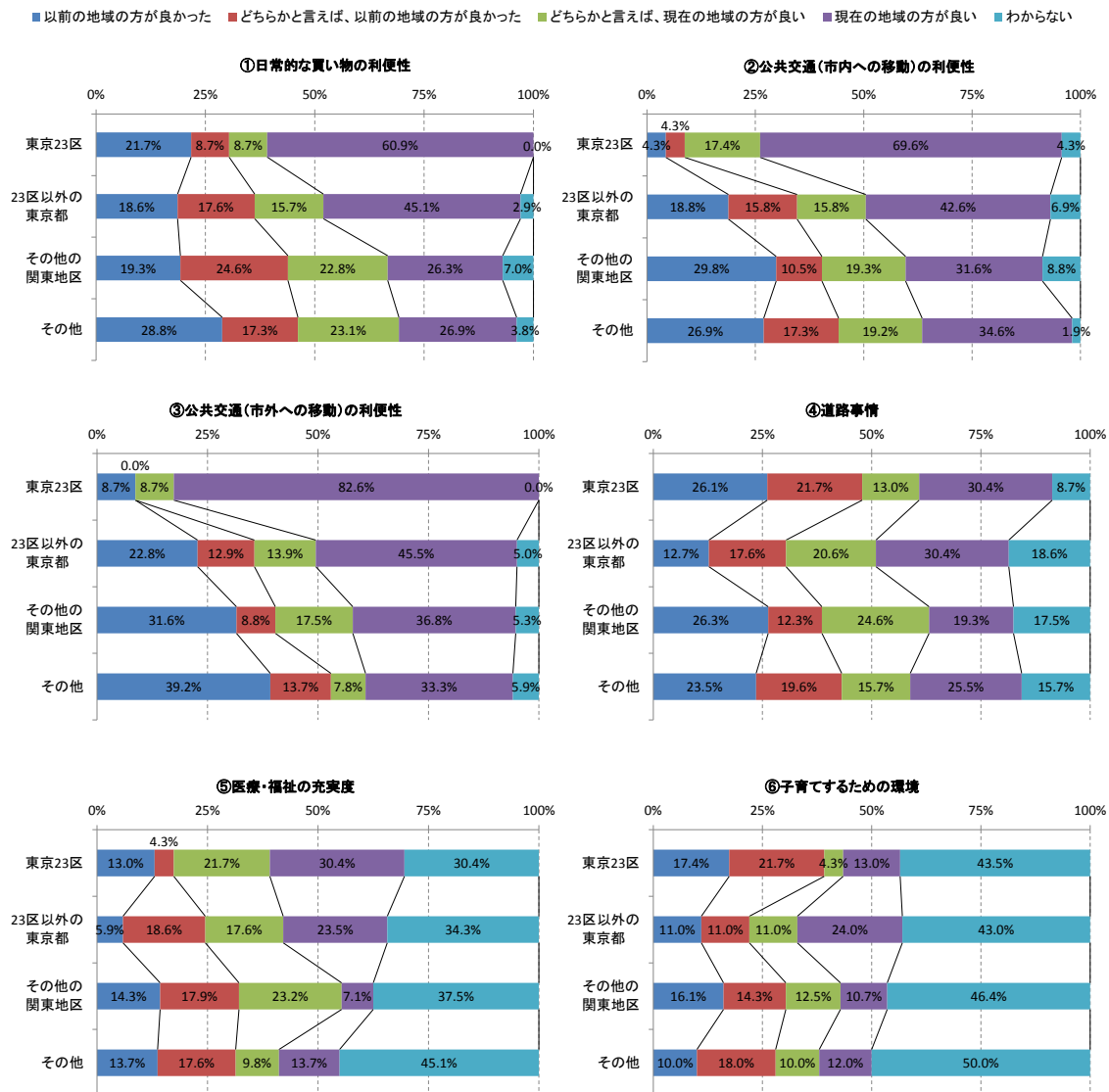
②属性別集計（現在の居住地区別）

買い物の利便性や交通の利便性については、転居先である東京都内（23区及び多摩地域）及びその他の地域の方が満足度が高い結果となりました。

一方で、自然環境の豊かさや地価・物価の安さについては転居前の日野市の方が満足度が高い結果となりました。

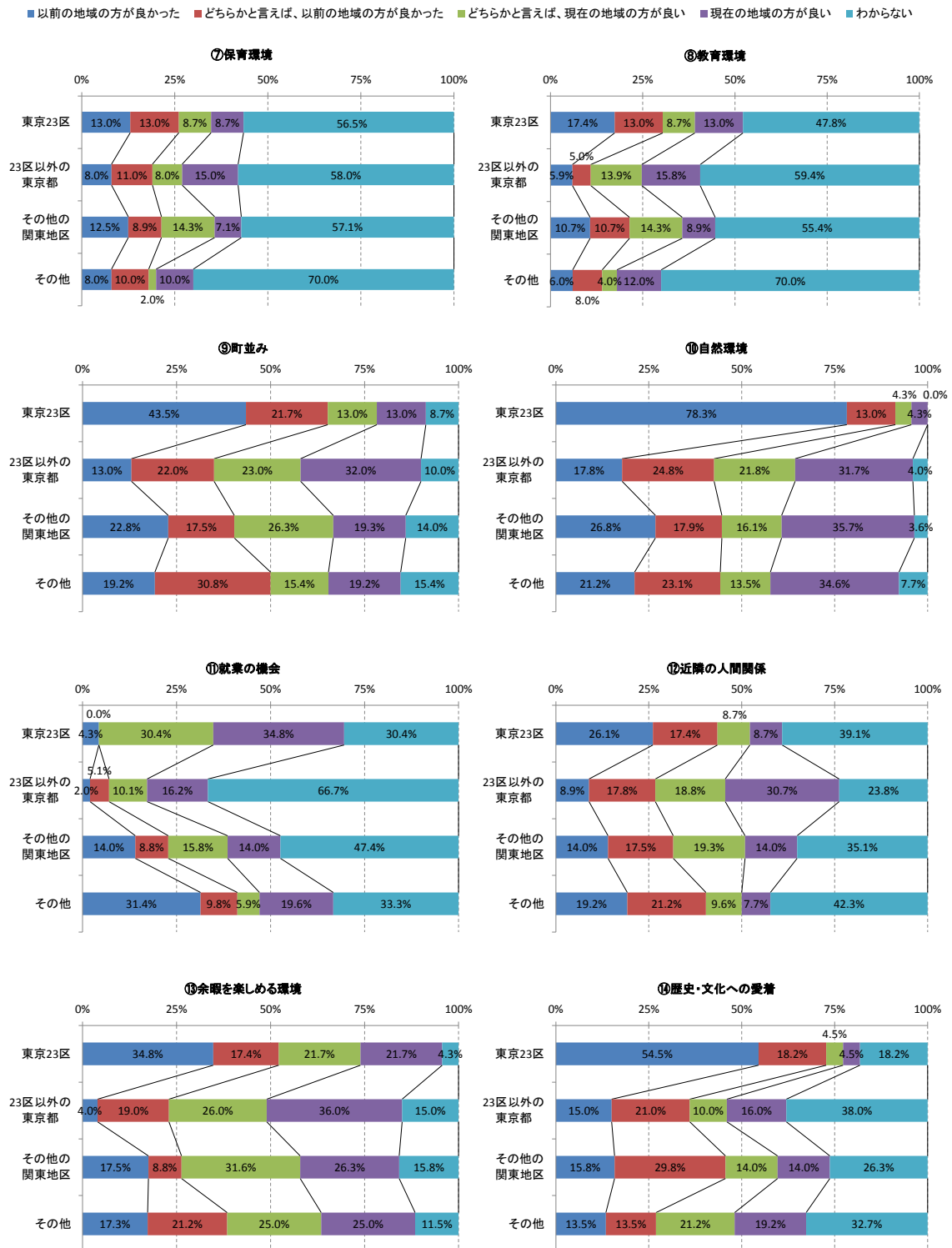
買い物等の日常生活の利便性や交通アクセスについては他の地域よりも改善する余地があると考えられます。

また、保育環境や教育環境はどの地域に居住されている方でも「わからない」という回答が多くなっています。住民の方も保育・教育環境の地域による違いを認識している人は少なく、市で積極的に情報発信をしていけば他市との差別化を図る余地があると考えられます。



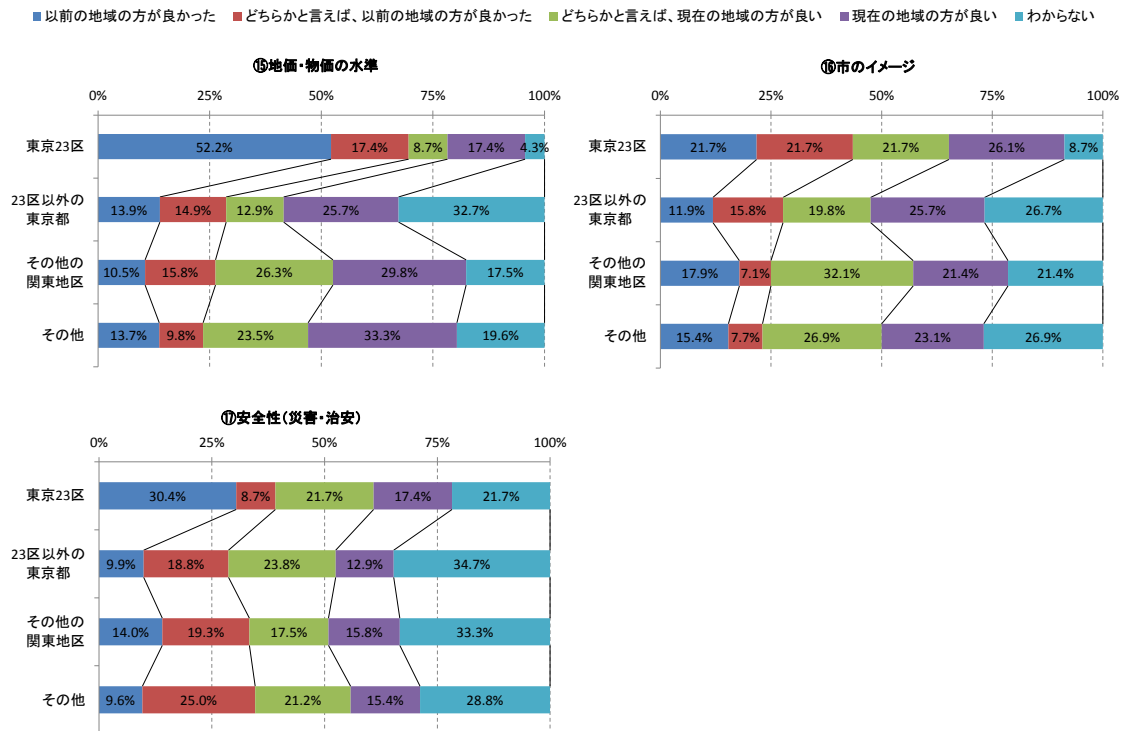
第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

②属性別集計（現在の居住地区別）（つづき）



第二部 居住意向に関するアンケート調査（転出者向け）

②属性別集計（現在の居住地区別）（つづき）



以上